

妙高市

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告書【概要版】

1. 調査目的

本調査は、高齢者の健康状態や日常生活の状況、地域のニーズや課題を把握し、これからの介護保険サービス等、施策の充実を図るための基礎資料とすることを目的として実施しました。

2. 調査方法

- 調査対象者：令和4年12月時点において、市内在住で要介護認定を受けていない65歳以上90歳未満の市民から抽出した2,000人
- 調査期間：令和4年12月13日～令和4年12月28日
- 調査方法：郵送による配布・回収

3. 回収結果

- 調査対象者数：2,000人
- 回収数（回収率）：1,451件（72.6%）
- 有効回答数：1,449件

4. 報告書の見方

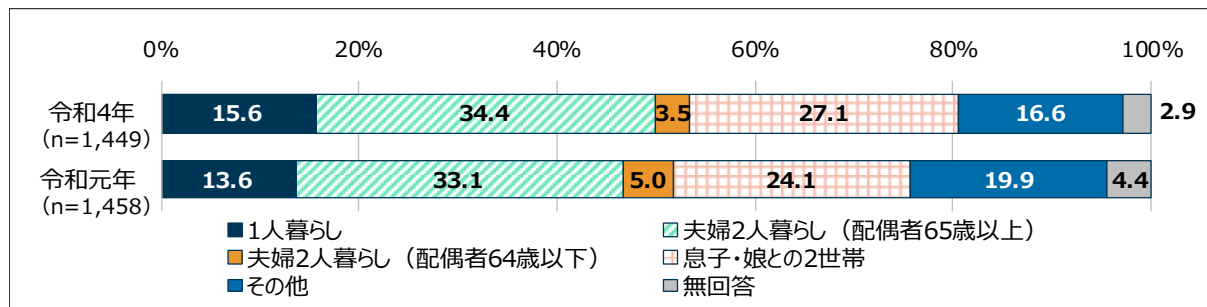
- ① 報告書中の「n」の数値は、設問への回答者数を表します。
- ② 回答の比率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。このため、回答率の合計が100.0%にならない場合があります。
- ③ 回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問については、回答率の合計が100.0%を超えることがあります。
- ④ 年齢など調査対象者の基本属性を中心としたクロス集計結果については、基本属性等に「無回答」があるため、全体の示す数値とは一致しない場合があります。
- ⑤ 設問により、令和元年12月に実施した前回調査結果と比較したグラフや、日常生活圏域別、性別、年齢別等のクロス集計結果のグラフを表記しています。
- ⑥ クロス集計結果のグラフ凡例については、各グラフの始めの部分のみ表示しています。

家族や生活状況について

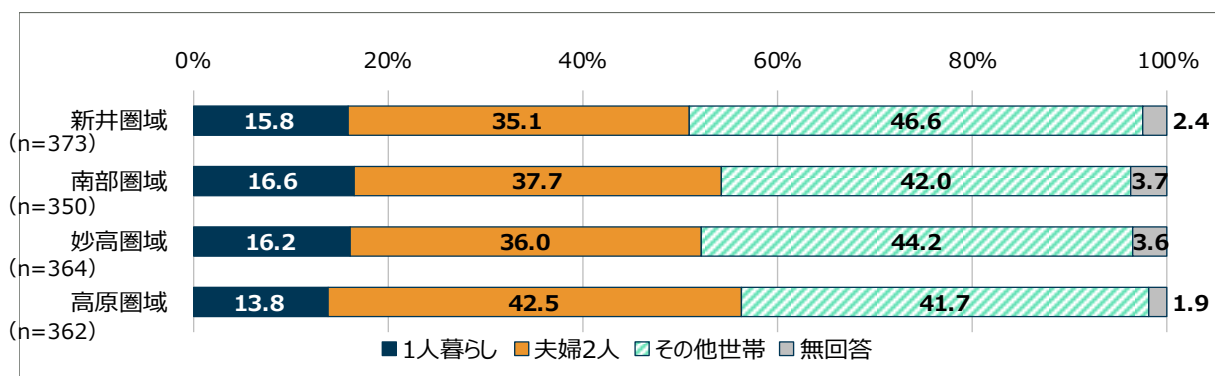
家族構成をお教えてください

全体では「夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 34.4%と最も高く、次いで「息子・娘との 2 世帯」が 27.1%となっています。

日常生活圏域別にみると、高原圏域では、ほかの生活圏域と比べ「夫婦 2 人」の割合が高く、「1 人暮らし」の割合が低くなっています。



※ 以降のクロス集計では、家族構成を「1 人暮らし」と、「夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）」と「夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）」を合わせた「夫婦 2 人」、それ以外の「その他世帯」の 3 分類で集計しています。

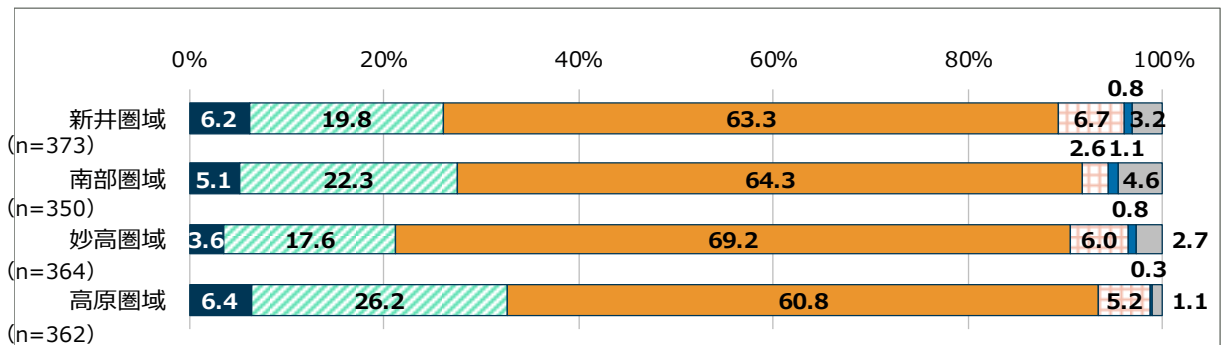
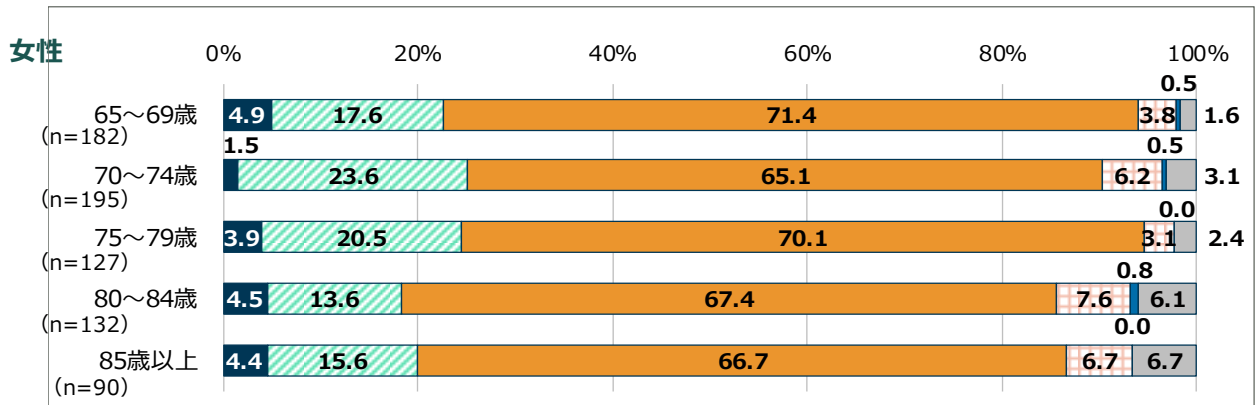
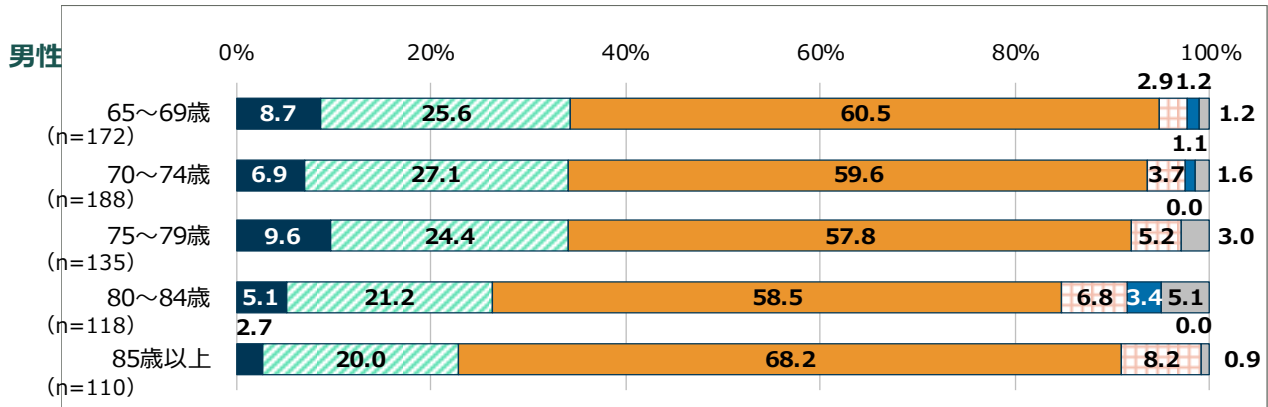
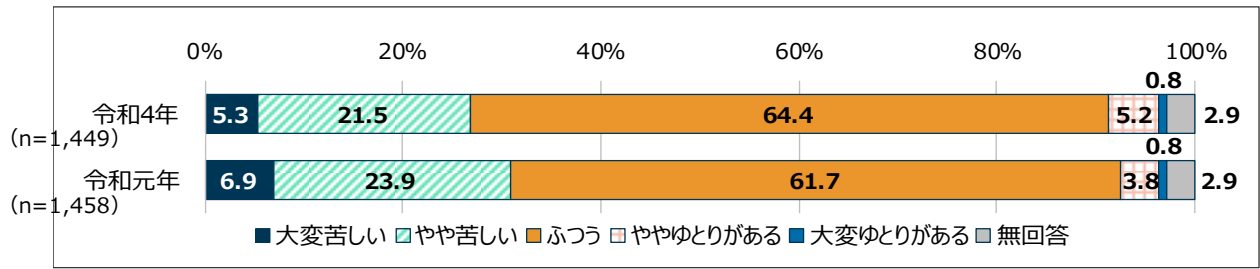


現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

全体では、経済的状況は「ふつう」の割合が最も高く 64.4%となっています。

性別・年齢別にみると、79 歳以下の男性で「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた割合が高くなっています。

日常生活圏域別にみると、高原圏域で「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた割合がやや高く、妙高圏域でやや低くなっています。

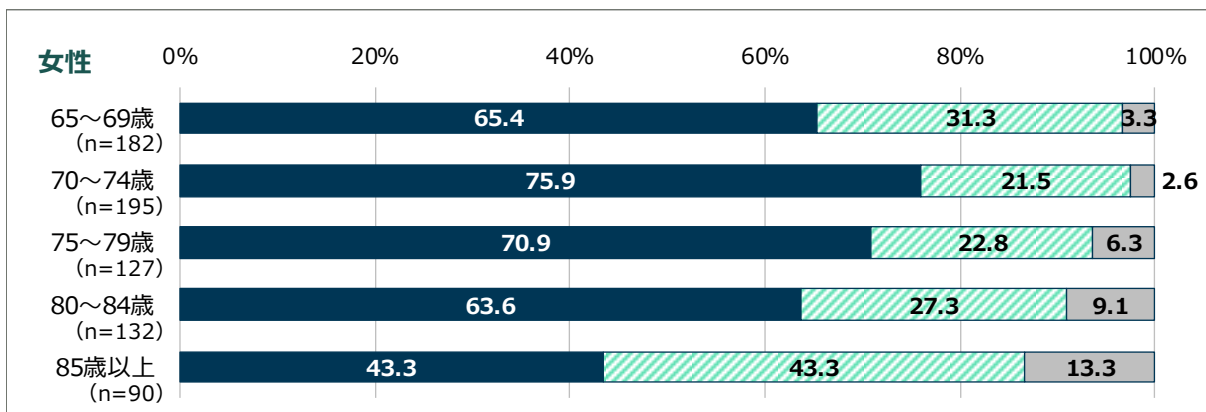
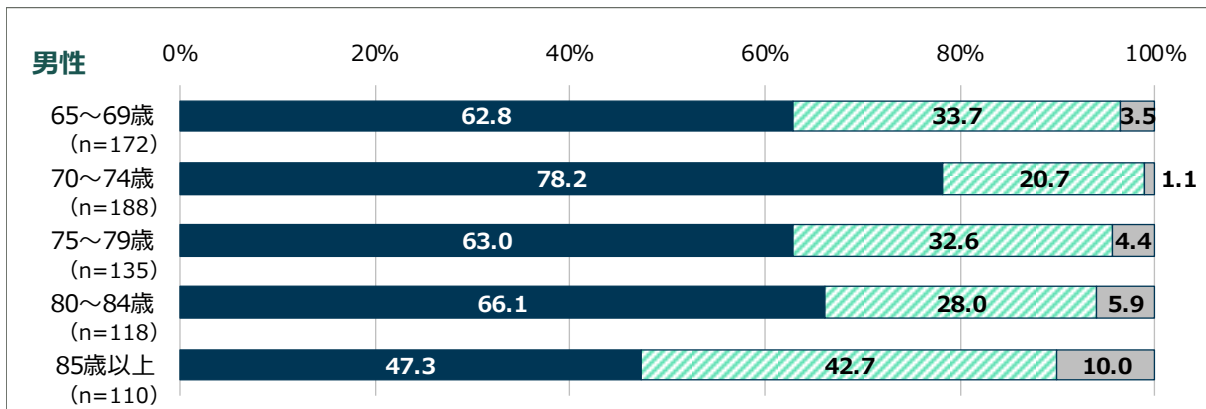
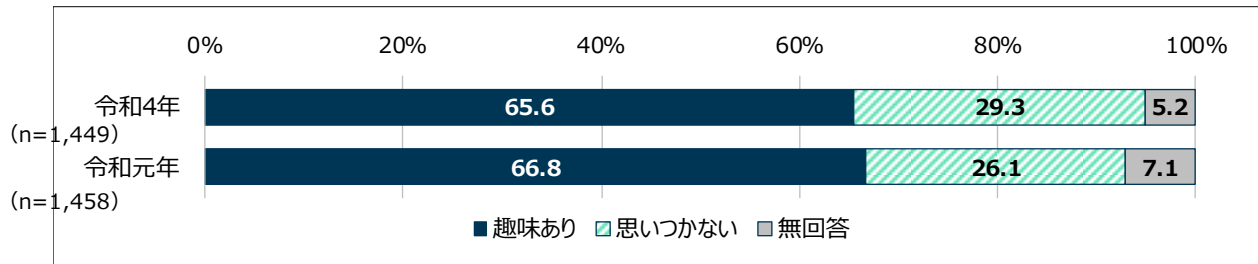


趣味はありますか

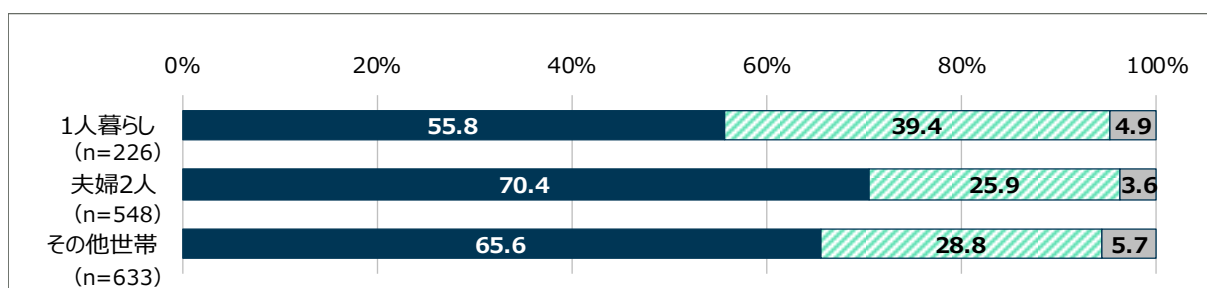
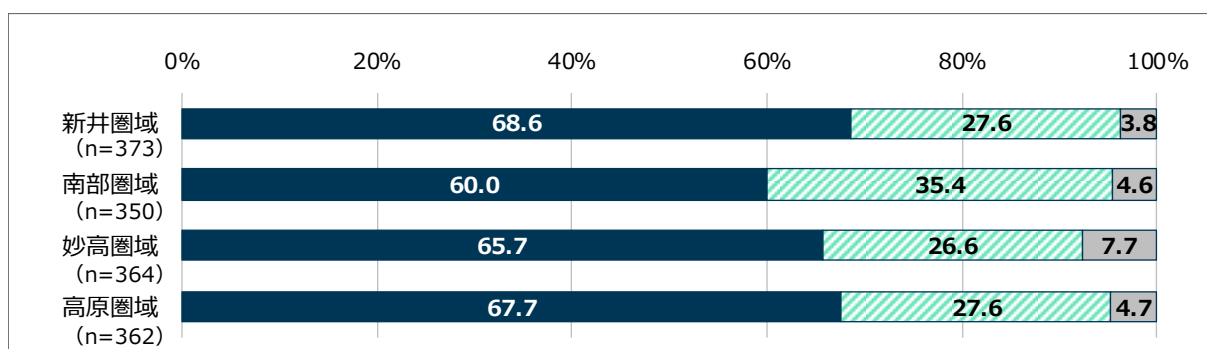
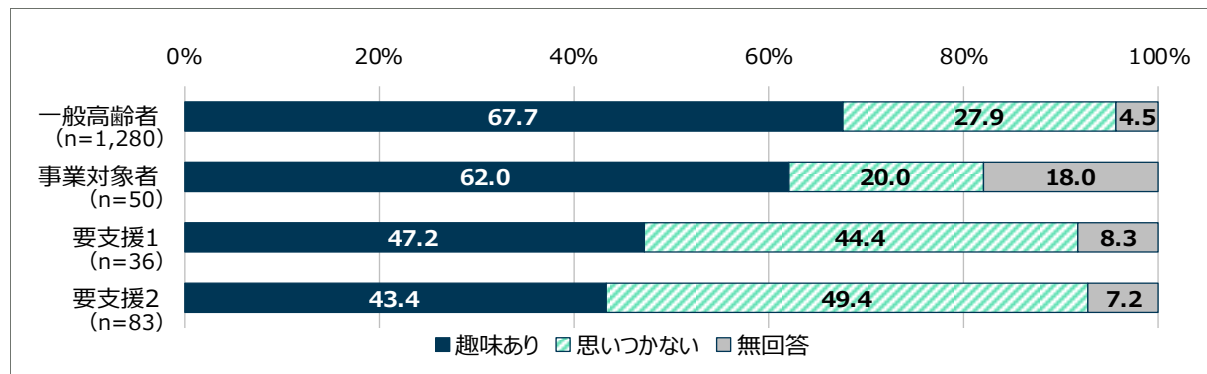
全体では「趣味あり」が 65.6%、「思いつかない」が 29.3%となっています。

具体的な趣味は、畑仕事や家庭菜園といった野菜づくり、ガーデニングや園芸といった花づくりが多く、そのほかにもゴルフや釣りなどのスポーツ、山菜採りなどの山歩き、読書、手芸、カラオケ、料理などさまざまなものがあがっています。

性別・年齢別にみると、数値にばらつきはありますが、男性・女性ともに70～74歳で「趣味あり」の割合が最も高く、75歳以上になると、年齢が上がるにつれて、「はい」の割合が低くなる傾向がみられます。



認定区分別にみると、要支援認定者で「趣味あり」の割合が低くなっています。
 日常生活圏域別にみると、南部圏域で「趣味あり」の割合が低くなっています。
 家族構成別にみると、夫婦2人世帯で「趣味あり」の割合が高く、1人暮らし世帯で低くなっています。

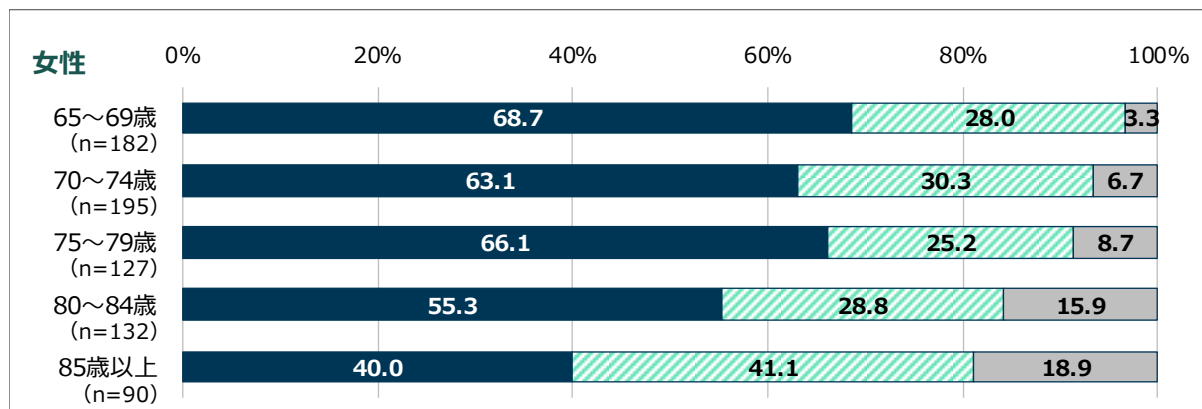
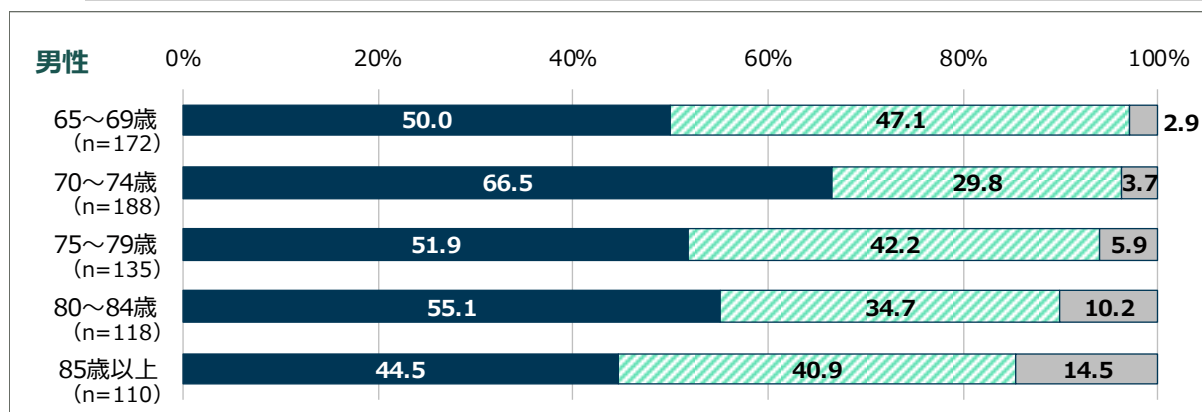
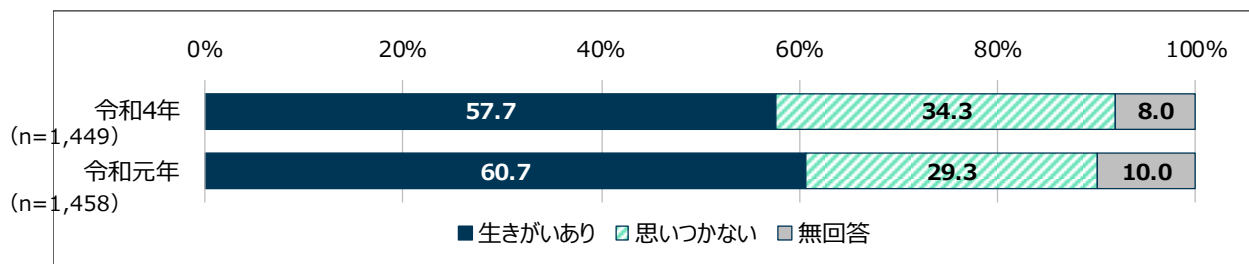


生きがいはありますか

全体では「生きがいあり」が57.7%、「思いつかない」が34.3%となっています。

具体的な生きがいは、孫や子どもといった家族に関することが多く、そのほかにも農作業を含めた仕事や趣味、また、友人との交流や健康で楽しく過ごすことなど、さまざまです。

性別・年齢別にみると、数値にばらつきはありますが、年齢が上がるにつれて「生きがいあり」の割合が低くなる傾向がみられます。



地域での活動について

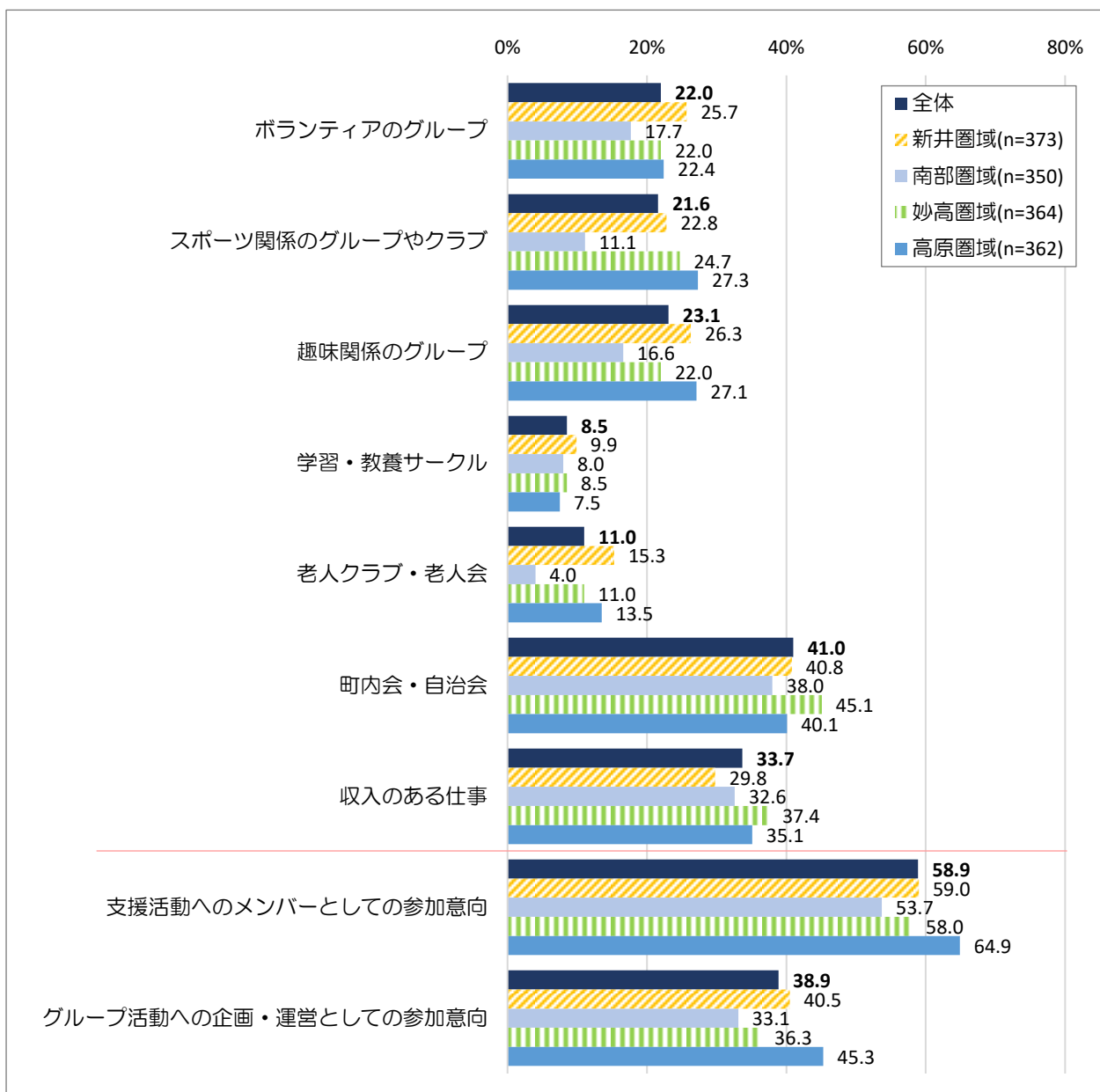
地域活動へ参加している割合と、地域づくり活動への参加意向を圏域別に比較すると、新井圏域では、「ボランティアのグループ」「学習・教養サークル」「老人クラブ・老人会」の割合が高い傾向にあります。

南部圏域では、すべての活動について全体の割合が下回っています。

妙高圏域では、「町内会・自治会」の割合が高い傾向にあります。

高原圏域では、「町内会・自治会」以外の活動について全体の割合を上回っており、「スポーツ関係のグループやクラブ」、「趣味関係のグループ」の割合が最も高くなっています。また、地域づくり活動への参加意向も最も高くなっています。

■ 地域活動への参加状況

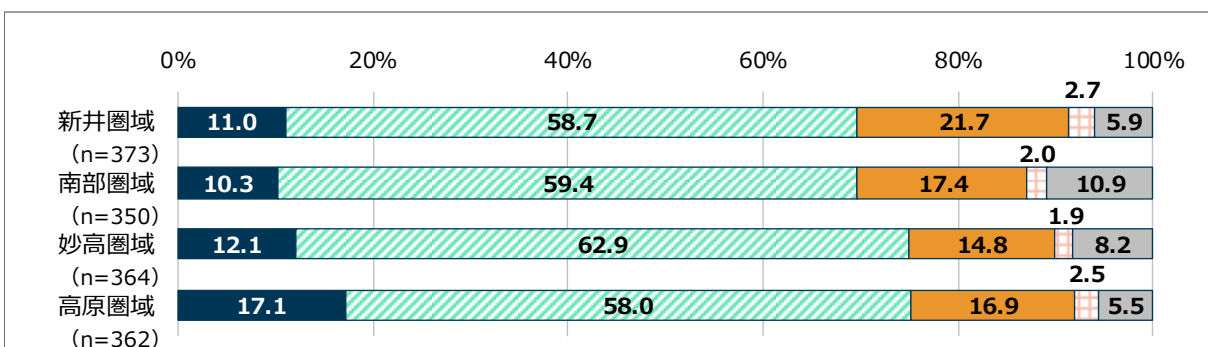
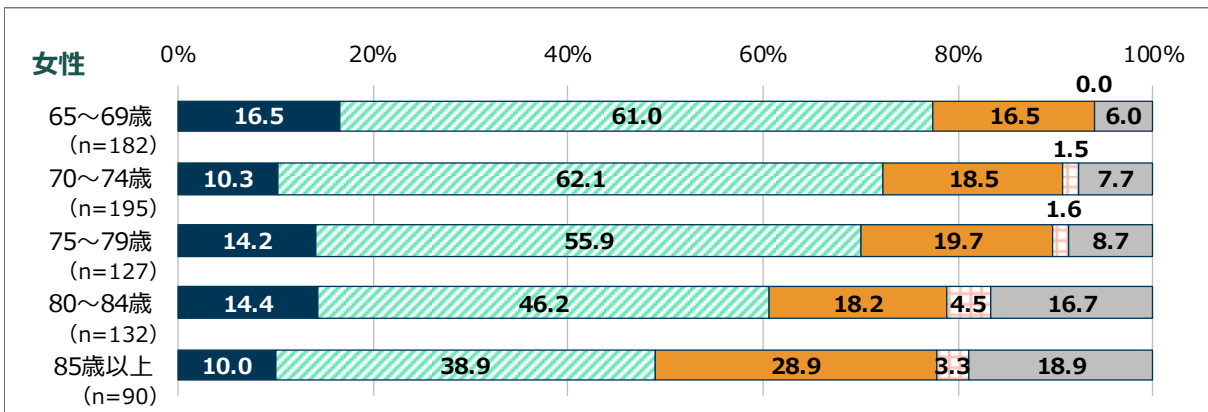
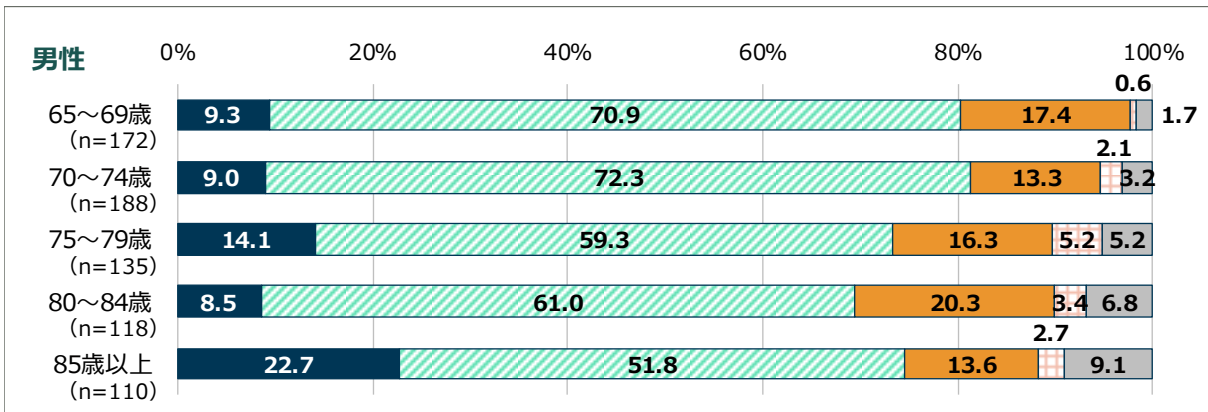
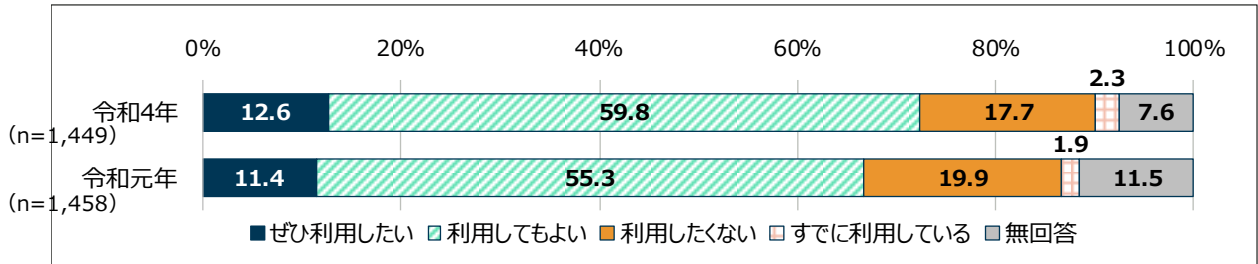


地域住民の有志によって、ゴミ出し、買い物、掃除などを支援する活動により、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動を利用したいと思いますか

全体では「ぜひ利用したい」が 12.6%、「利用してもよい」が 59.8%で、合わせると 72.4%と高くなっている一方で、「すでに利用している」は 2.3%となっています。

性別・年齢別にみると、女性は年齢が上がるほど利用意向が低くなる傾向がみられます。

日常生活圏域別にみると、妙高圏域と高原圏域で利用意向がやや高く、新井圏域と南部圏域でやや低くなっています。

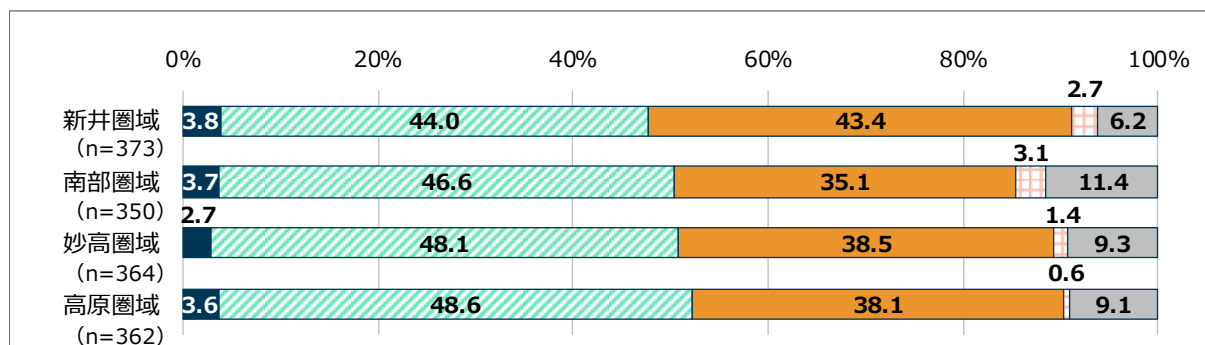
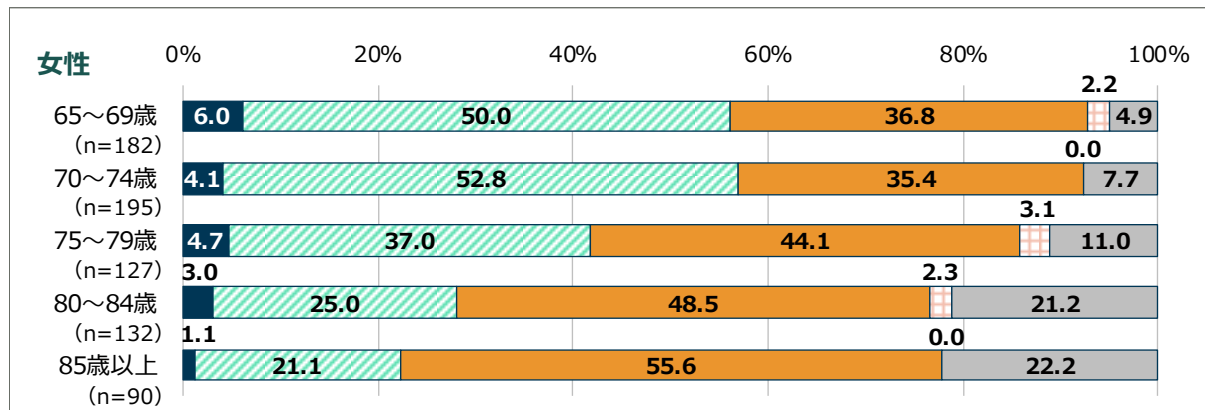
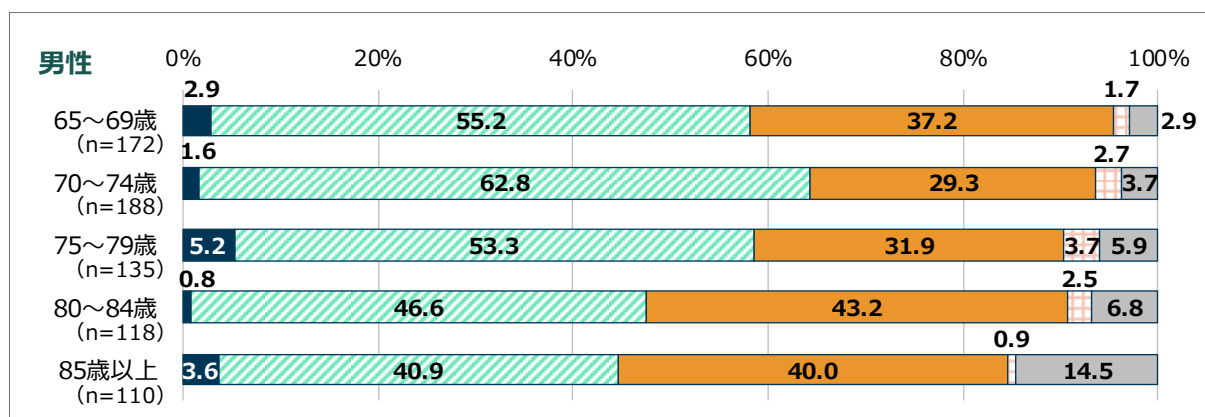
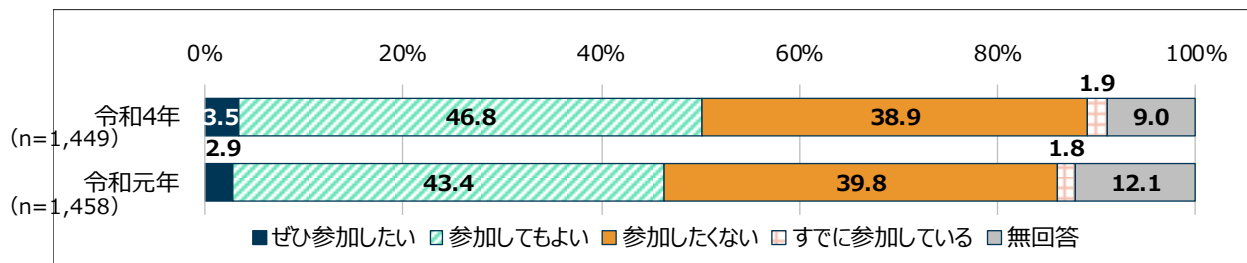


地域住民の有志によって、ゴミ出し、買い物、掃除などを支援する活動により、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動するメンバーとして参加してみたいと思いますか

全体では「参加してもよい」が46.8%と最も高くなっています。

性別・年齢別にみると、全ての年代で、男性の方が参加意向は高くなっていますが、男性・女性ともに年齢が上がるほど参加意向は低くなる傾向がみられます。

日常生活圏域別にみると、新井圏域で「参加したくない」の割合が高くなっています。

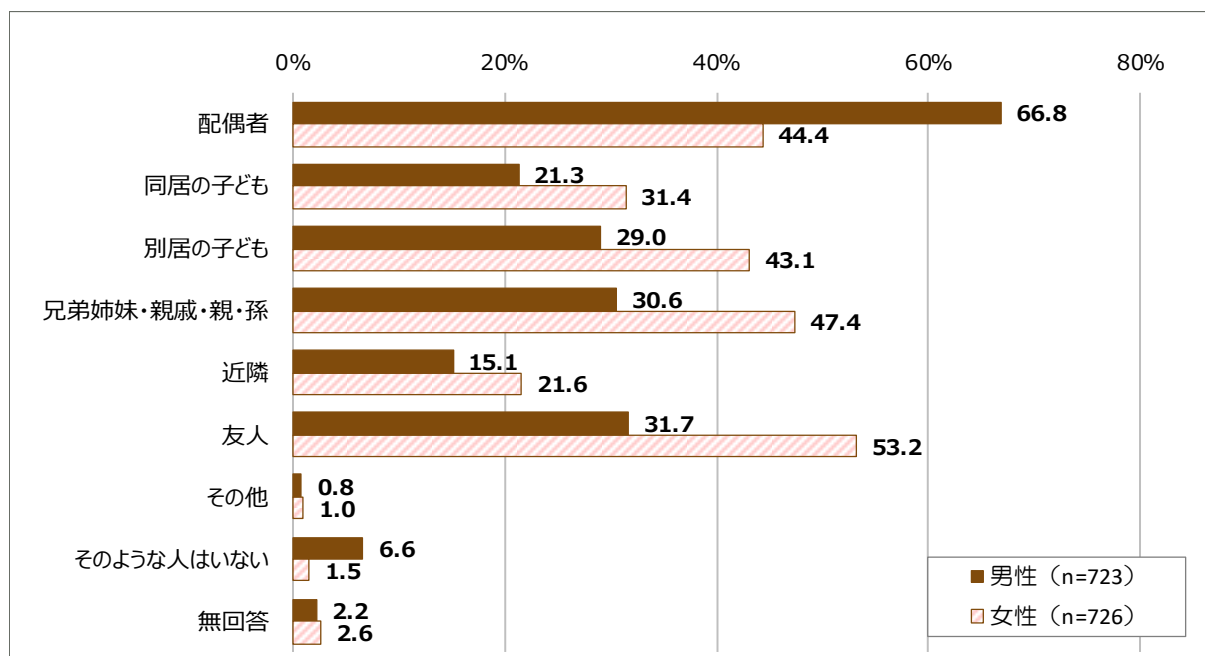
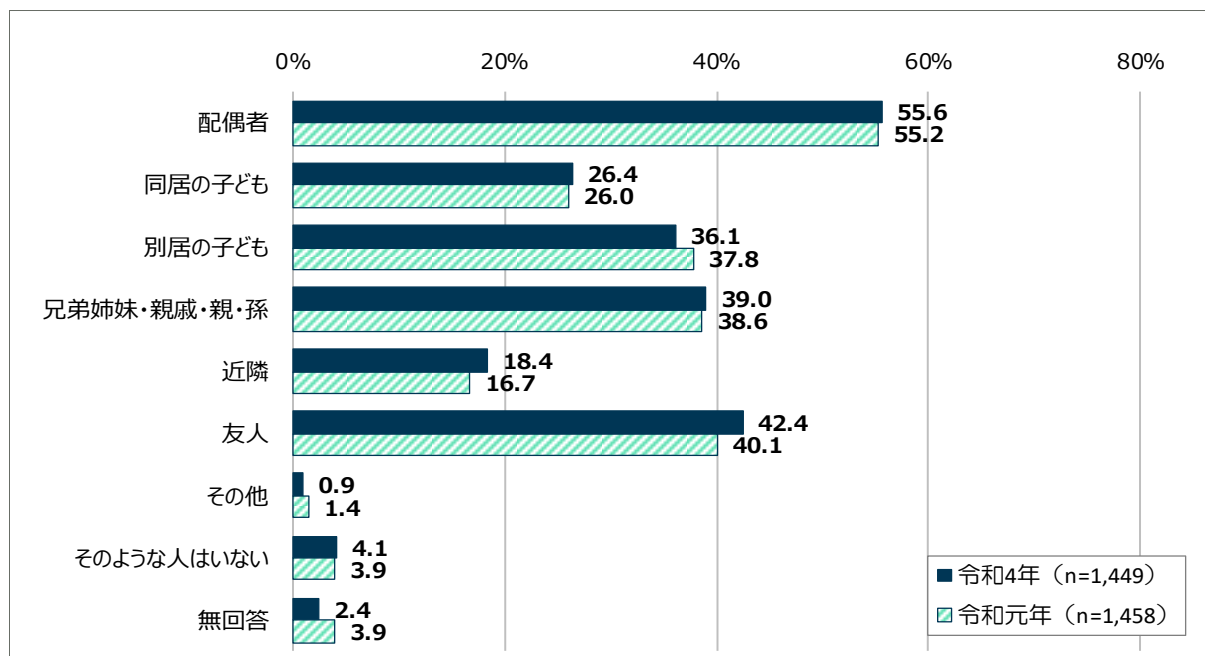


助けあいについて

あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人（いくつでも）

全体では「配偶者」が55.6%と最も高く、次いで「友人」が42.4%となっています。

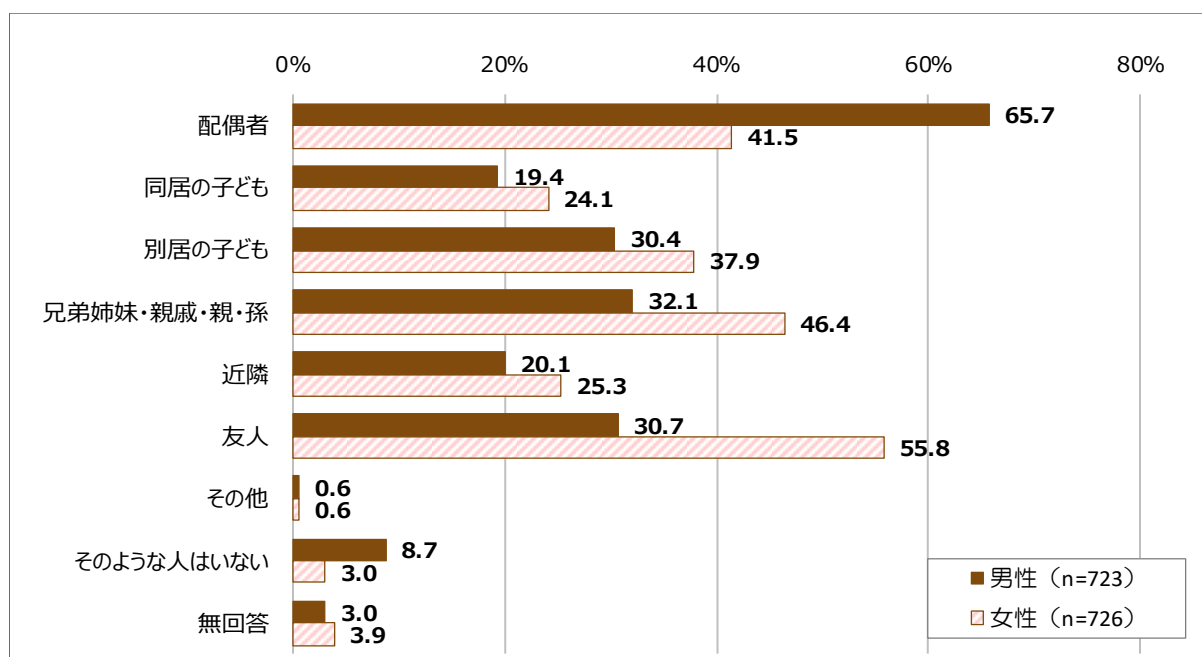
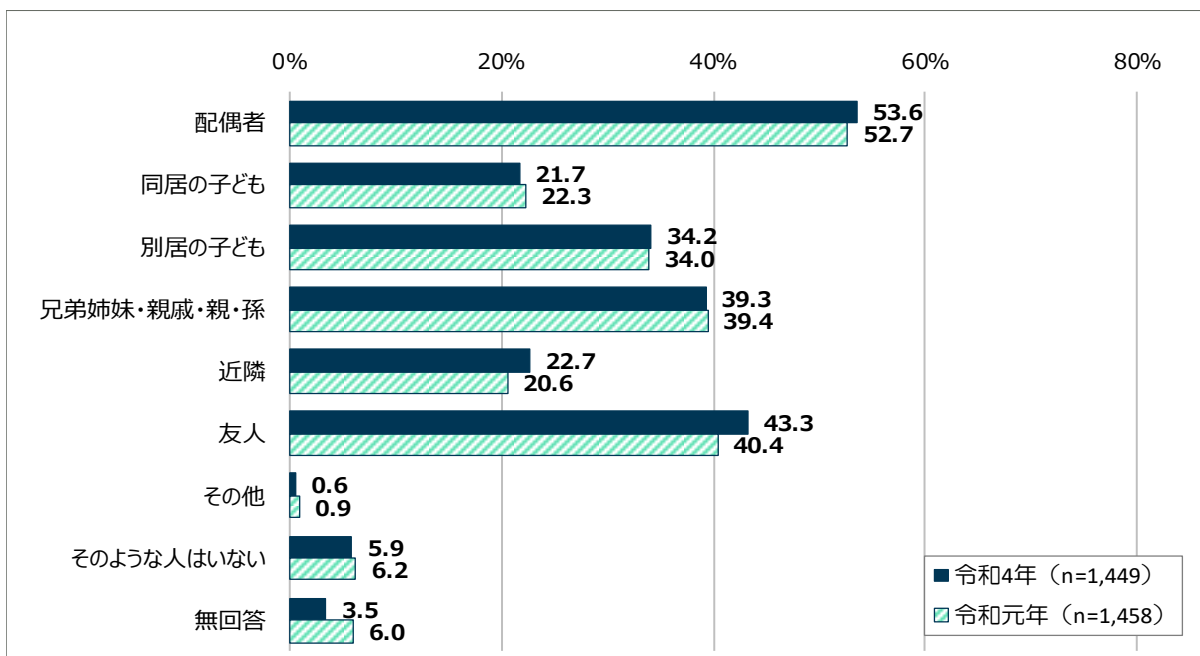
性別で見ると、男性は「配偶者」が66.8%と最も高くなっていますが、女性は「友人」が53.2%と最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が47.4%で、「配偶者」は44.4%となっています。また、男性で「そのような人はいない」割合が高く6.6%となっています。



反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人（いくつでも）

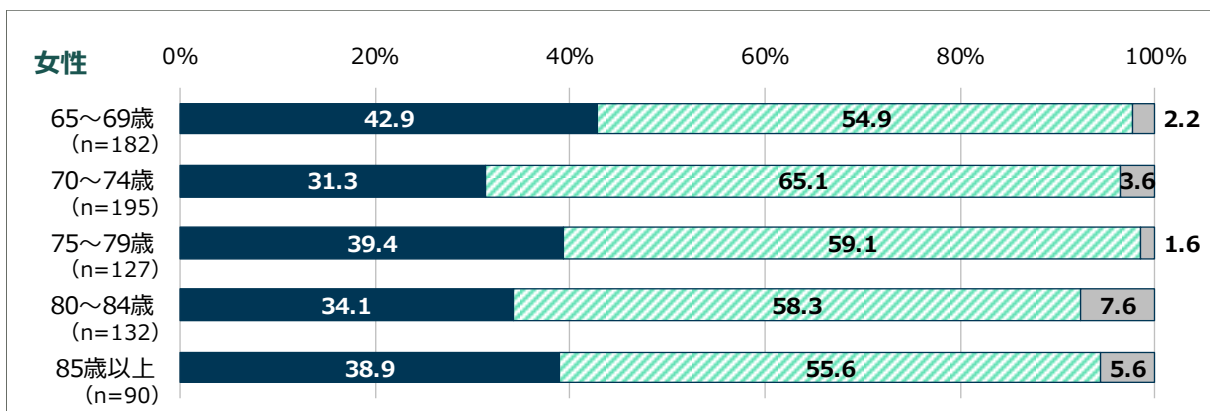
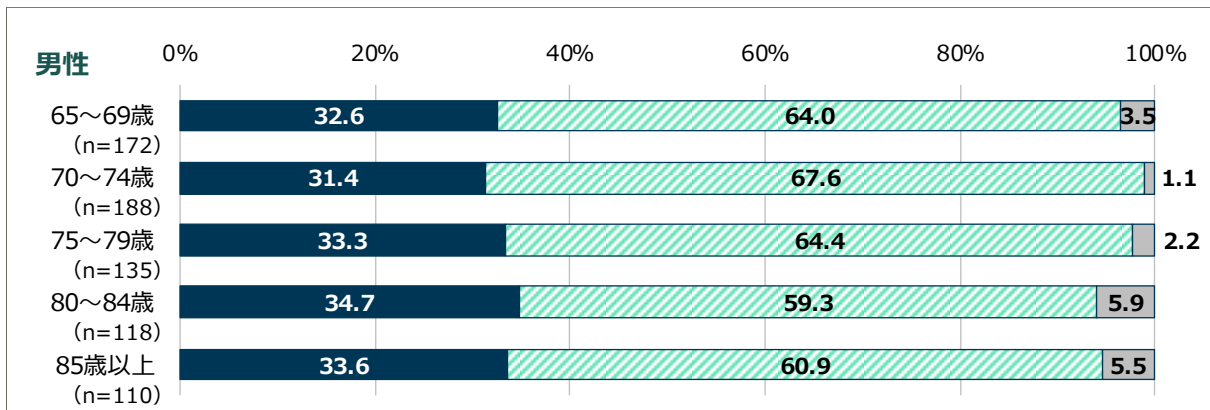
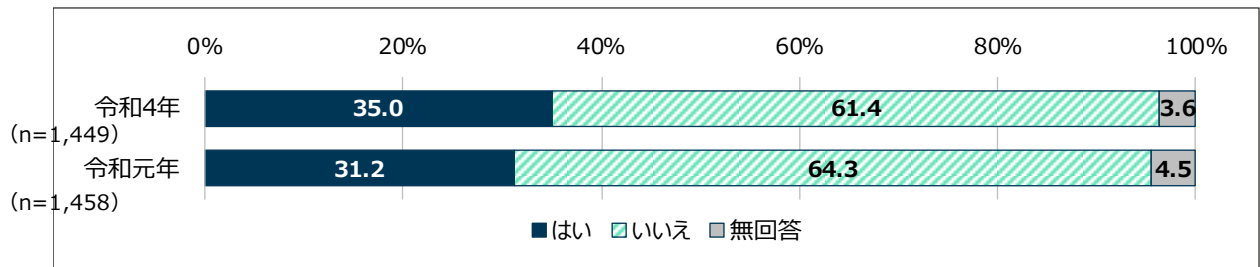
全体では「配偶者」が53.6%と最も高く、次いで「友人」が43.3%となっています。

性別で見ると、男性は「配偶者」が65.7%と最も高くなっていますが、女性は「友人」が55.8%と最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が46.4%で、「配偶者」は41.5%となっています。また、男性で「そのような人はいない」の割合が高く8.7%となっています。



この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

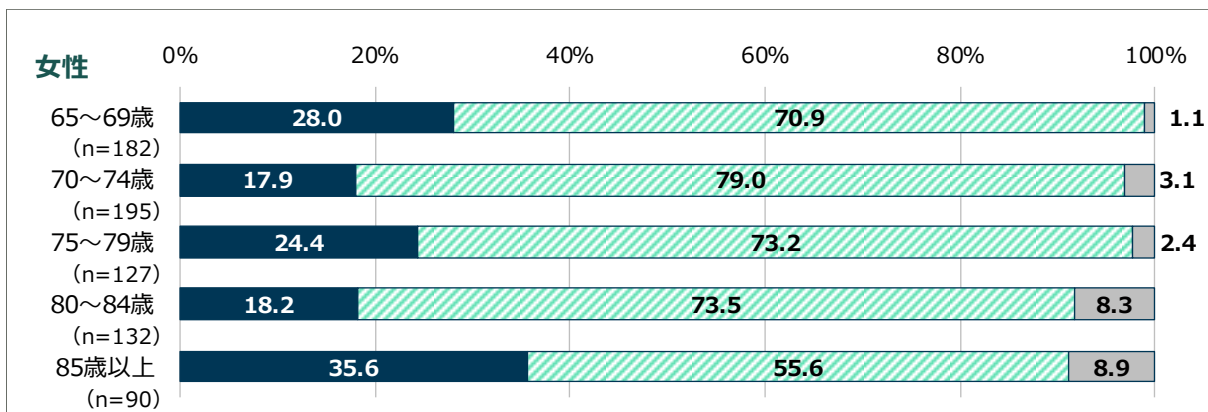
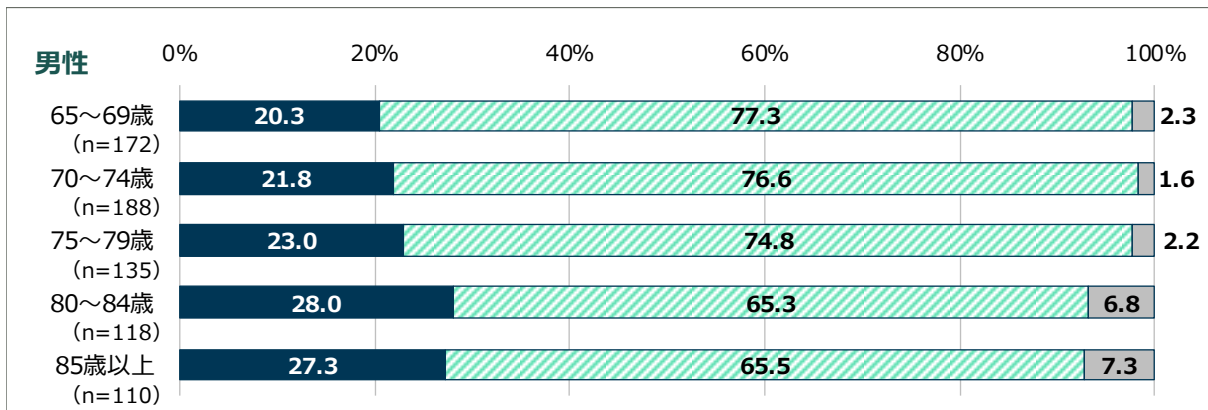
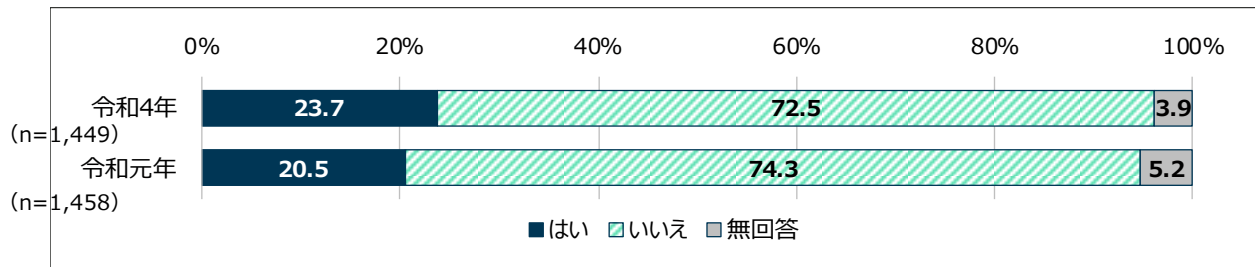
全体では「はい」が35.0%、「いいえ」が61.4%となっています。
性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。



この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

全体では「はい」が23.7%、「いいえ」が72.5%となっています。

性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。

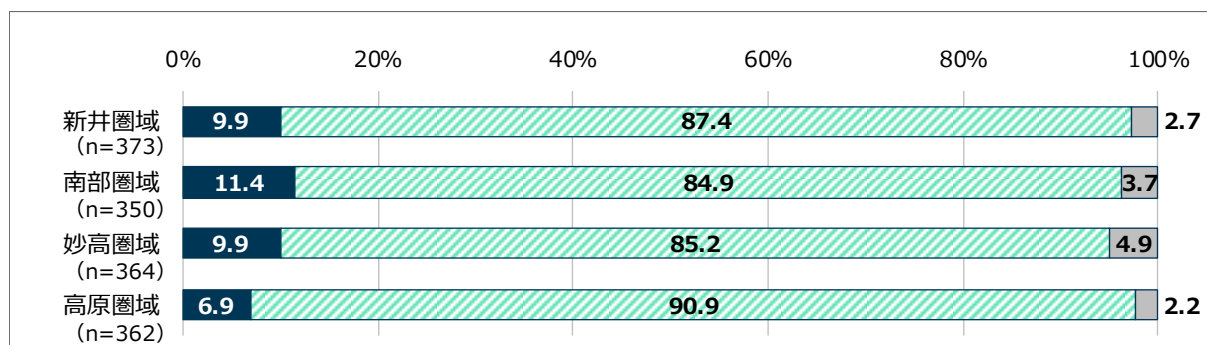
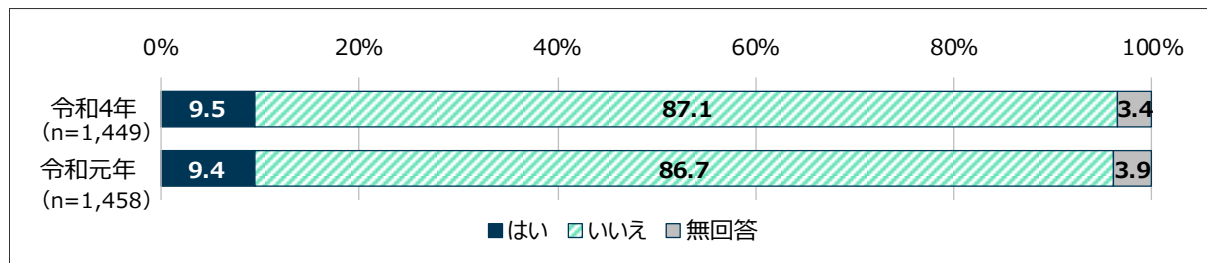


認知症に関する支援について

認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある方がいますか

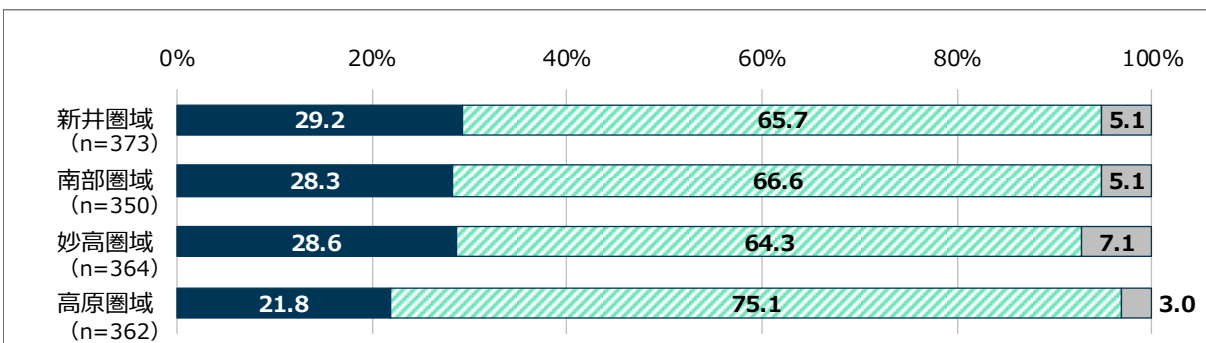
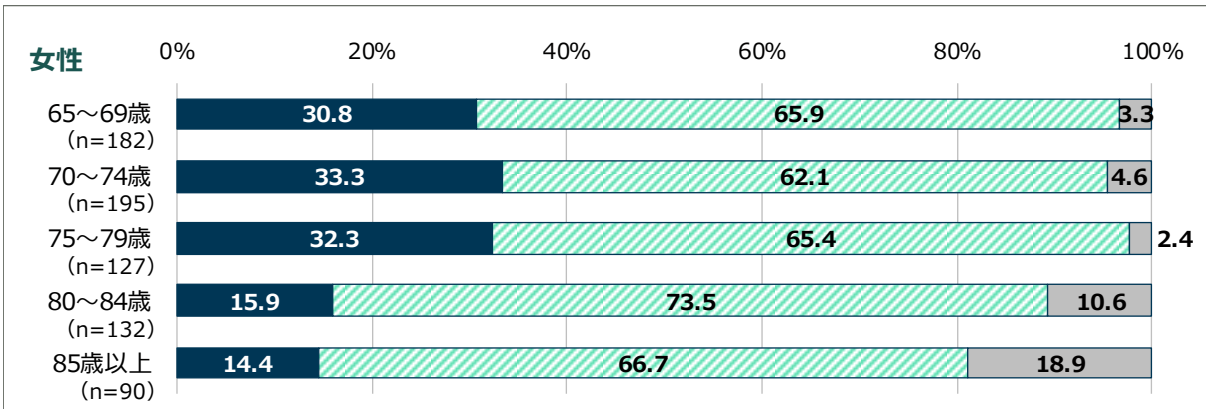
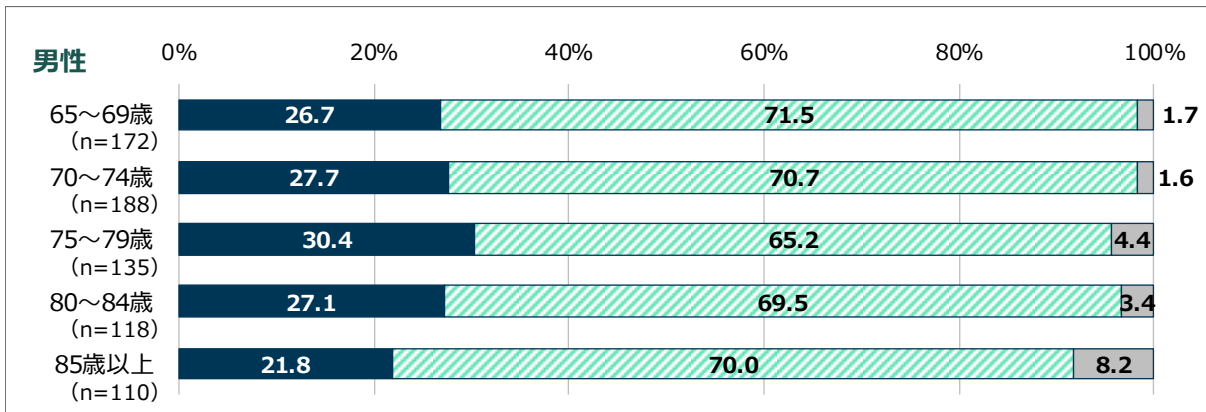
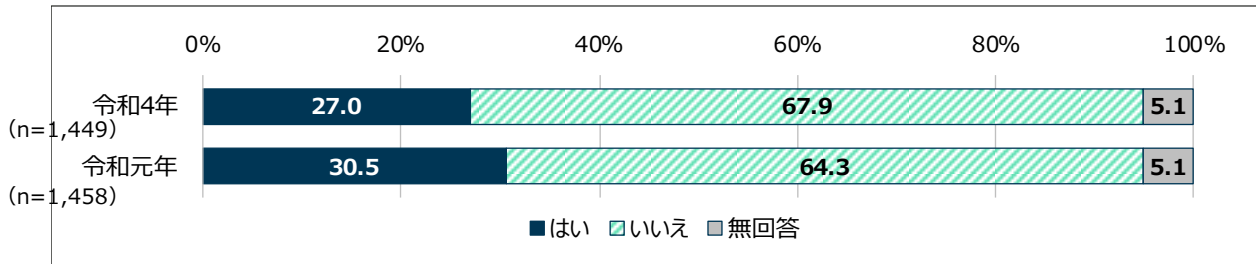
全体では「はい」が9.5%、「いいえ」が87.1%となっています。

日常生活圏域別にみると、高原圏域で「はい」の割合が低くなっています。



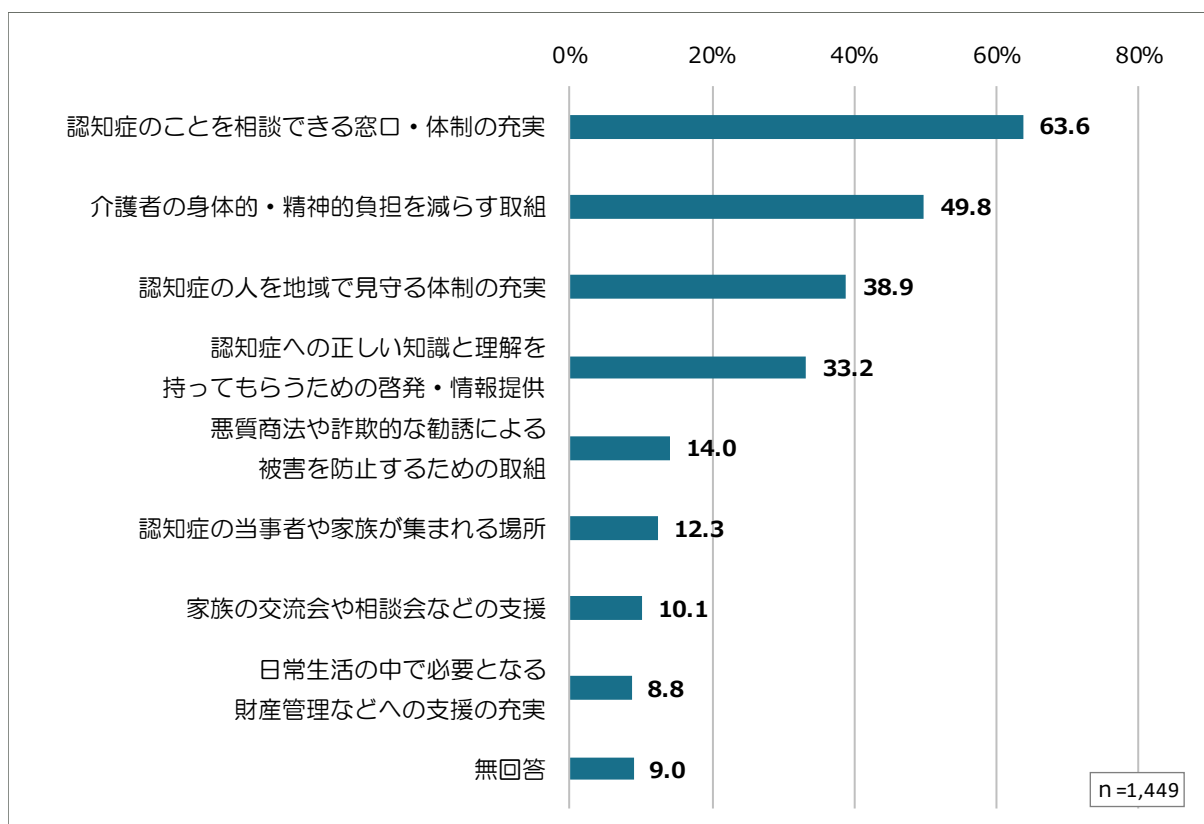
認知症に関する相談窓口を知っていますか

全体では「はい」が27.0%、「いいえ」が67.9%となっています。
 性別・年齢別にみると、男性、女性ともに全年齢で認知度は低い状況です。
 日常生活圏域別にみると、高原圏域で「はい」の割合が低くなっています。



あなたは認知症の方への支援として、どのような取組が必要であると思いますか（3つまで）

全体では「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」が 63.6%と最も高く、次いで「介護者の身体的・精神的負担を減らす取組」が 49.8%となっています。



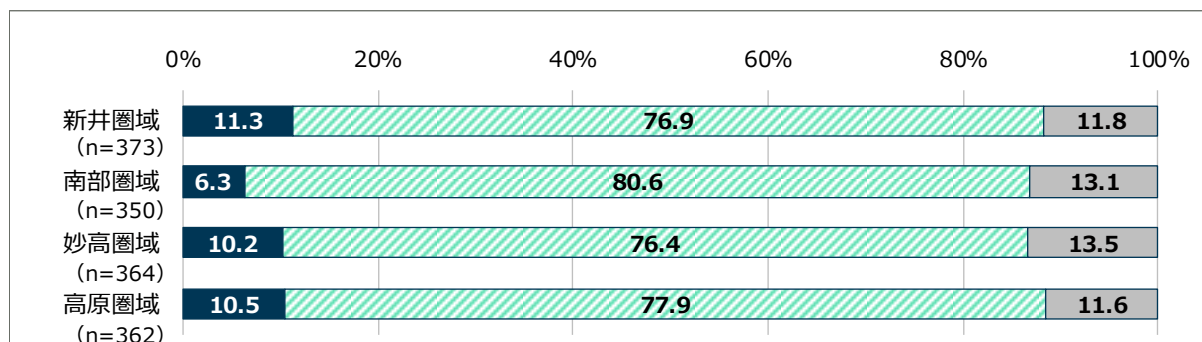
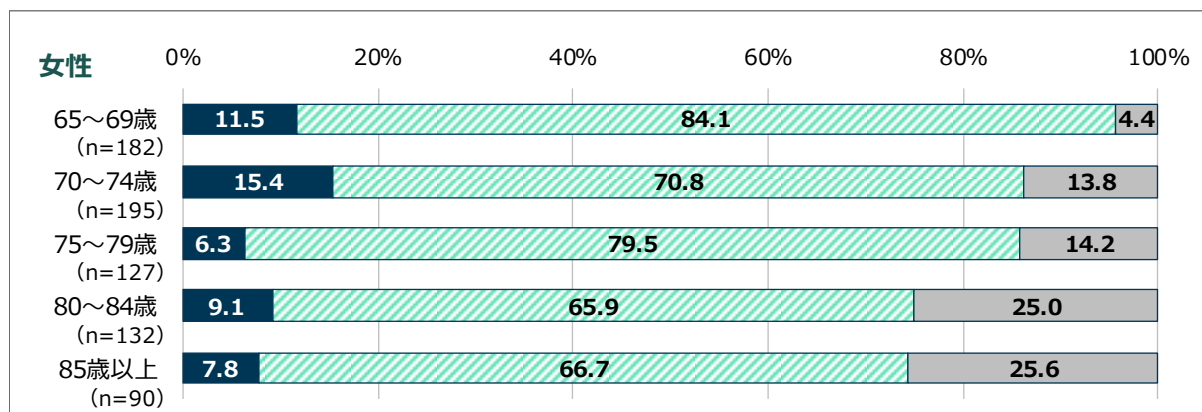
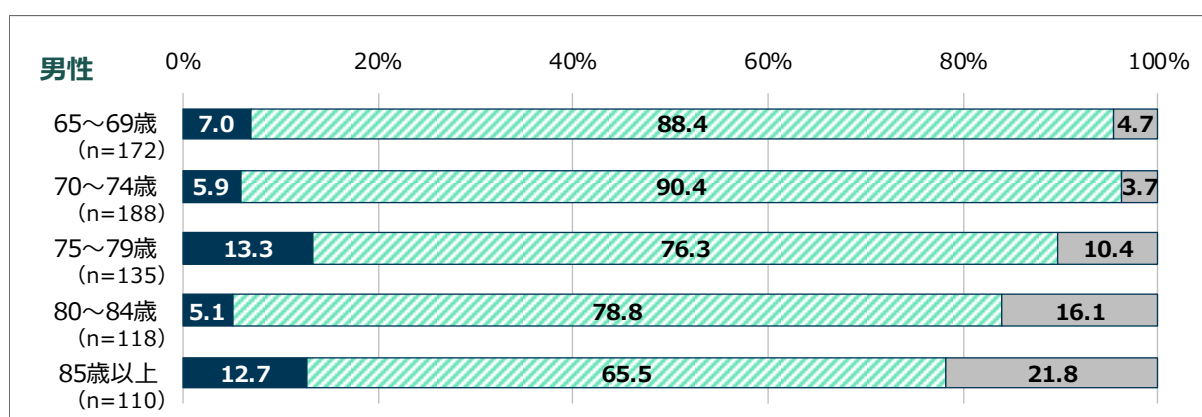
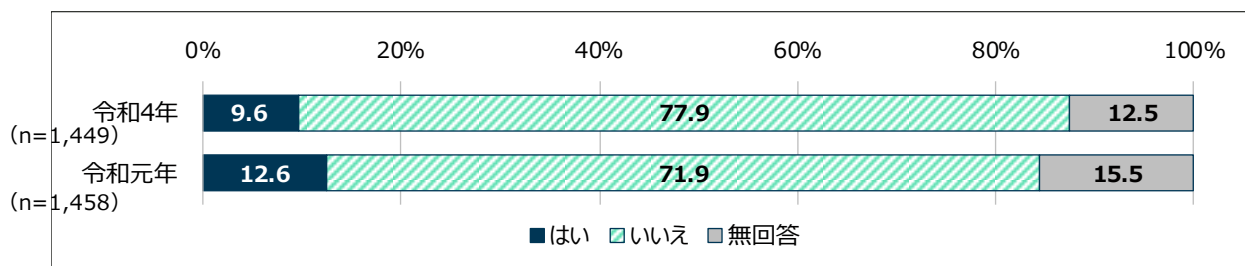
介護予防サポーターの活動に参加したいと思いますか

※「介護予防サポーター」とは、介護予防活動を行うボランティアのことで、ロコモ健診や地域の茶の間のスタッフなどを行います。

全体では「はい」は 9.6%となっており、令和元年の前回調査より 3.0 ポイント減少しています。「いいえ」は 77.9%となっています。

性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。

日常生活圏域別にみると、南部圏域で「はい」の割合が低くなっています。



評価項目別のリスク分析結果

1. 運動器機能

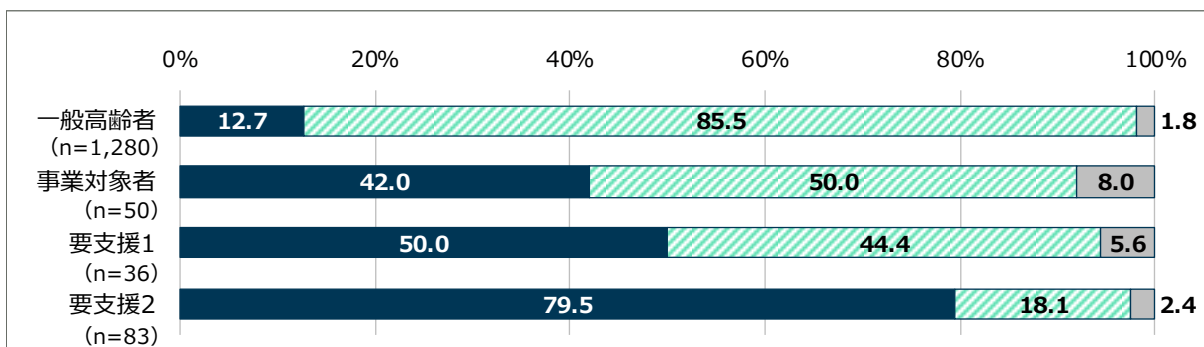
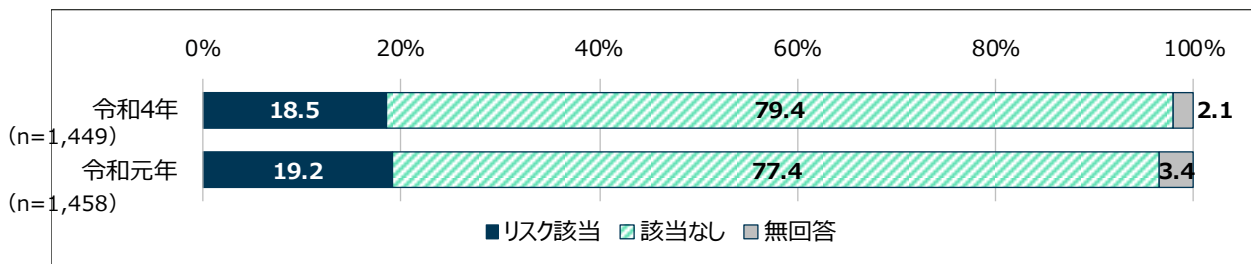
■運動器の機能低下 判定基準

設問	0点	1点
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない	3. できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない	3. できない
15分くらい続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない	3. できない
過去1年間に転んだ経験がありますか	3. ない	1. 何度もある 2. 1度ある
転倒に対する不安は大きいですか	3. あまり不安ではない 4. 不安ではない	1. とても不安である 2. やや不安である

5項目の合計得点	2点以下	3点以上
運動器の機能低下：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

全体では、運動器の機能低下のリスク該当者は18.5%となっています。

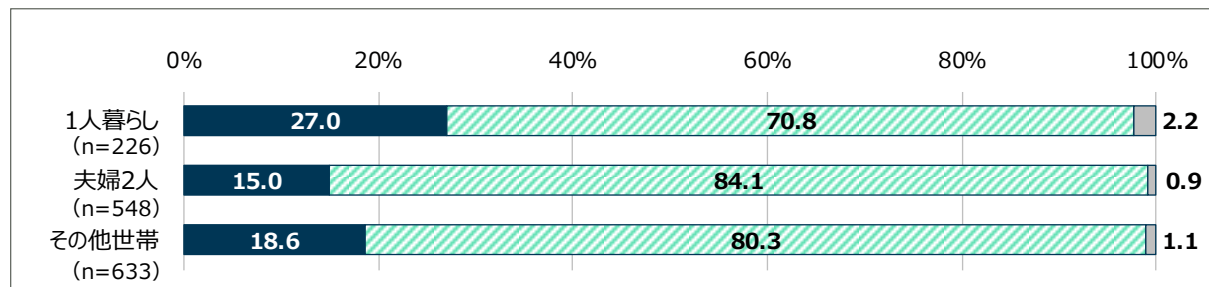
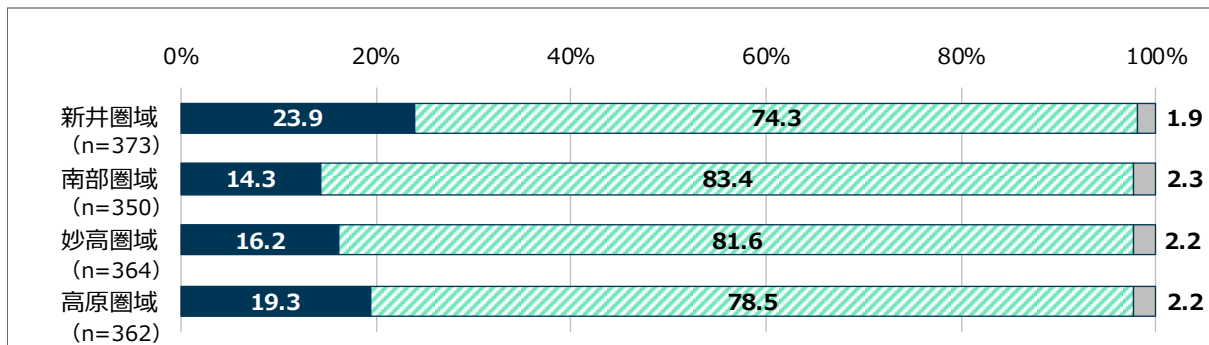
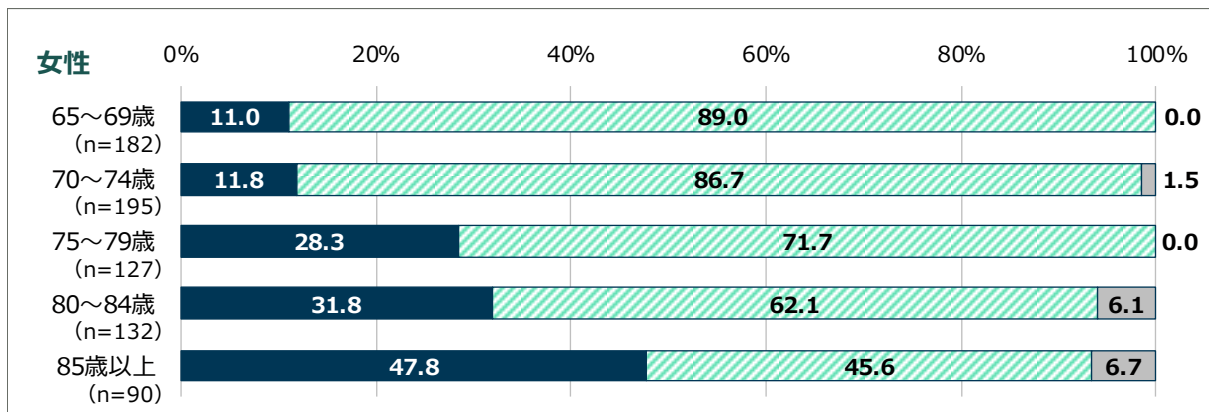
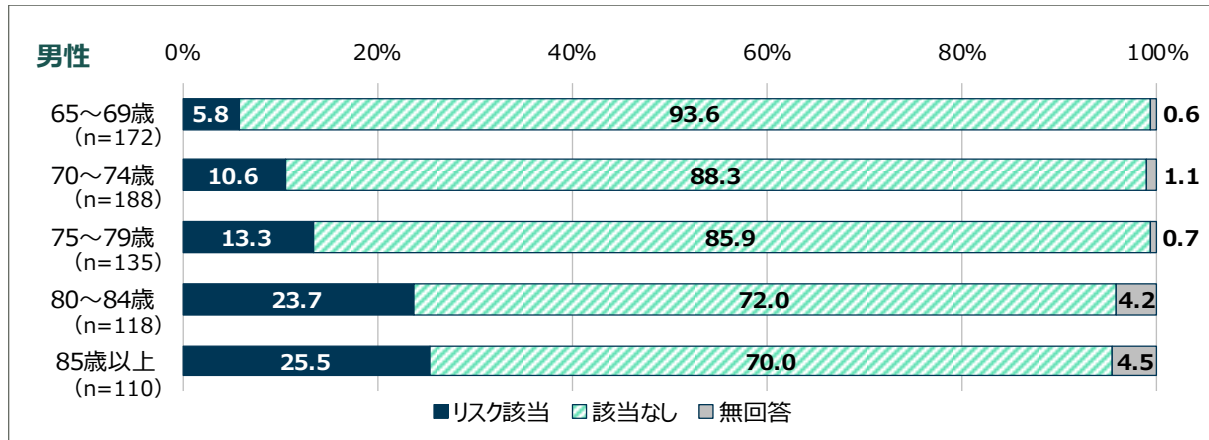
認定区分別でみると、一般高齢者以外で「リスク該当」の割合が高く、特に要支援2では「リスク該当」の割合が最も高く79.5%となっています。



性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「リスク該当」の割合が高く、また、男性・女性ともに年齢が上がるほど「リスク該当」の割合が高くなっています。

日常生活圏域別にみると、新井圏域で「リスク該当」の割合が高く、最も低い南部圏域との差は9.6ポイントとなっています。

家族構成別にみると、1人暮らし世帯で「リスク該当」の割合が高く27.0%となっています。



2. 転倒

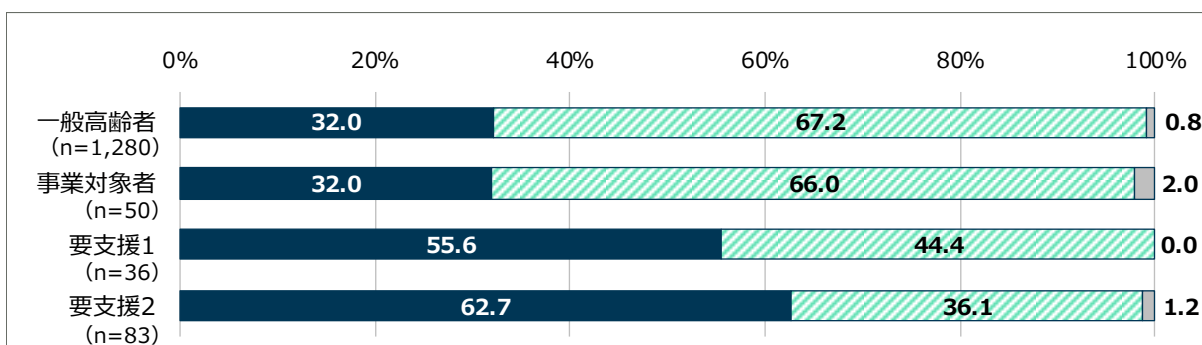
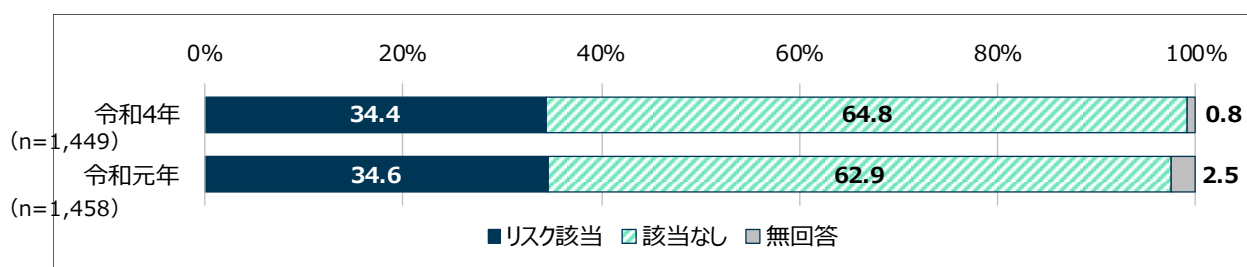
■ 転倒リスク 判定基準

設問	0点	1点
過去1年間に転んだ経験がありますか	3. ない	1. 何度もある 2. 1度ある

1項目の合計得点	0点	1点
転倒リスク：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

全体では、転倒のリスク該当者は34.4%となっています。

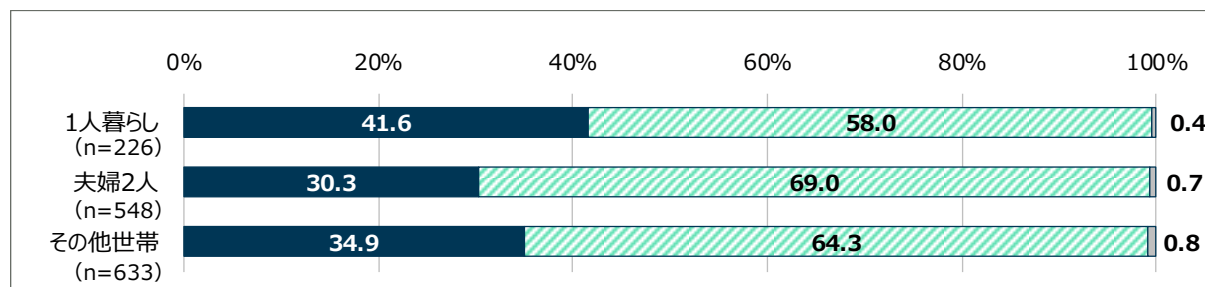
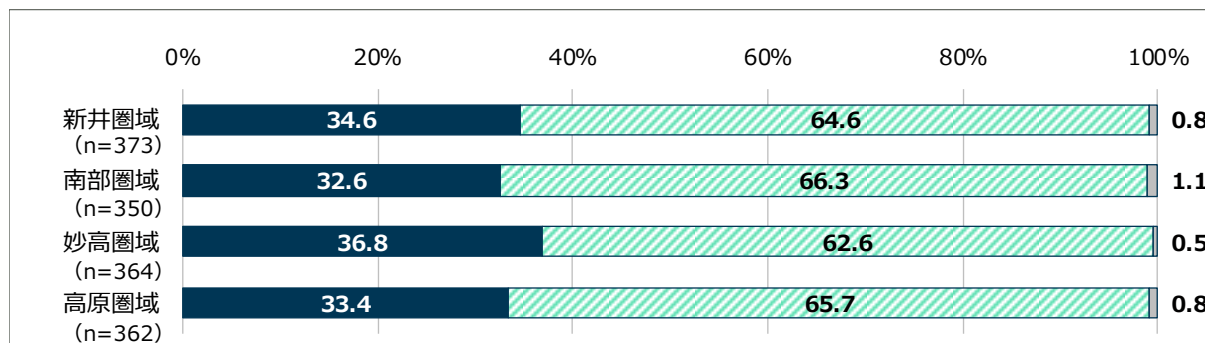
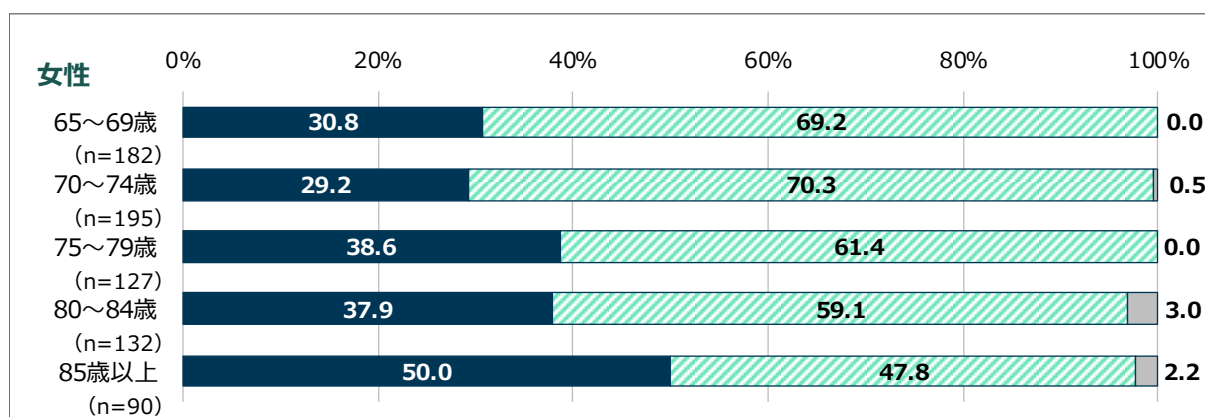
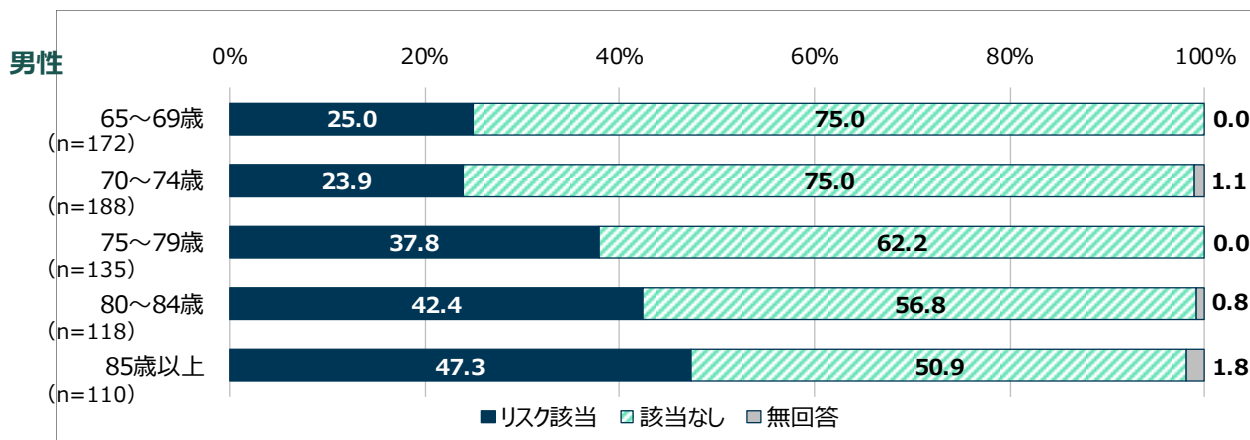
認定区別でみると、要支援認定者で「リスク該当」の割合が高く、最も高い要支援2は62.7%となっています。



性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるほど「リスク該当」の割合が高くなる傾向がみられます。

日常生活圏域別にみると、妙高圏域で「リスク該当」の割合がやや高く、南部圏域でやや低くなっています。

家族構成別にみると、1人暮らし世帯で「リスク該当」の割合が高く41.6%となっています。



3. 閉じこもり

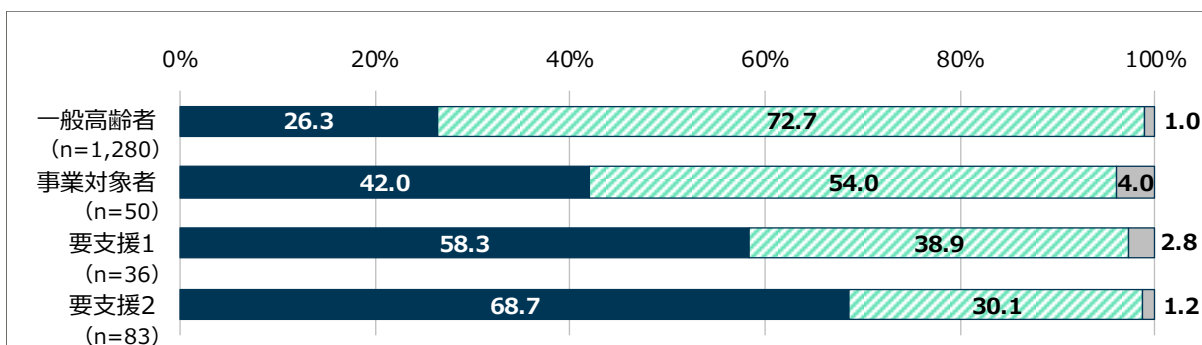
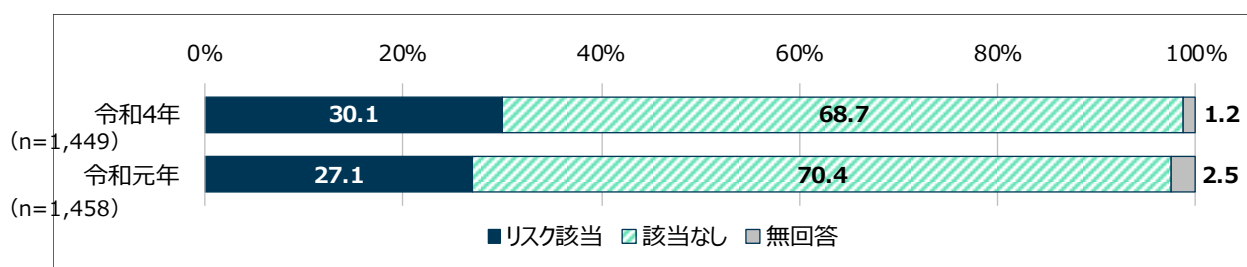
■ 閉じこもり傾向 判定基準

設問	0点	1点
週に1回以上は外出していますか	3. 週2~4回 4. 週5回以上	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

1項目の合計得点	0点	1点
閉じこもり傾向：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

全体では、閉じこもり傾向のリスク該当者は30.1%となっています。

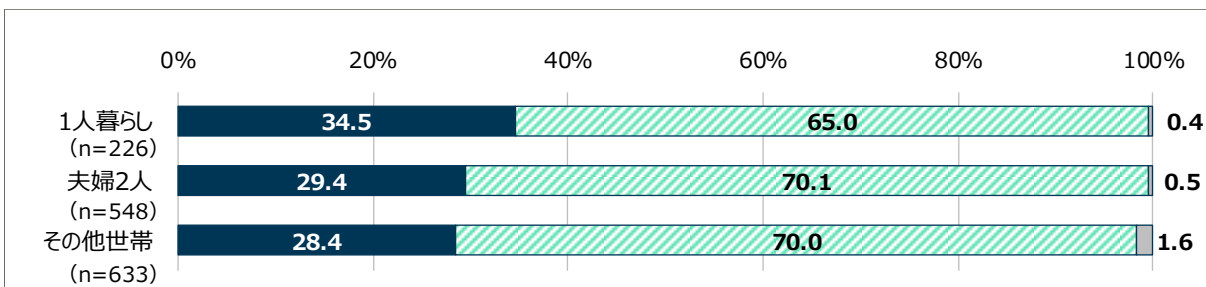
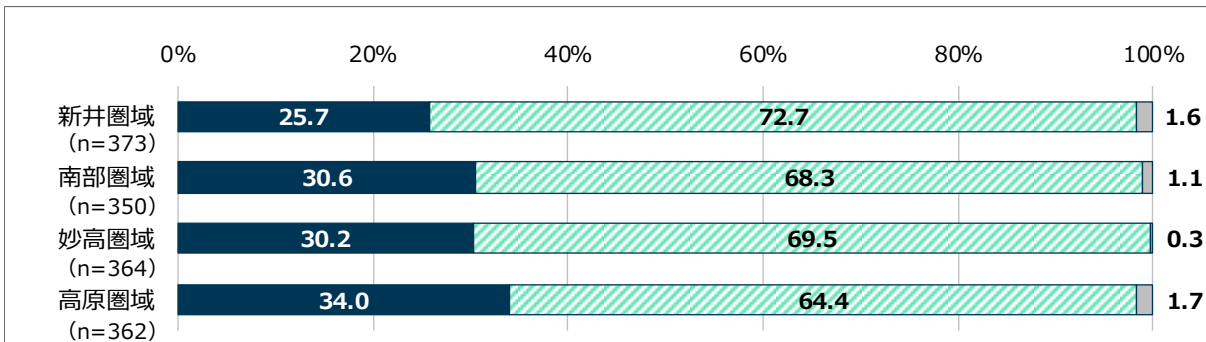
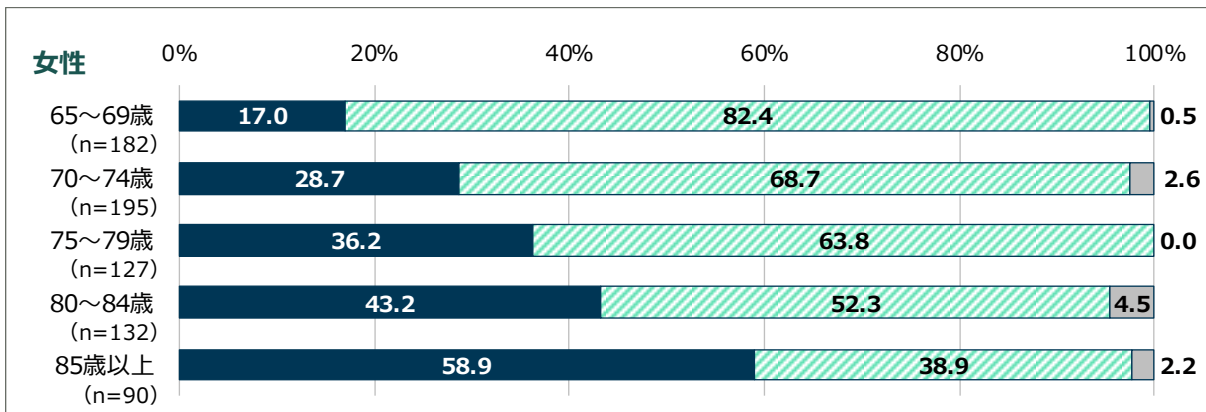
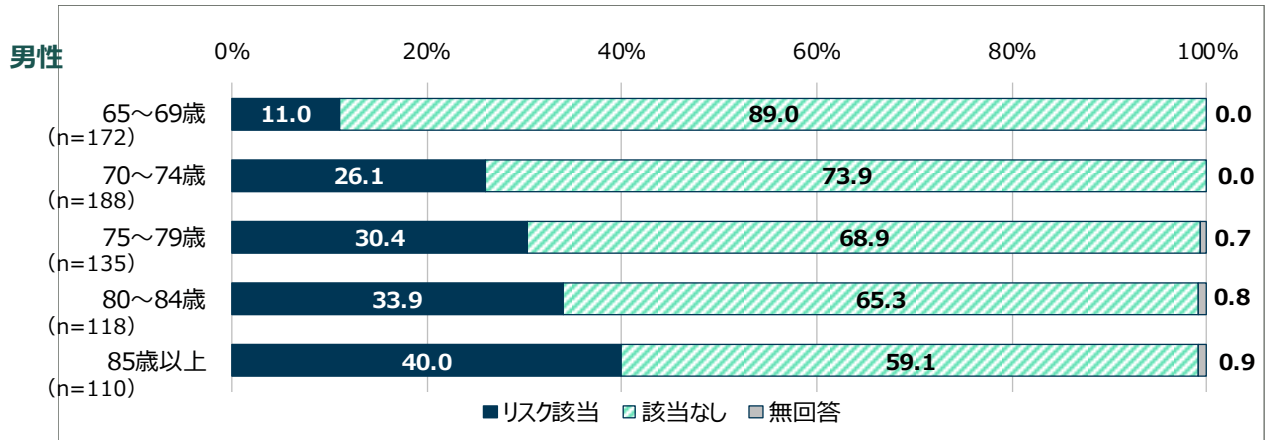
認定区分別でみると、要支援認定者で「リスク該当」の割合が高く、最も高い要支援2では68.7%となっています。



性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「リスク該当」の割合が高く、また、男性・女性ともに年齢が上がるほど「リスク該当」の割合が高くなっています。

日常生活圏域別にみると、高原圏域で「リスク該当」の割合がやや高く、新井圏域でやや低くなっています。

家族構成別にみると、1人暮らし世帯で「リスク該当」の割合が高く34.5%となっています



4. 低栄養

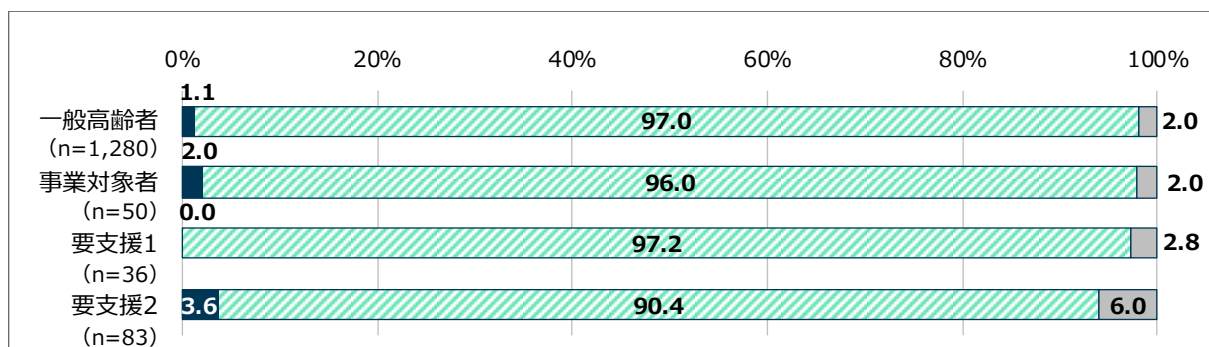
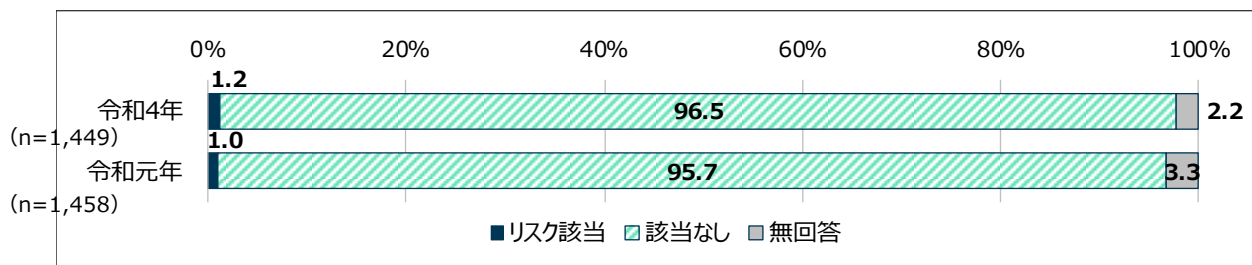
■ 低栄養の傾向 判定基準

設問	0点	1点
BMI（身長・体重）	2. 18.5～25.0 未満 3. 25.0 以上	1. 18.5 未満
6か月間で2～3 kg以上の体重減少がありましたか	2. いいえ	1. はい

2項目の合計得点	1点以下	2点
低栄養の傾向：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

全体では、低栄養のリスク該当者は1.2%となっています。

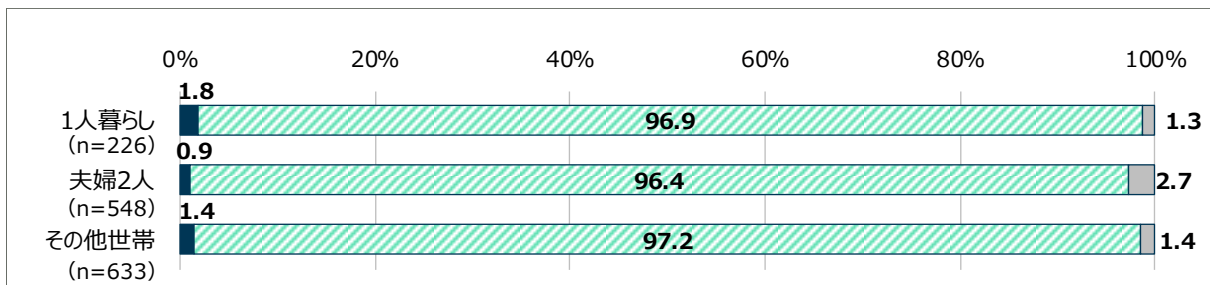
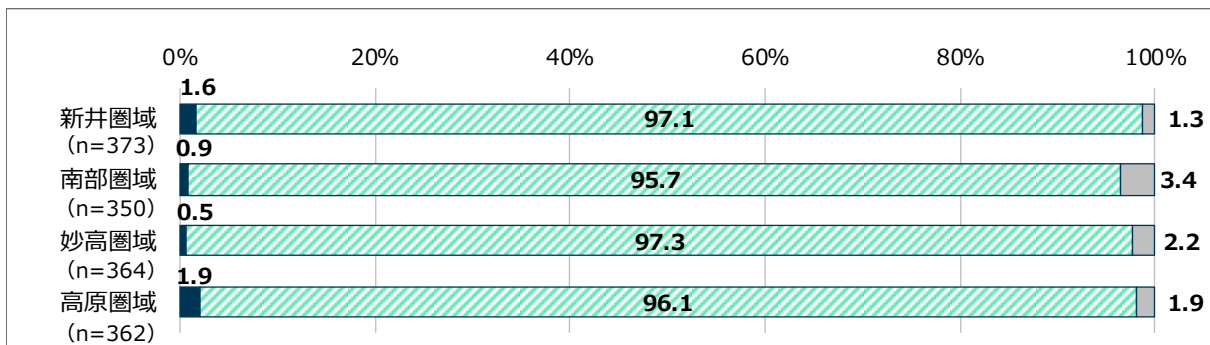
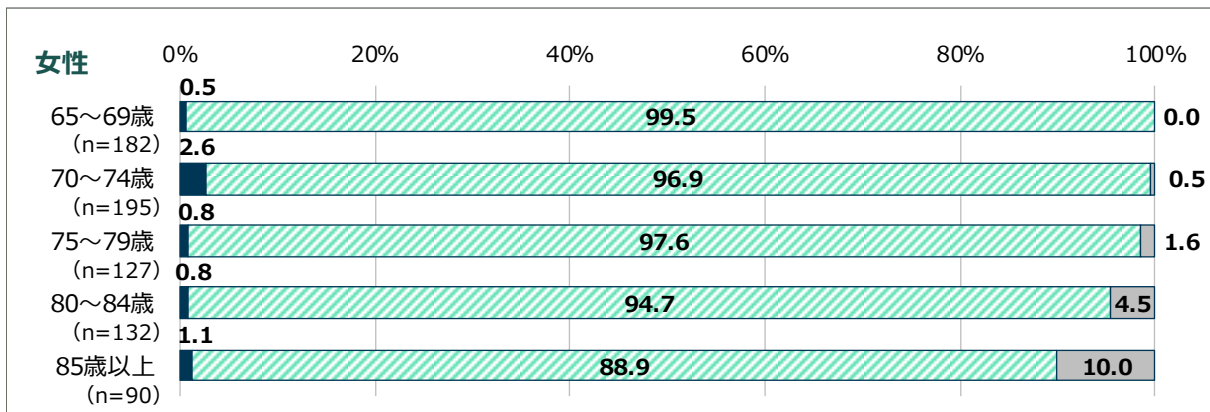
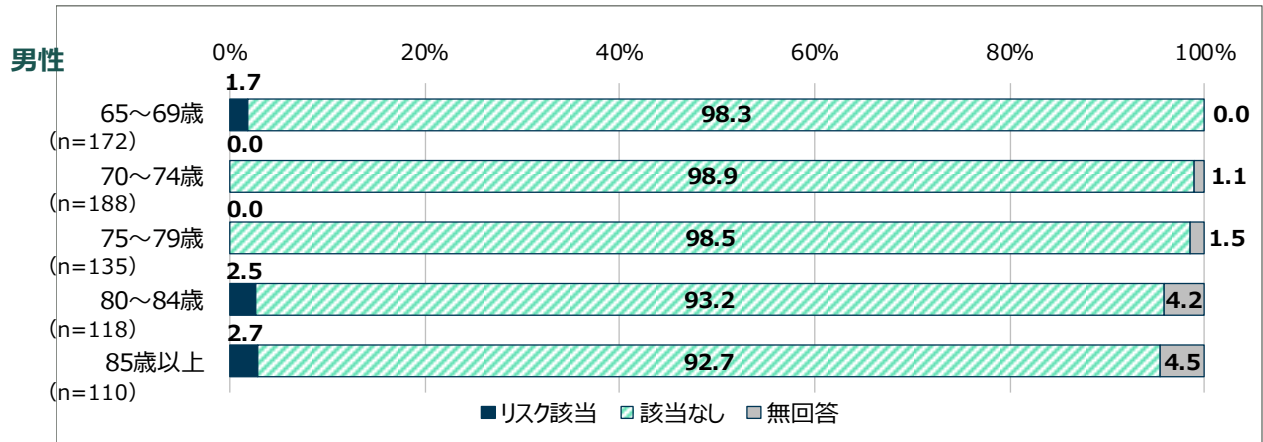
認定区分別でみると、要支援2で「リスク該当」の割合が高く3.6%となっている一方で、要支援1は0.0%となっています。



性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。

日常生活圏域別にみると、高原圏域と新井圏域で「リスク該当」の割合がやや高くなっています。

家族構成別にみると、1人暮らし世帯で「リスク該当」の割合がやや高くなっています。



5. 口腔機能

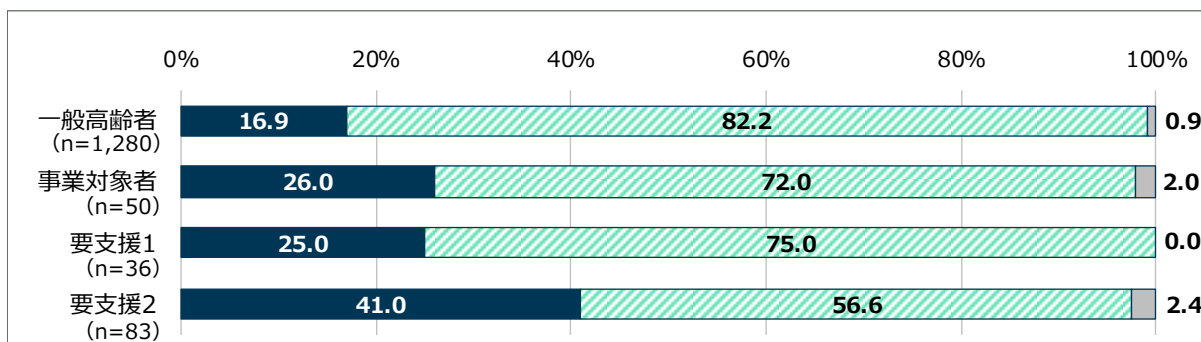
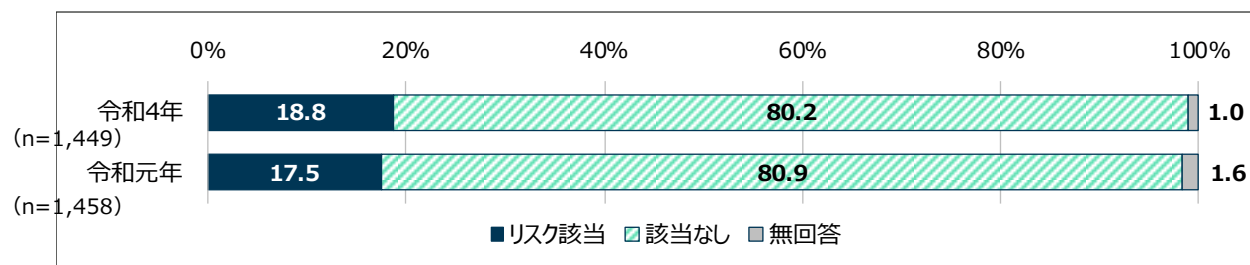
■ 口腔機能の低下 判定基準

設問	0点	1点
半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	2. いいえ	1. はい
お茶や汁物などでむせることがありますか	2. いいえ	1. はい
口の渇きが気になりますか	2. いいえ	1. はい

3項目の合計得点	1点以下	2点以上
口腔機能の低下：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

全体では、口腔機能の低下のリスク該当者は18.8%となっています。

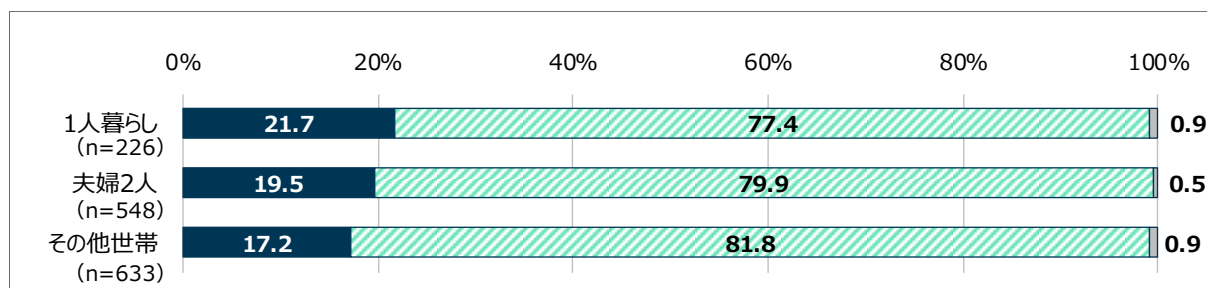
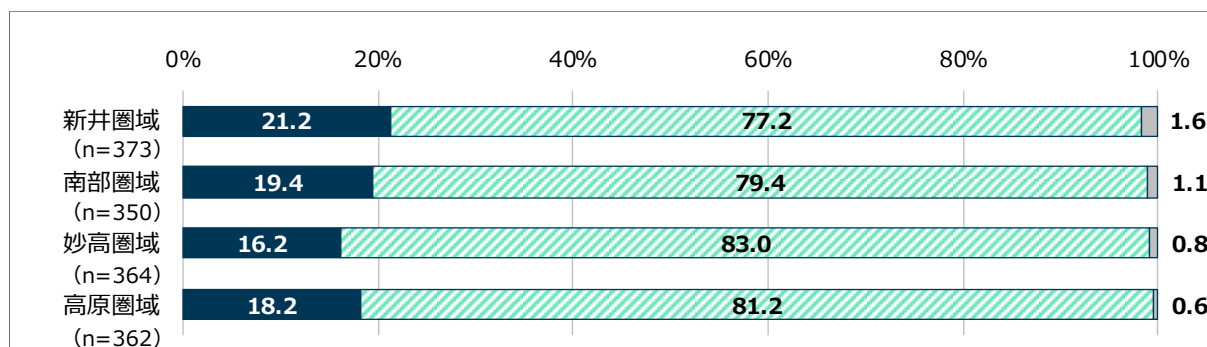
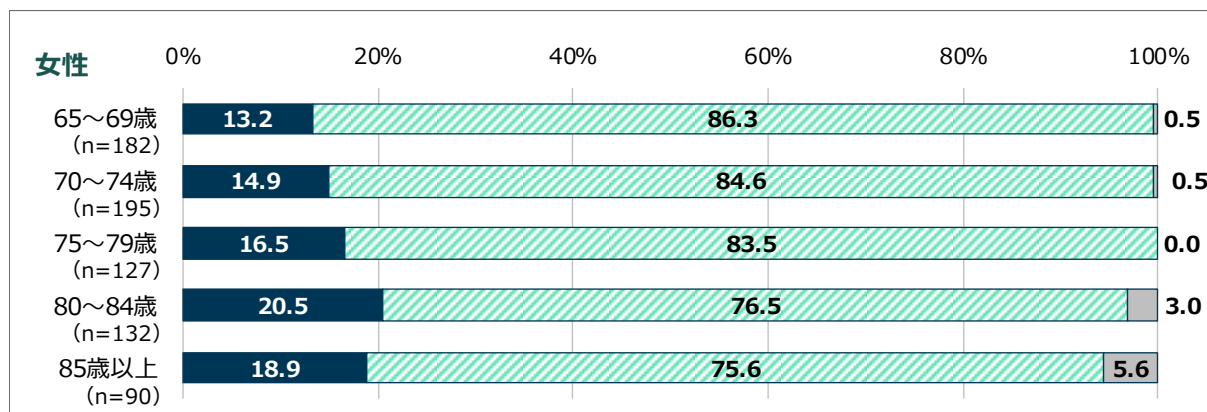
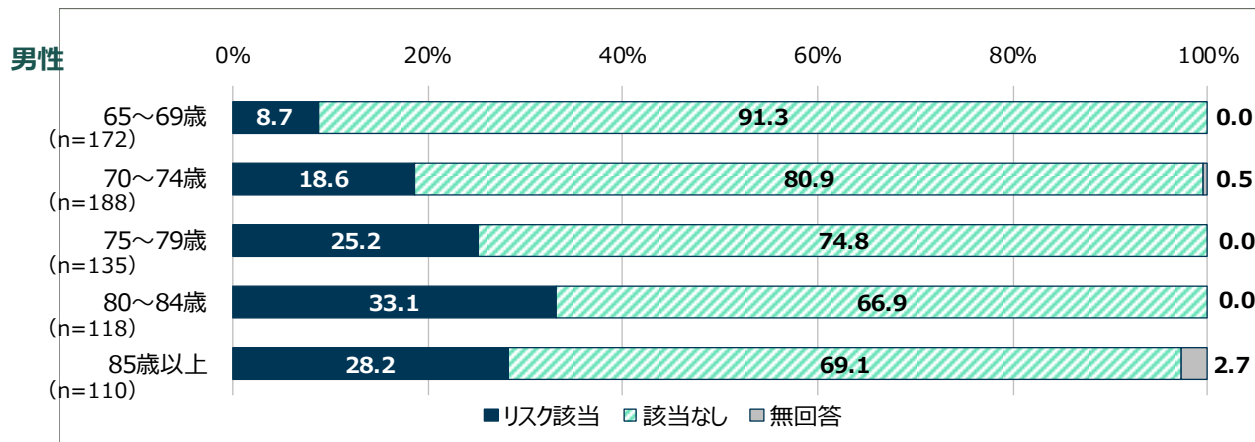
認定状況別で見ると、要支援2で「リスク該当」の割合が最も高く41.0%となっています。



性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるほど「リスク該当」の割合が高くなる傾向がみられ、特に男性でその傾向が明らかになっています。

日常生活圏域別にみると、妙高圏域で「リスク該当」の割合が低くなっています。

家族構成別にみると、その他世帯で「リスク該当」の割合がやや低くなっています。



6. 認知機能の低下

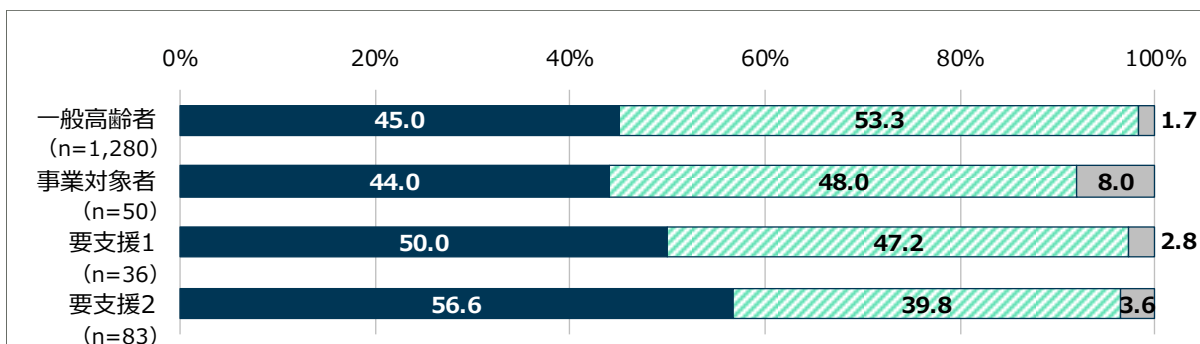
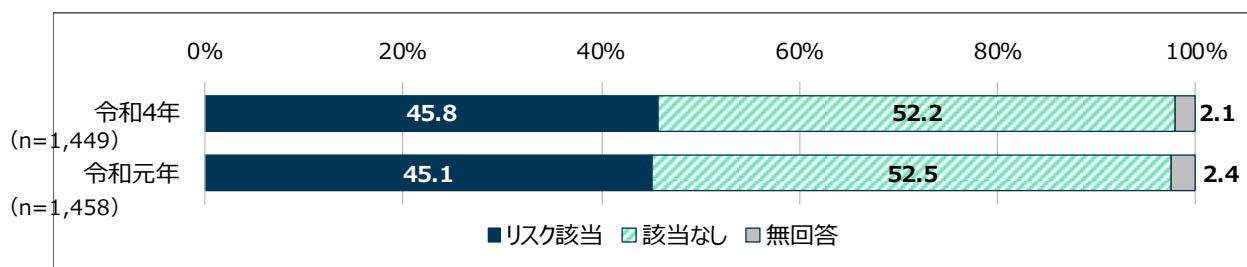
■ 認知機能の低下 判定基準

設問	0点	1点
物忘れが多いと感じますか	2. いいえ	1. はい

1項目の合計得点	0点	1点
認知機能の低下：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

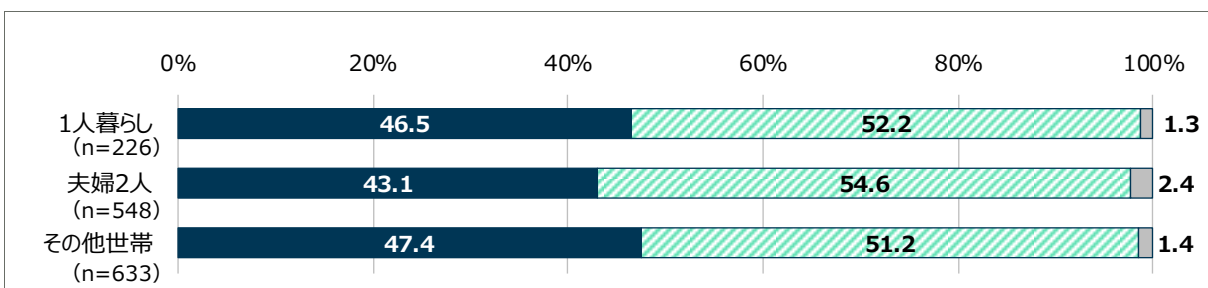
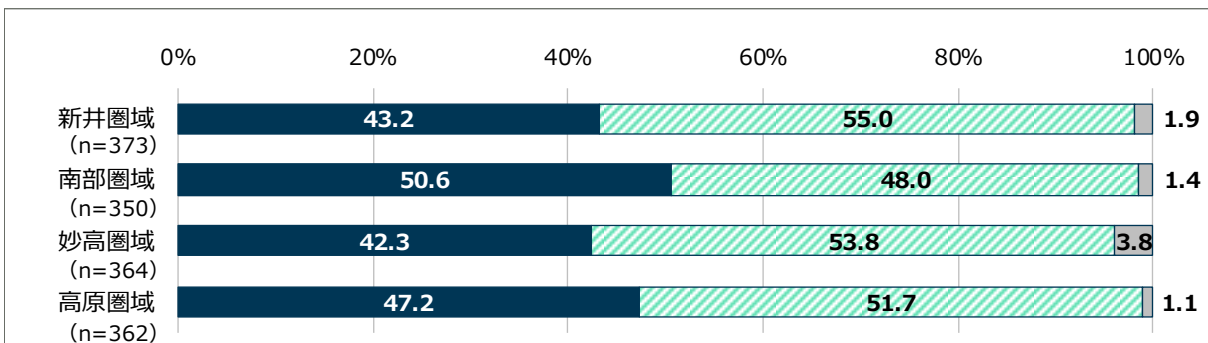
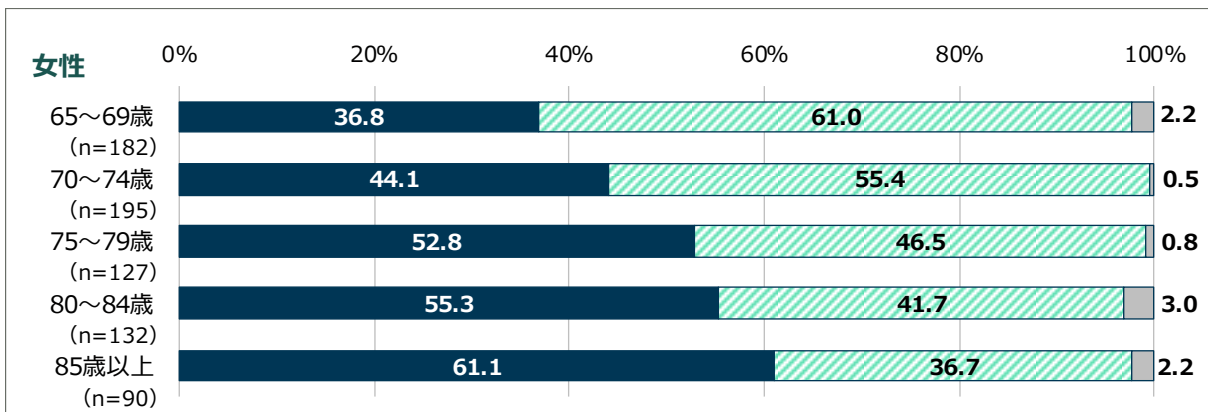
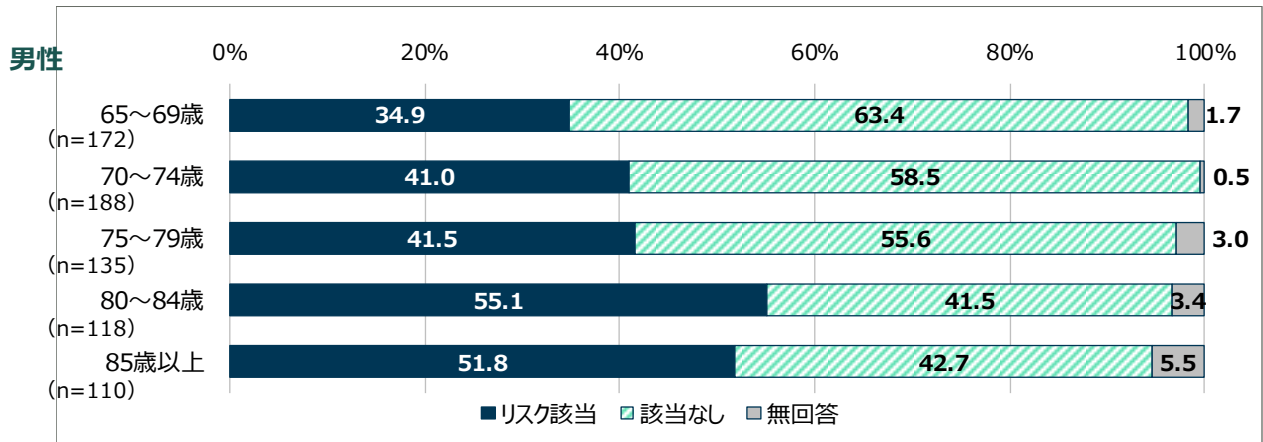
全体では、認知機能低下のリスク該当者は45.8%となっています。

認定状況別でみると、要支援認定者で「リスク該当」の割合が高く、最も高い要支援2は56.6%となっています。



性別・年齢別にみると、明らかな性差はなく、男性・女性ともに年齢が上がるほど「リスク該当」の割合が高くなる傾向がみられます。

日常生活圏域別にみると、南部圏域で「リスク該当」の割合が高く 50.6%となっています。家族構成別にみると、夫婦2人世帯で「リスク該当」の割合が低くなっています。



7. うつ傾向

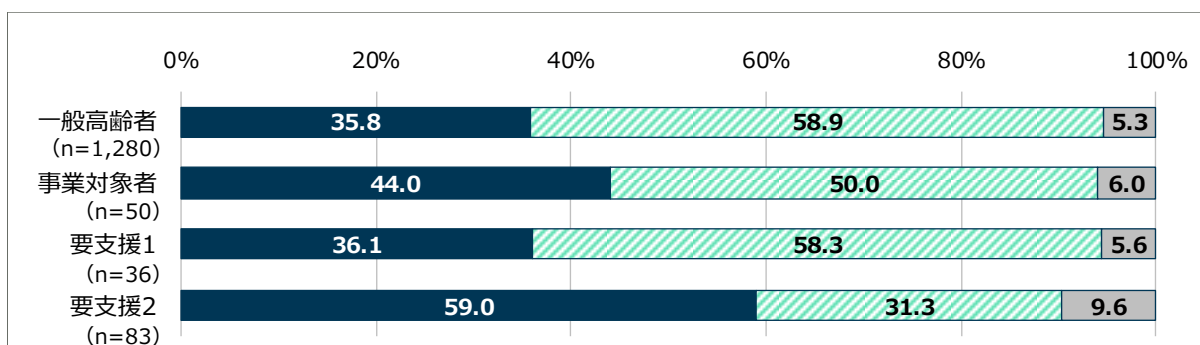
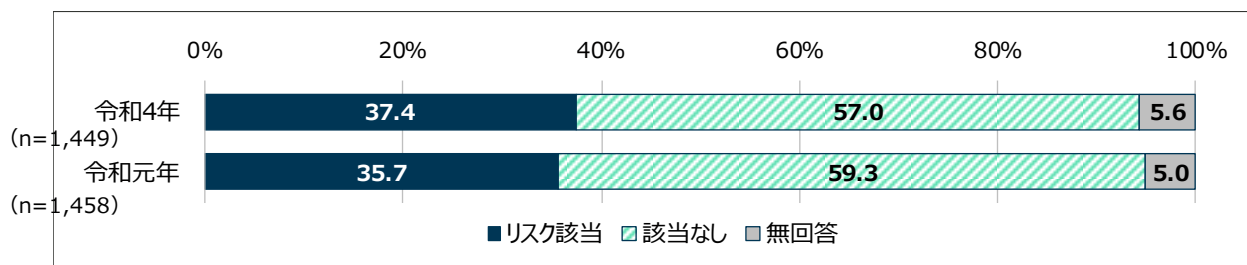
■うつ傾向 判定基準

設問	0点	1点
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	2. いいえ	1. はい
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	2. いいえ	1. はい

2項目の合計得点	0点	1点以上
うつ傾向：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

全体では、うつ傾向のリスク該当者は37.4%となっています。

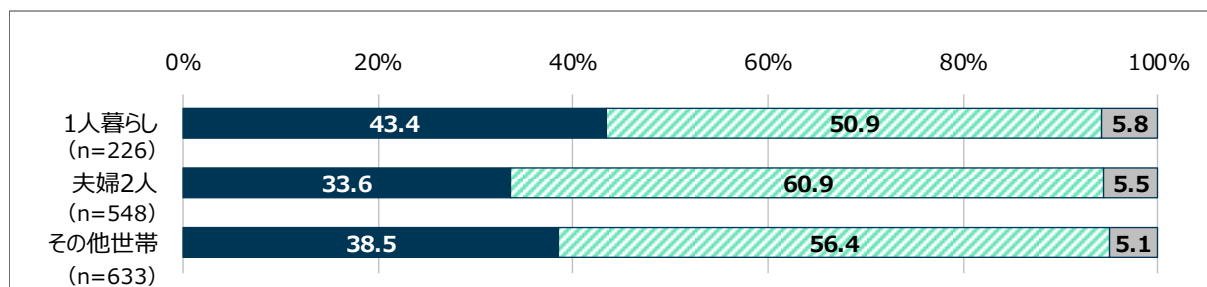
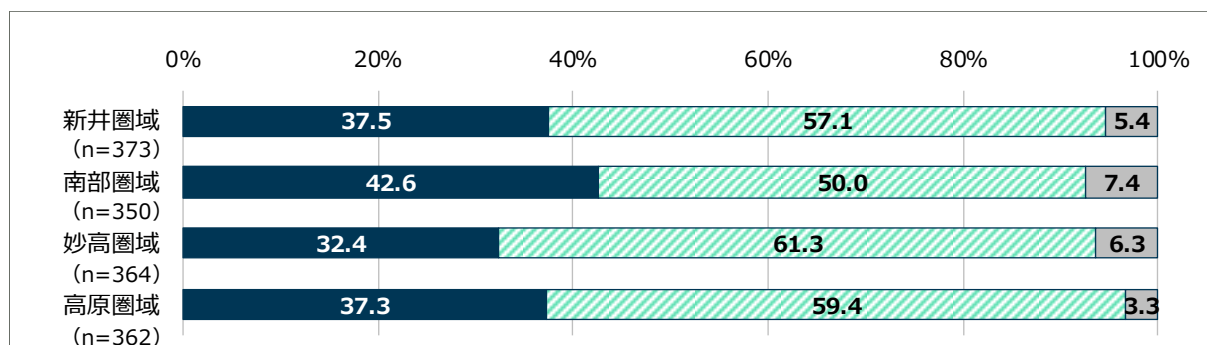
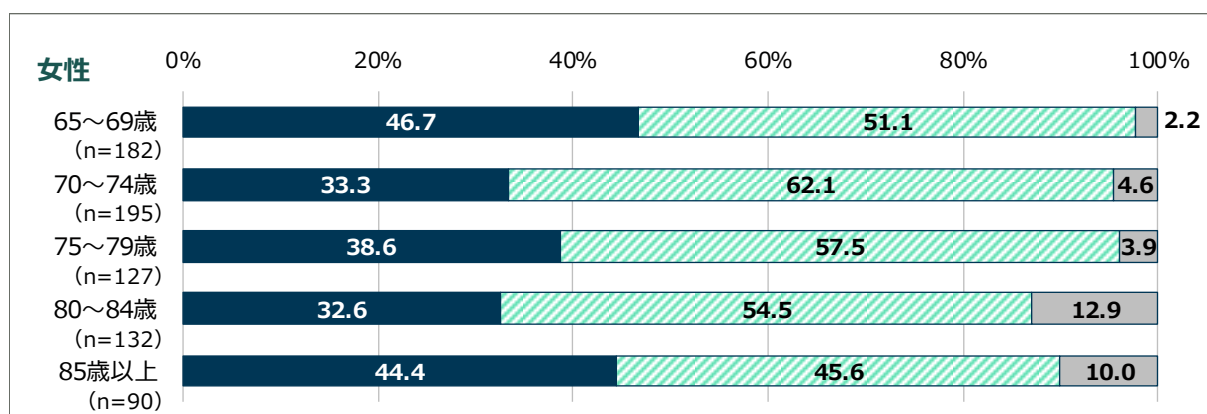
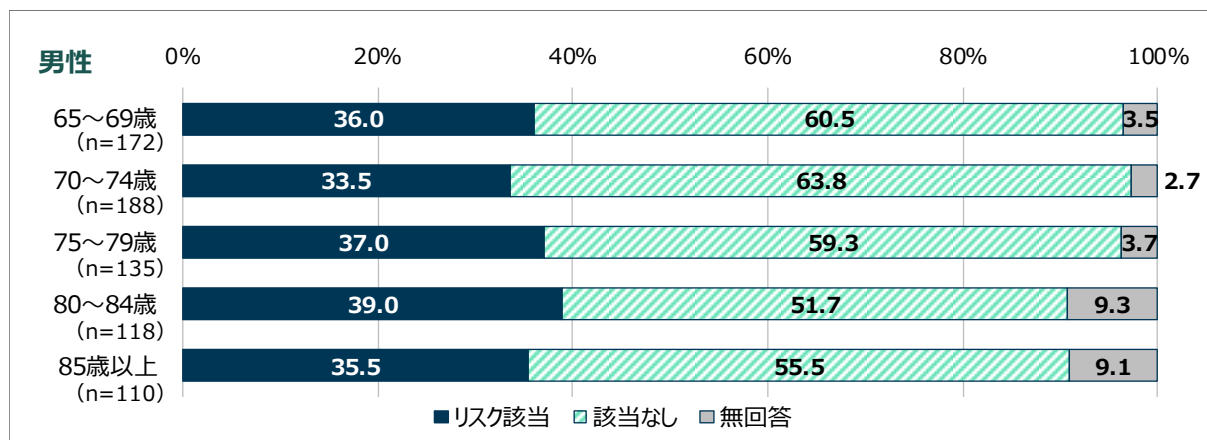
認定区分別でみると、リスク該当者の割合が最も高いのは要支援2で59.0%、次いで総合事業対象者が44.0%となっています。



性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。

日常生活圏域別にみると、「リスク該当」の割合が最も高いのは南部圏域で 42.6%、最も低いのは妙高圏域で 32.4%となっています。

家族構成別にみると、「リスク該当」の割合が最も高いのは 1 人暮らし世帯で 43.4%、最も低いのは夫婦 2 人世帯で 33.6%となっています。



8. IADL

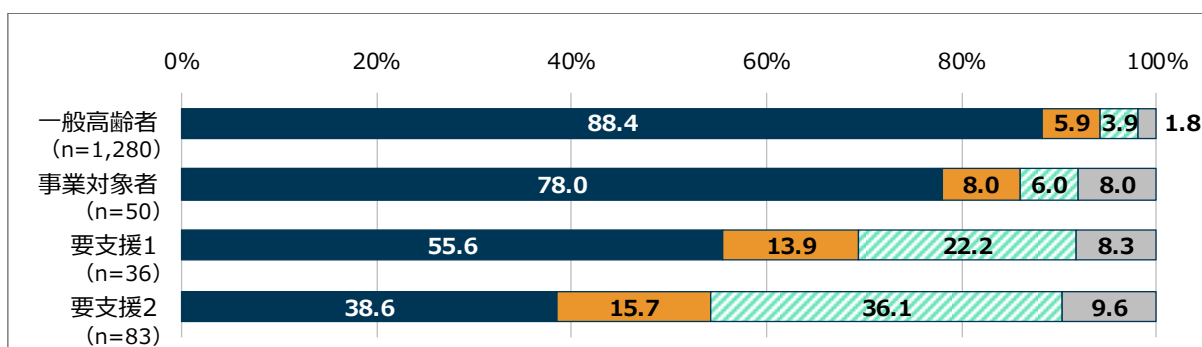
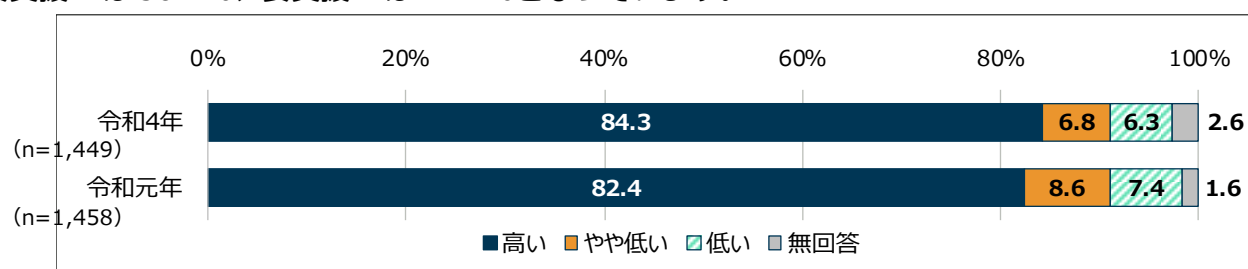
■ IADL* 判定基準

設問	0点	1点
バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	3. できない	1. できるし、している 2. できるけどしていない
自分で食品・日用品の買い物をしていますか	3. できない	1. できるし、している 2. できるけどしていない
自分で食事の用意をしていますか	3. できない	1. できるし、している 2. できるけどしていない
自分で請求書の支払いをしていますか	3. できない	1. できるし、している 2. できるけどしていない
自分で預貯金の出し入れをしていますか	3. できない	1. できるし、している 2. できるけどしていない

5項目の合計得点	5点	4点	3点以下
IADL：判定カテゴリ	高い	やや低い	低い

全体では、「高い」が84.3%、「やや低い」が6.8%、「低い」が6.3%となっています。

認定区分別でみると、要支援認定者で「低い」の割合が高く、一般高齢者が3.9%なのに対し、要支援2は36.1%、要支援1は22.2%となっています。

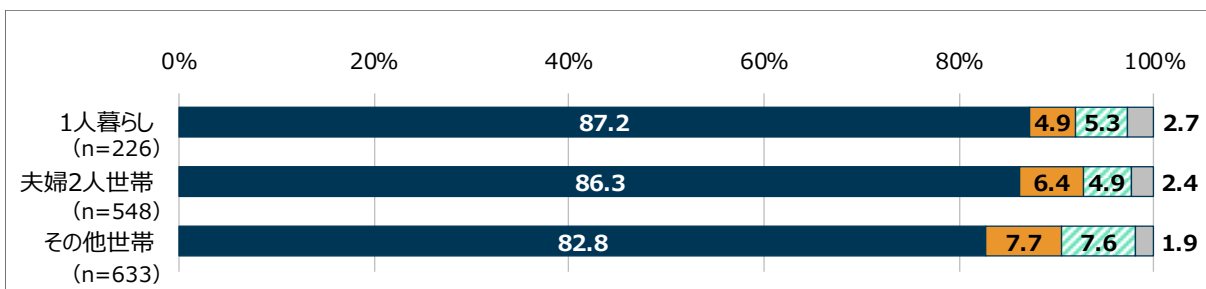
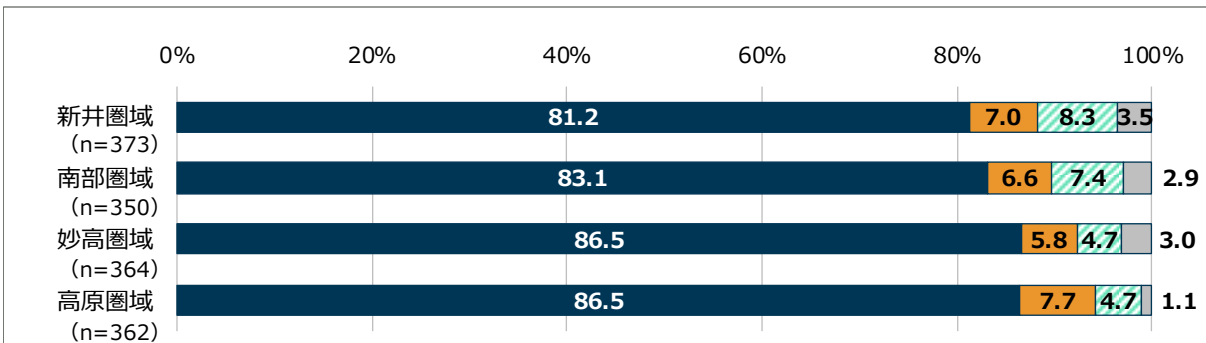
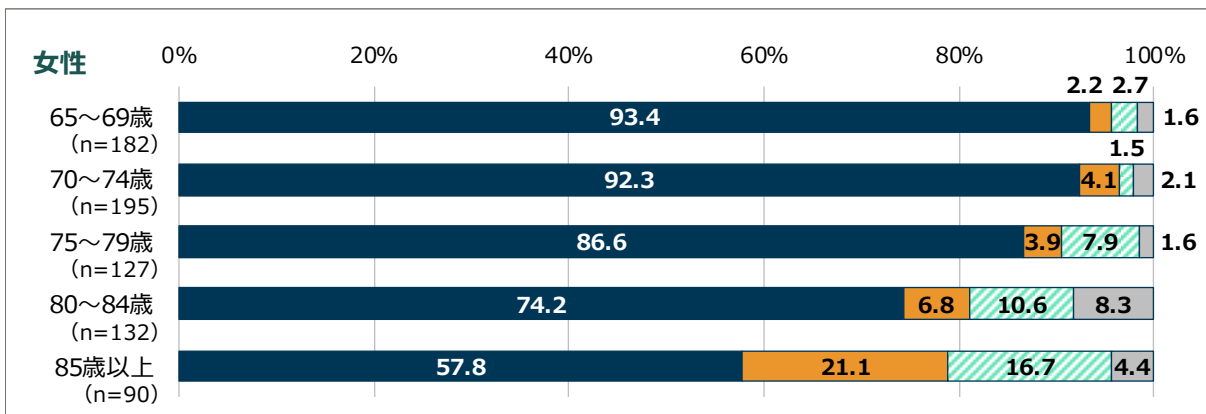
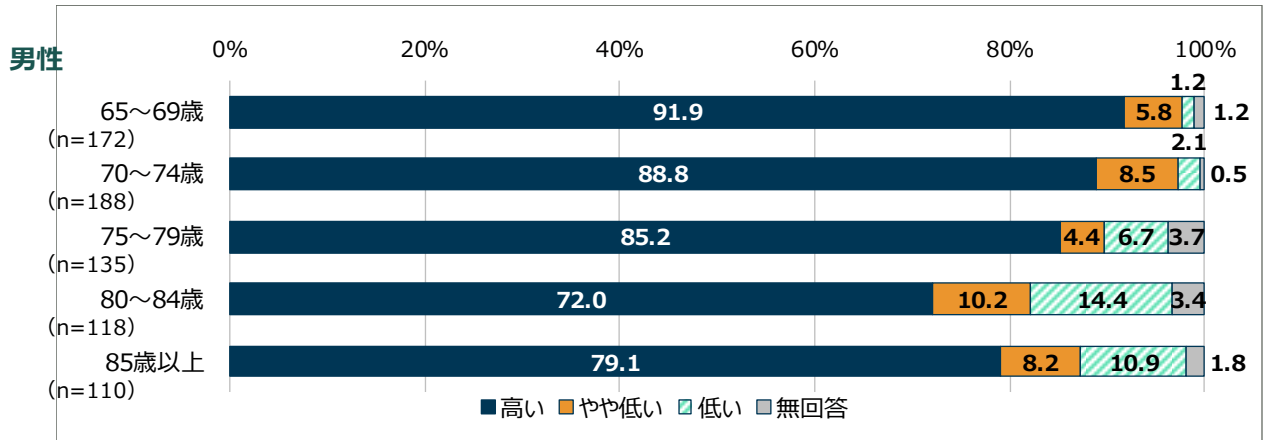


*IADL：手段的日常生活動作（Instrumental Activities of Daily Living）。買物、電話、金銭管理などの複雑な動作を行う能力のことです。

性別・年齢別にみると、数値にばらつきはありますが、男性・女性ともに年齢が上がるほど「低い」の割合が高くなる傾向がみられます。

日常生活圏域別にみると、妙高圏域と高原圏域で「高い」の割合が高く、「低い」の割合が低くなっています。

家族構成別にみると、その他世帯で「低い」と「やや低い」の割合がやや高くなっています。



傾向把握のための指標の状況

妙高市内の日常生活圏域別の傾向を把握するために、調査項目とリスク判定結果から指標を設定し、圏域別の割合の順位から、地区の特性を分析しました。傾向を把握するために設定した指標は以下のとおりです。

設問	順位づけの基準	指標
基本属性		
	性別	男性の割合 女性の割合
	男性の割合 女性の割合	
	満年齢をご記入ください	後期高齢者の割合
	75歳以上の割合	
	認定区分	要支援認定者の割合
	要支援1と要支援2の割合の合計	
あなたのご家族や生活状況について		
	家族構成をお教えてください	1人暮らし世帯 夫婦2人世帯 その他世帯
	「1.1人暮らし」の割合 「2.夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」と「3.夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」の割合の合計 「4.息子・娘との2世帯」と「5.その他」の割合の合計	
	あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか	
	「1.介護・介助は必要ない」の割合	介護・介助が不要
	手助けが必要な場合、おおよそ30分以内に駆けつけてくれる親族はいますか	近くに親族はいない
	「5.近くに住む親族はいない」の割合	
	現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか	経済的に苦しい
	「1.大変苦しい」と「2.やや苦しい」の割合の合計	
からだを動かすことについて		
	週に1回以上は外出していますか	外出している
	「2.週1回」「3.週2～4回」「4.週5回以上」の割合の合計	
食べることについて		
	どなたかと食事をともにする機会はありますか	孤食
	「4.年に何度かある」と「5.ほとんどない」の割合の合計	
	歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください	歯が20本以上
	「1.自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「2.自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の割合の合計	
毎日の生活について		
	趣味はありますか	趣味あり
	「1.趣味あり」の割合	
	生きがいはありますか	生きがいあり
	「1.生きがいあり」の割合	

設問	順位づけの基準	指標
地域での活動について		
	ボランティアのグループにどのくらいの頻度で参加していますか	地域活動（ボランティア）
	「月に1回以上」参加している割合	
	スポーツ関係のグループやクラブにどのくらいの頻度で参加していますか	地域活動（スポーツ関係）
	「月に1回以上」参加している割合	
	趣味関係のグループにどのくらいの頻度で参加していますか	地域活動（趣味関係）
	「月に1回以上」参加している割合	
	学習・教養グループにどのくらいの頻度で参加していますか	地域活動（学習・教養）
	「月に1回以上」参加している割合	
	老人クラブにどのくらいの頻度で参加していますか	地域活動（老人クラブ）
	「月に1回以上」参加している割合	
	町内会・自治会にどのくらいの頻度で参加していますか	地域活動（町内会）
	「月に1回以上」参加している割合	
	収入のある仕事	地域活動（仕事）
	「月に1回以上」している割合	
	いきいきした地域づくりに参加者として参加してみたいと思いますか	地域づくり（参加者）
	「1.ぜひ参加したい」「2.参加してもよい」「4.すでに参加している」の割合の合計	
	いきいきした地域づくりに企画・運営として参加してみたいと思いますか	地域づくり（企画・運営）
	「1.ぜひ参加したい」「2.参加してもよい」「4.すでに参加している」の割合の合計	
助けあいについて		
	あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人	助けあい（心配事）
	反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人	
	「1.」～「7.」のいずれかに○をつけている人の割合	
	あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人	助けあい（看病）
	反対に、あなたが看病や世話をしてくれる人	
	「1.」～「7.」のいずれかに○をつけている人の割合	
健康について		
	現在のあなたの健康状態はいかがですか	主観的健康状態
	「1.とてもよい」と「2.まあよい」の割合の合計	
	あなたは、現在どの程度幸せですか	幸福度
	平均点	
	お酒は飲みますか	飲酒
	「1.ほぼ毎日飲む」の割合	
	タバコは吸ってますか	喫煙
	「1.ほぼ毎日吸っている」の割合	
	現在治療中、または後遺症のある病気はありますか	病気がない
	「1.ない」の割合	

設問	順位づけの基準	指標
----	---------	----

介護予防について		
	地域の茶の間に参加したことはありますか	地域の茶の間への参加
	「1.現在参加している」の割合	
リスク判定結果		
	1.運動器の機能低下のリスク該当の割合	運動器の機能低下のリスク
	2.転倒のリスク該当の割合	転倒のリスク
	3.閉じこもりのリスク該当の割合	閉じこもりのリスク
	4.低栄養のリスク該当の割合	低栄養のリスク
	5.口腔機能の低下のリスク該当の割合	口腔機能の低下のリスク
	6.認知機能の低下のリスク該当の割合	認知機能の低下のリスク
	7.うつ傾向のリスク該当の割合	うつ傾向のリスク
	8.IADL 判定が「低い」の割合	IADL の低下

新井圏域

新井圏域は後期高齢者、要支援認定者の割合が高くなっています。そのため、病気がない割合、介護・介助が不要な割合が低く、主観的健康状態もよくありません。一方で、子どもや孫など同居する世帯が多く、趣味がある割合が高くなっています。

町内会やボランティアなどの地域活動への参加割合が高く、閉じこもりのリスクが低くなっています。

一方で、運動器機能、口腔機能の低下のリスク割合が高く、IADL も低くなっています。

順位	本人・生活など	地域活動など	リスク判定
1 位	要支援認定者の割合 後期高齢者の割合 その他世帯 歯が 20 本以上 趣味あり	地域活動（ボランティア） 地域活動（学習・教養） 地域活動（町内会）	運動器の機能低下のリスク 口腔機能の低下のリスク IADL の低下
2 位	女性の割合	地域活動（趣味関係） 地域活動（老人クラブ） 地域づくり（企画・運営） 助けあい（看病） 地域の茶の間への参加 地域づくり（参加者）	転倒のリスク 低栄養のリスク うつ傾向のリスク
3 位	男性の割合 1 人暮らし世帯 近くに親族はいない 経済的に苦しい 外出している 喫煙 生きがいあり	地域活動（スポーツ関係） 助けあい（心配事）	認知機能の低下のリスク
4 位	夫婦 2 人世帯 介護・介助が不要 孤食 主観的健康状態 幸福度 飲酒 病気がない	地域活動（仕事）	閉じこもりのリスク

南部圏域

南部圏域は後期高齢者の割合が低くなっています。病気がない割合が高く、外出している割合が高くなっています。家族構成では1人暮らし世帯の割合が高くなっています。

地域の茶の間への参加割合が高い一方で、スポーツや趣味関係などの地域活動への参加割合は低く、地域づくり活動への参加意向も低くなっています。

認知機能の低下のリスク、うつ傾向のリスクが高い一方で、運動器の機能低下のリスク、転倒のリスクは低くなっています。

順位	本人・生活など	地域活動など	リスク判定
1位	女性の割合 1人暮らし世帯 外出している 孤食 喫煙 病気がない	助けあい（看病） 地域の茶の間への参加	認知機能の低下のリスク うつ傾向のリスク
2位	夫婦2人世帯 介護・介助が不要 経済的に苦しい	地域活動（学習・教養） 地域活動（町内会） 助けあい（心配事）	閉じこもりのリスク 口腔機能の低下のリスク IADLの低下
3位	要支援認定者の割合 主観的健康状態 幸福度 飲酒	地域活動（仕事）	低栄養のリスク
4位	男性の割合 後期高齢者の割合 近くに親族はいない 歯が20本以上 趣味あり その他世帯 生きがいあり	地域活動（ボランティア） 地域活動（スポーツ関係） 地域活動（趣味関係） 地域活動（老人クラブ） 地域づくり（参加者） 地域づくり（企画・運営）	運動器の機能低下のリスク 転倒のリスク

妙高圏域

妙高圏域は主観的健康状態がよく、生きがいがある割合、幸福度ともに高くなっています。

収入のある仕事をしている割合が高く、町内会への参加割合が低い一方で、老人クラブの参加割合は高くなっています。

転倒のリスクが高くなっていますが、そのほかの項目のリスク判定結果の該当割合は低くなっています。

順位	本人・生活など	地域活動など	リスク判定
1位	介護・介助が不要 生きがいあり 幸福度 飲酒	地域活動（老人クラブ） 地域活動（仕事） 助けあい（心配事）	転倒のリスク
2位	男性の割合 1人暮らし世帯 その他世帯 近くに親族はいない 歯が20本以上 喫煙 病気がない 主観的健康状態	地域活動（スポーツ関係）	
3位	女性の割合 後期高齢者の割合 夫婦2人世帯 孤食 趣味あり	地域活動（ボランティア） 地域活動（趣味関係） 地域づくり（企画・運営） 地域の茶の間への参加 助けあい（看病） 地域づくり（参加者）	運動器の機能低下のリスク 閉じこもりのリスク 認知機能の低下のリスク IADLの低下
4位	要支援認定者の割合 経済的に苦しい 外出している	地域活動（学習・教養） 地域活動（町内会）	低栄養のリスク 口腔機能の低下のリスク うつ傾向のリスク

高原圏域

高原圏域は夫婦 2 人暮らしで、近くに親族はいない世帯が多くなっています。

スポーツ関係、趣味関係の地域活動への参加割合が高く、地域づくり活動への参加意向も高くなっています。一方で、地域の茶の間や町内会への参加割合が低く、助けあいについても順位が低くなっています。

IADL が高い一方で、閉じこもりと低栄養のリスク該当割合が高くなっています。

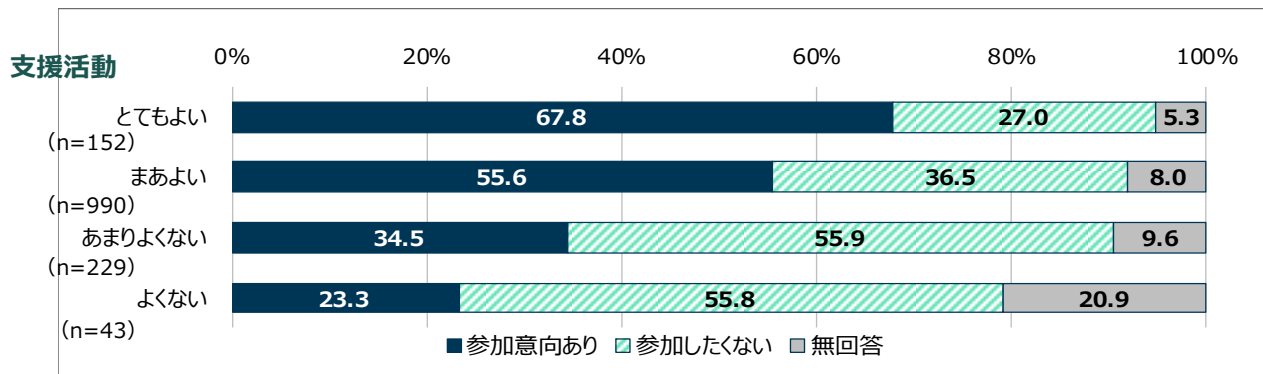
順位	本人・生活など	地域活動など	リスク判定
1 位	男性の割合 夫婦 2 人世帯 近くに親族はいない 経済的に苦しい 主観的健康状態	地域活動（スポーツ関係） 地域活動（趣味関係） 地域づくり（参加者） 地域づくり（企画・運営）	閉じこもりのリスク 低栄養のリスク
2 位	後期高齢者の割合 要支援認定者の割合 外出している 孤食 生きがいあり 幸福度 飲酒 趣味あり	地域活動（ボランティア） 地域活動（仕事）	運動器の機能低下のリスク 認知機能の低下のリスク
3 位	介護・介助が不要 歯が 20 本以上 病気がない その他世帯	地域活動（学習・教養） 地域活動（老人クラブ） 地域活動（町内会）	転倒のリスク 口腔機能の低下のリスク うつ傾向のリスク
4 位	女性の割合 1 人暮らし世帯 喫煙	助けあい（心配事） 地域の茶の間への参加 助けあい（看病）	IADL の低下

考察

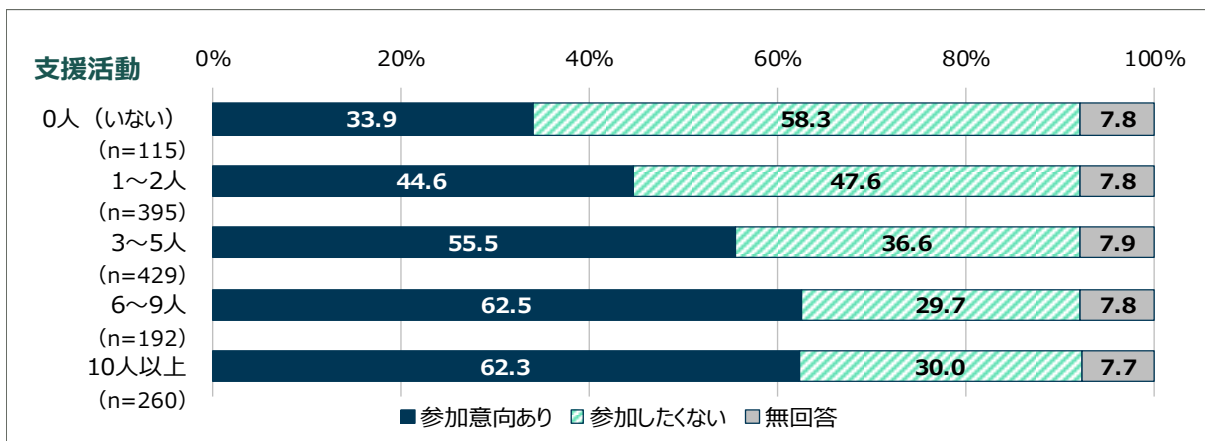
1. 地域づくりへの参加意向

【地域住民の有志によって、ゴミ出し、買い物、掃除などを支援する活動により、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動するメンバーとして参加してみたいと思いますか】について、「ぜひ参加したい」または「参加してもよい」「すでに参加している」と回答した人を「参加意向あり」として、「参加したくない」との2分類で集計すると、「参加意向あり」は52.2%で、「参加したくない」は38.9%となっています。

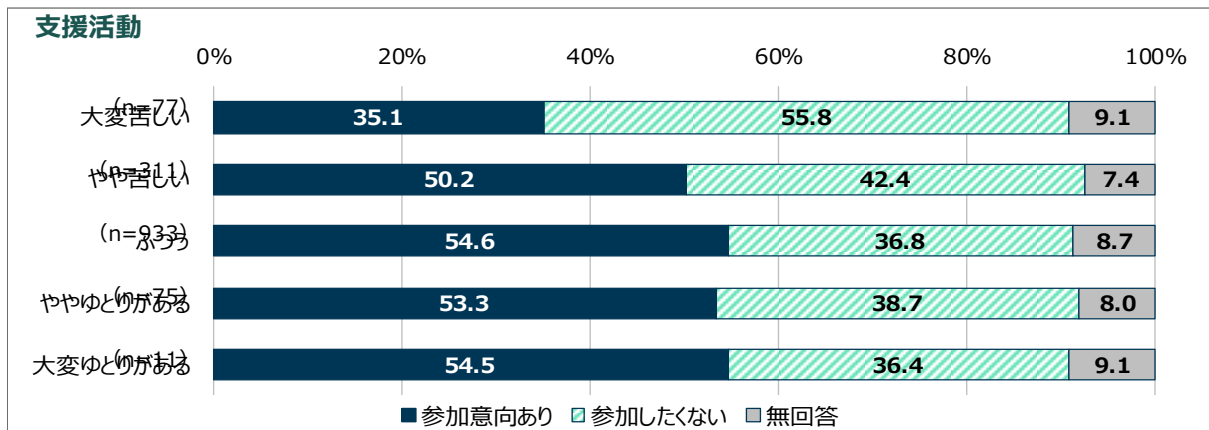
主観的健康状態別に支援活動による地域づくりへの参加意向をみると、健康状態をよいと考えているほうが「参加意向あり」の割合が高い傾向がみられます。



【この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか（同じ人には何度会っても1人と数えることとします）】の回答別にみると、1か月の間にあった友人・知人の数が多いほど、「参加意向あり」の割合が高い傾向がみられます。



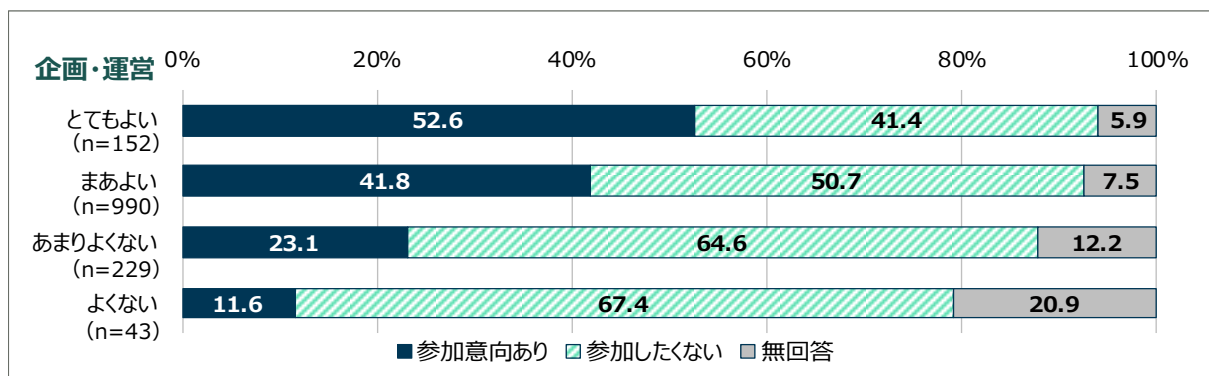
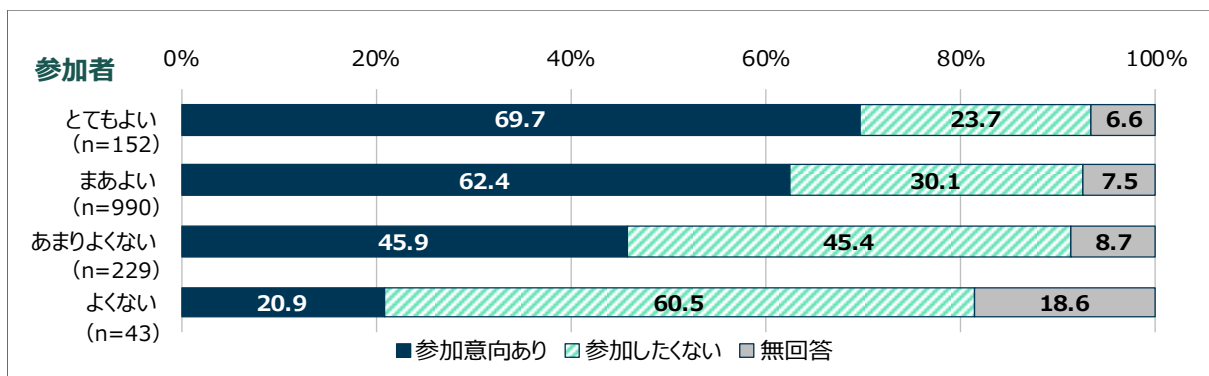
経済的状況別にみると、「参加意向あり」の割合が最も低いのは経済的に大変苦しい群で、次いでやや苦しい群で低くなっています。その他の群に大きな差異はみられませんでした。



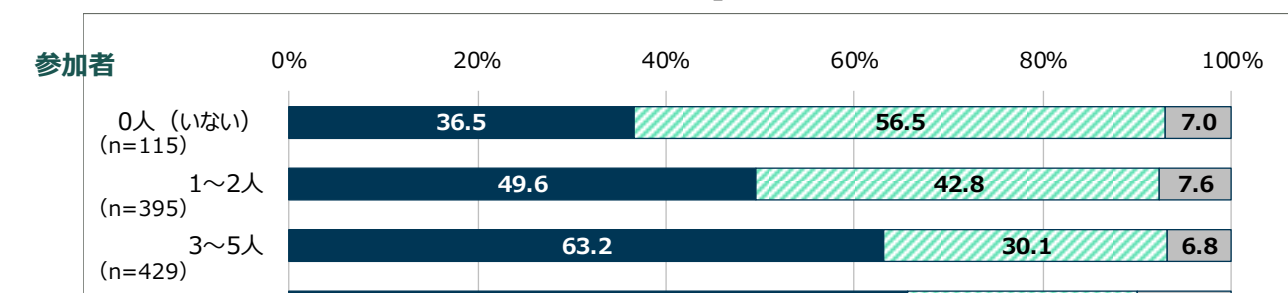
【地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか】については、「参加意向あり」は59.0%で、「参加したくない」は32.6%となっています。

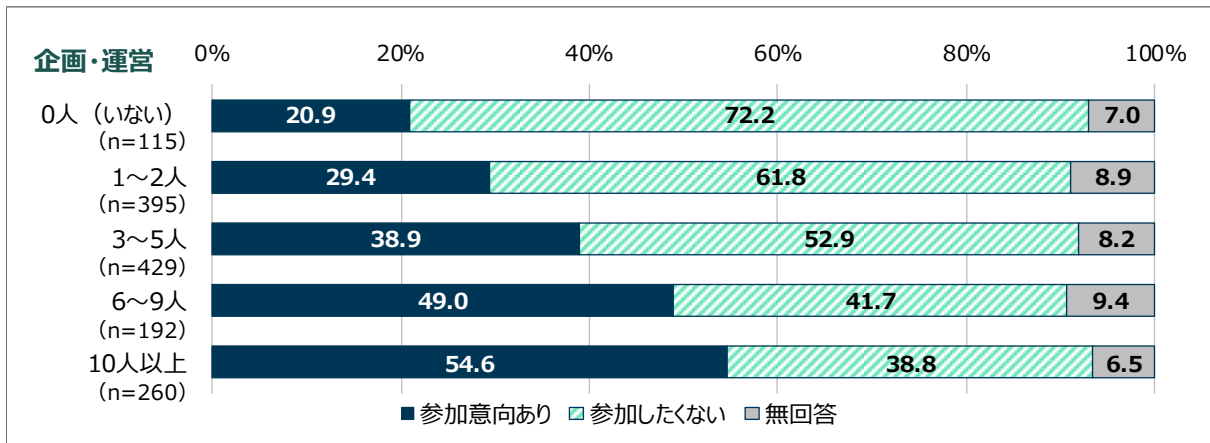
【地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか】については、「参加意向あり」は38.8%で、「参加したくない」は52.0%となっています。

主観的健康状態別にみると、参加者としても企画・運営としても、健康状態をよいと考えているほうが参加意向ありの割合が高い傾向がみられます。

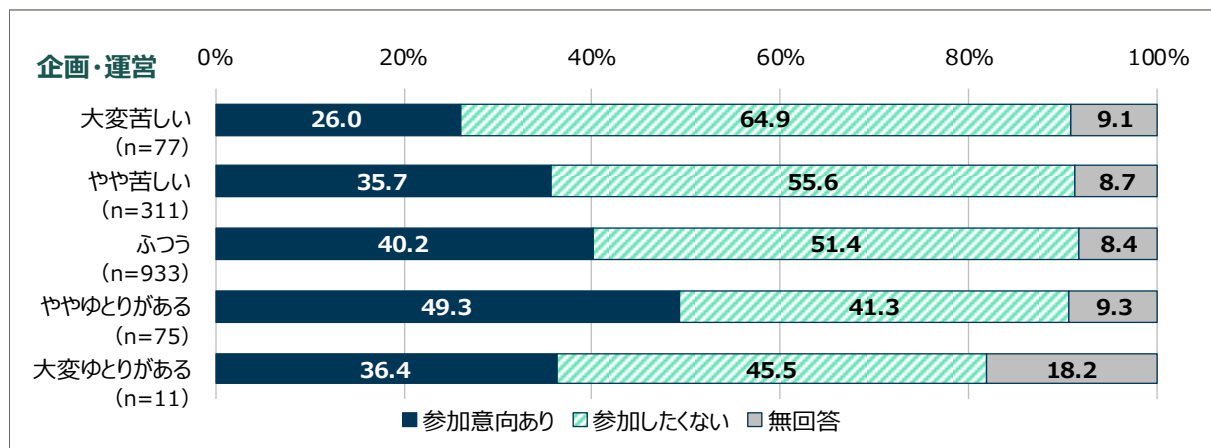
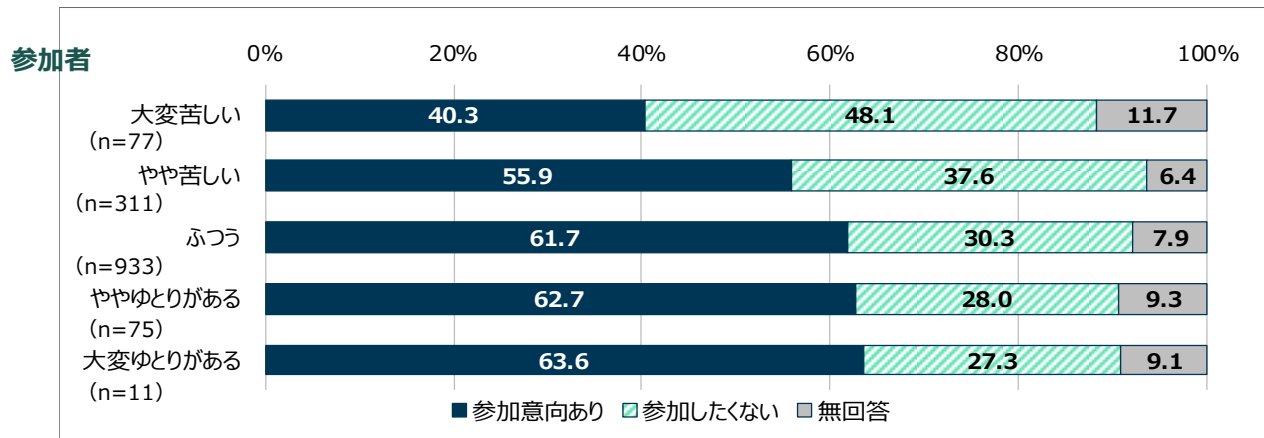


1か月間にあった友人・知人の数別にみると、参加者としても企画・運営としても、1か月の間にあった友人・知人の数が多いほど、「参加意向あり」の割合が高い傾向がみられます。





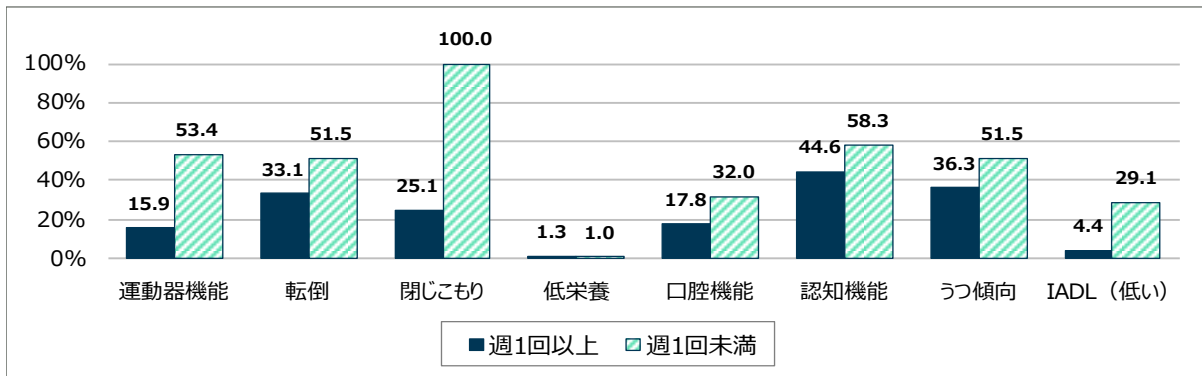
経済的状況別にみると、参加者としての参加については、経済的にゆとりがあるほど参加意向が高い傾向がみられます。企画・運営としての参加についてもほぼ同様の傾向がみられますが、大変ゆとりがある群では参加意向がやや低くなっています。大変ゆとりがある群は n 値（回答者数）が少ないためとも考えられます。



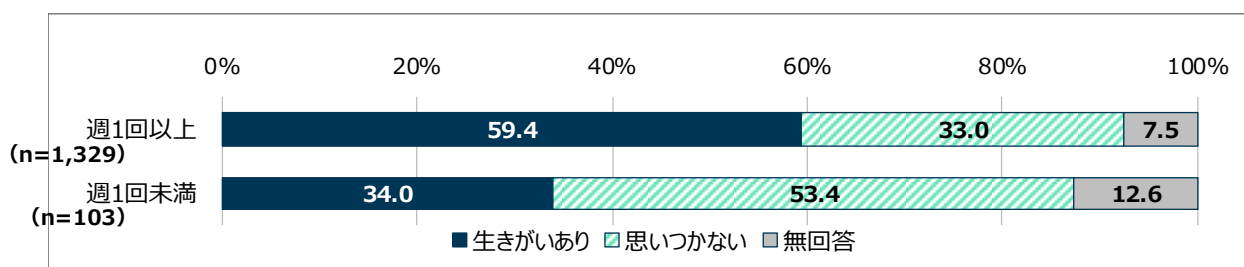
2. 外出

【週に1回以上は外出していますか】では、「週2~4回」が42.7%と最も高く、週1回以上外出する割合は91.8%となっています。

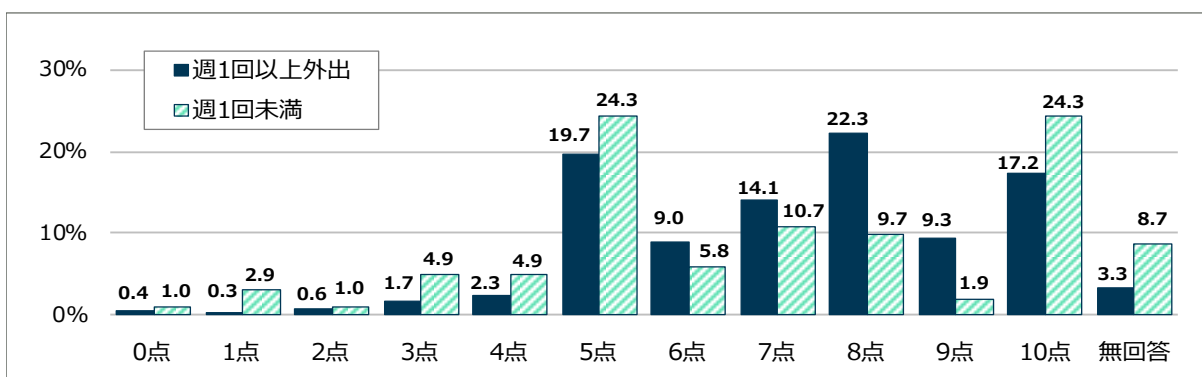
週1回以上外出する人としらない人で「リスク該当」の割合をみると、低栄養以外の項目で外出が週1回未満群のほうが「リスク該当」の割合が高くなっています。



週1回以上外出する人としらない人で「生きがいあり」の割合を比較すると、週1回以上外出する人のほうがしない人より25.4ポイント高い59.4%となっています。



週1回以上外出する人としらない人で「幸福度（とても不幸を0点、とても幸せを10点とした点数）」を比較すると、週1回以上外出する人の平均点は7.24点、しない人の平均点は6.66点となっています。

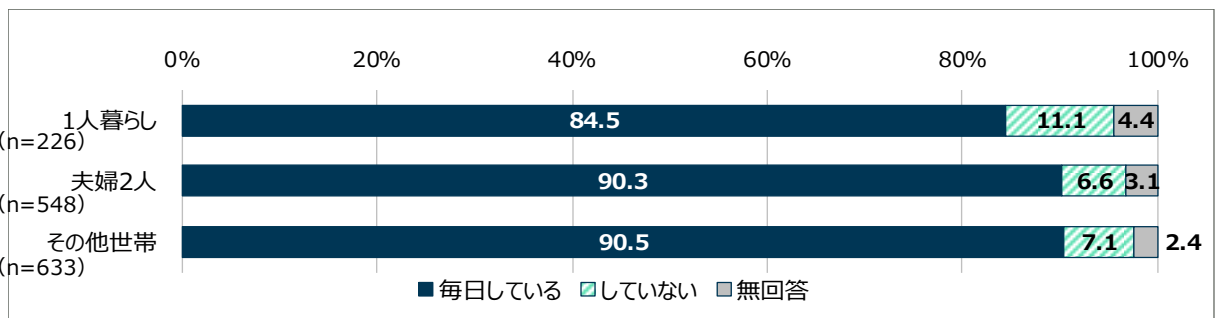


3. 家族構成と生活習慣

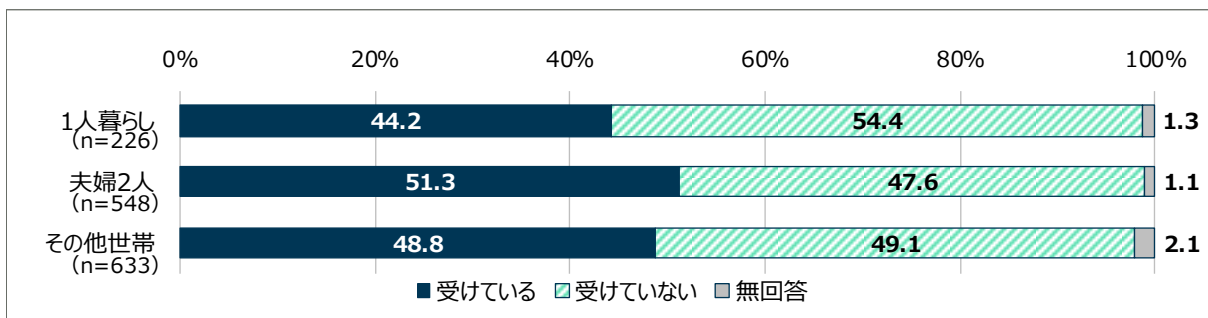
【家族構成をお教えてください】で、令和元年の前回調査と比較すると、「1人暮らし」「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」「息子・娘との2世帯」は増加しており、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」「その他」は減少しています。

【どなたかと食事をとる機会がありますか】について、家族構成を「1人暮らし」と、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」と「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」を合わせた「夫婦2人」、それ以外の「その他世帯」の3分類でクロス集計すると、1人暮らしでは「毎日ある」の割合は4.9%と低く、一方で「ほとんどない」が23.0%と割合が高くなっています。

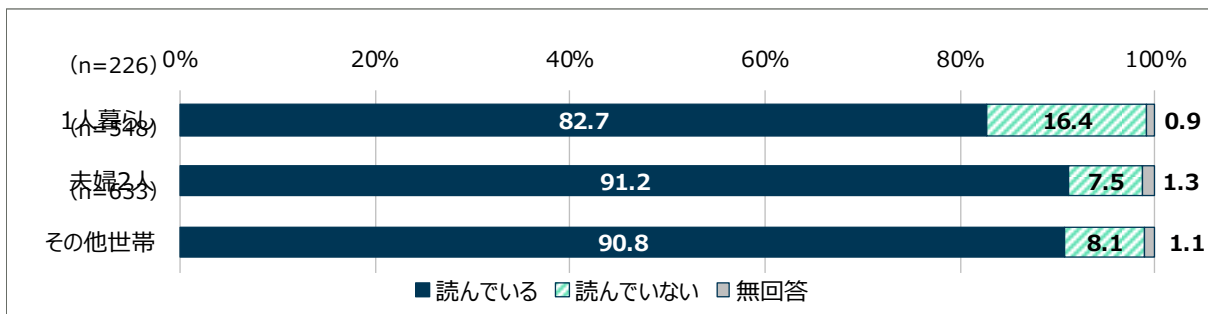
【歯みがき（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか】について、家族構成別に集計すると、1人暮らしで「毎日している」の割合が低くなっています。



【定期的に歯科検診を受けていますか】について、家族構成別に集計すると、1人暮らしで「受けている」の割合が低くなっています。



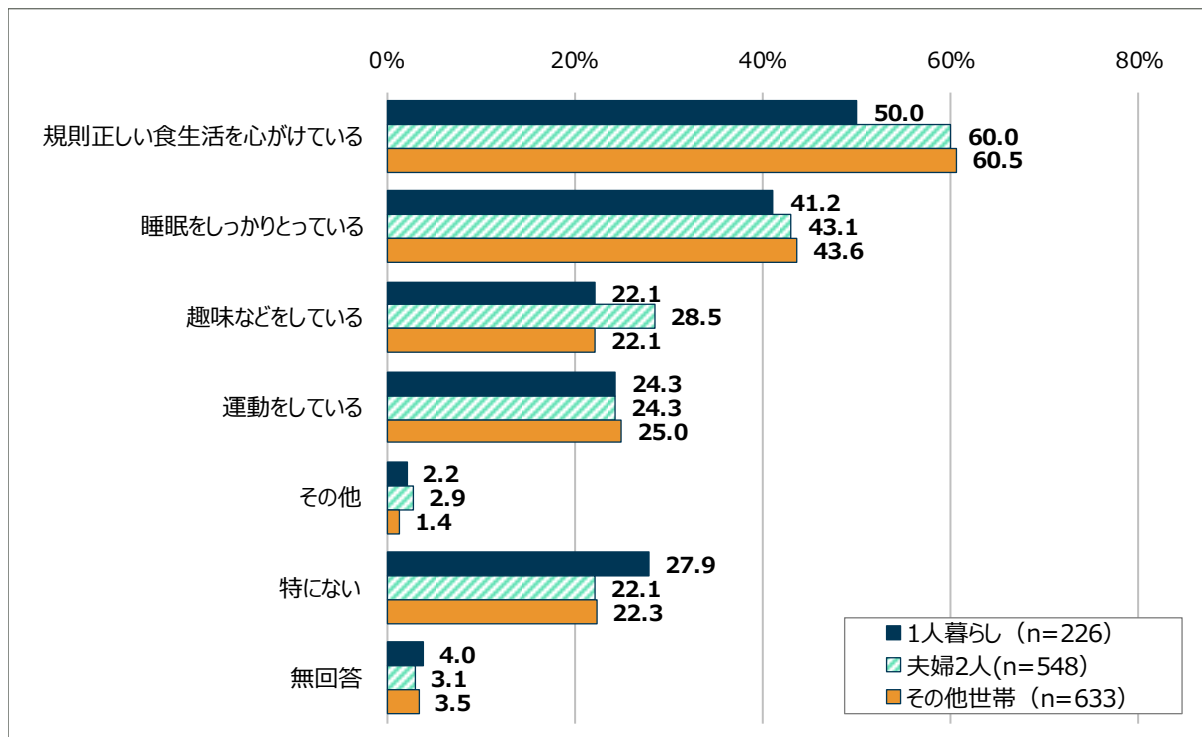
【新聞や本、雑誌を読んでいますか】について、家族構成別に集計すると、1人暮らしで「読んでいる」の割合が低くなっています。



【趣味はありますか】について、家族構成別に集計すると、1人暮らしで「趣味あり」の割合が低くなっています。

【生きがいがありますか】について、家族構成別に集計すると、1人暮らしで「生きがいあり」の割合が低くなっています。

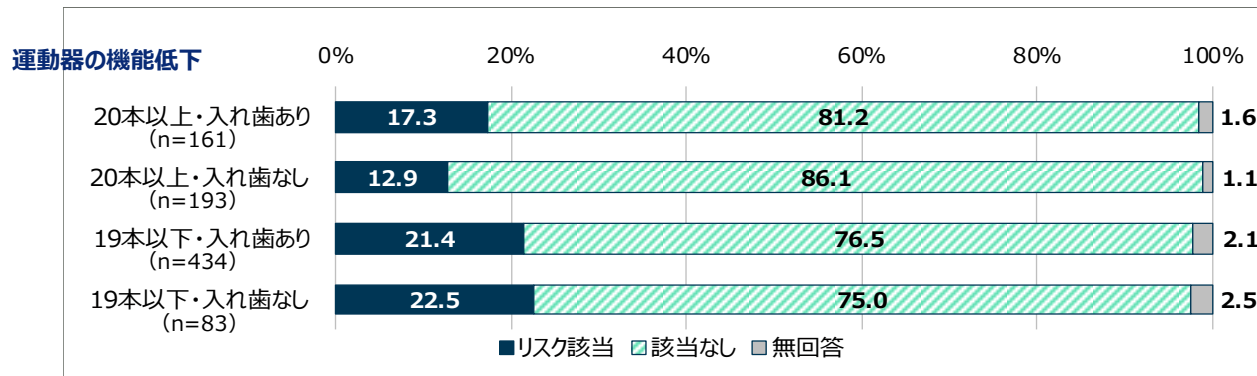
【新型コロナウイルス感染症の影響で、ストレスの解消や体調管理など、工夫していることはありますか（いくつでも）】について、家族構成別に集計すると、1人暮らしで「規則正しい食生活を心がけている」の割合が低く、「特にない」の割合が高くなっています。



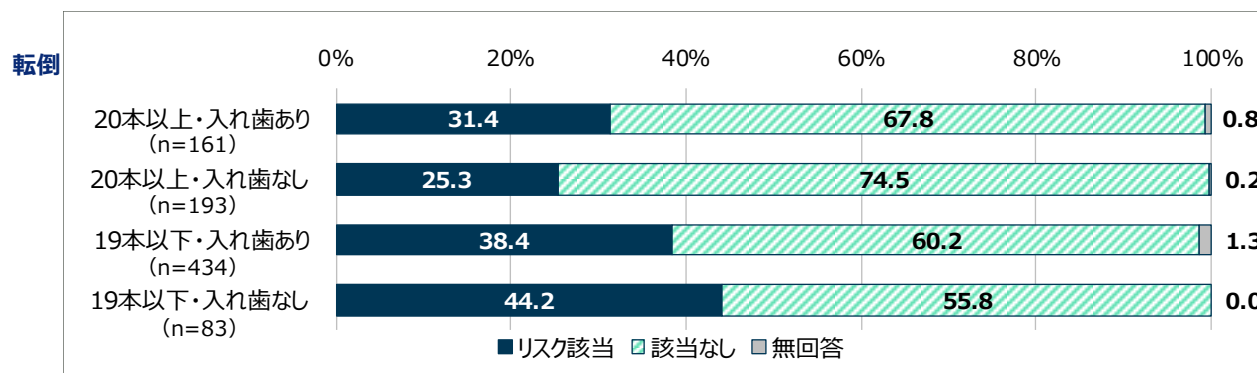
4. 歯の状況

【歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください】では、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が36.4%と最も高くなっています。入れ歯の利用に関わらず自分の歯が20本以上ある割合は49.8%となっています。

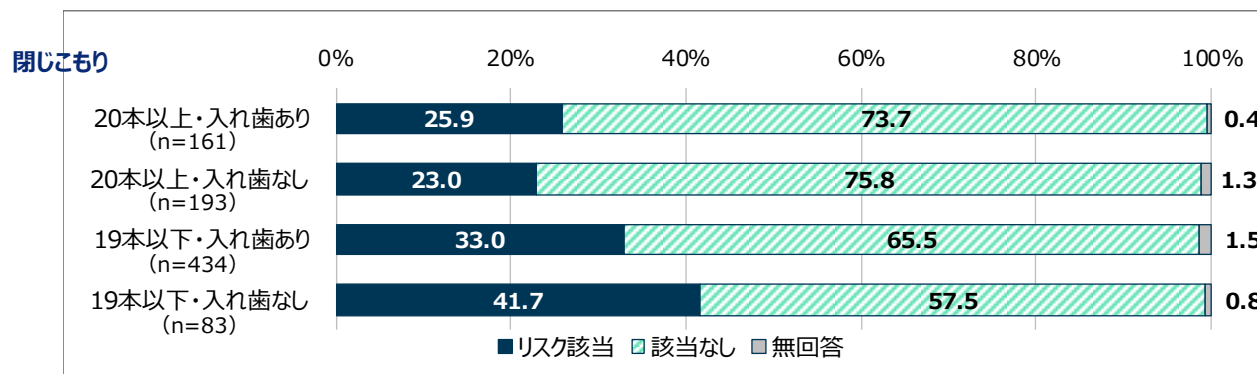
歯の状態別にリスク判定の結果をみると、運動器の機能低下については、自分の歯は20本以上で入れ歯の利用がない群で「リスク該当」の割合が最も低く、自分の歯が19本以下の群で「リスク該当」の割合が高くなっています。



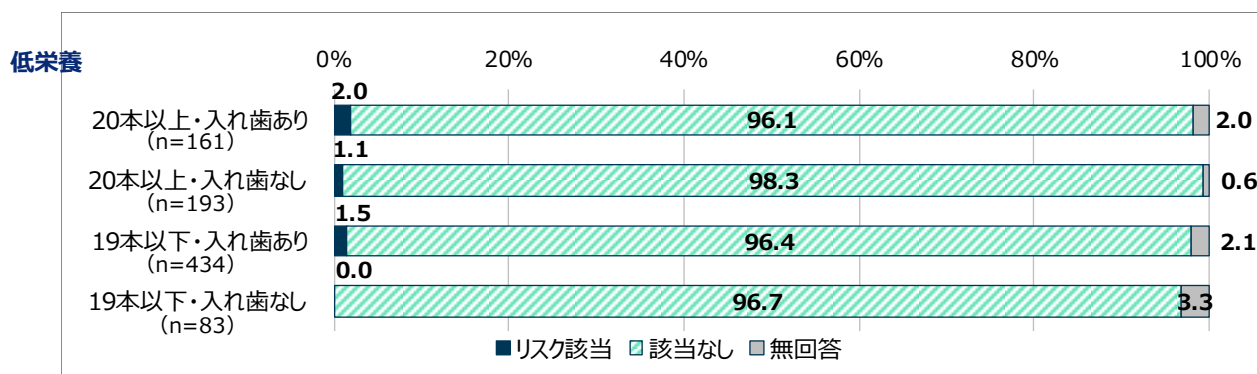
転倒のリスク判定の結果についても同様の傾向がみられ、自分の歯が19本以下で入れ歯の利用がない群で「リスク該当」の割合が最も高くなっています。



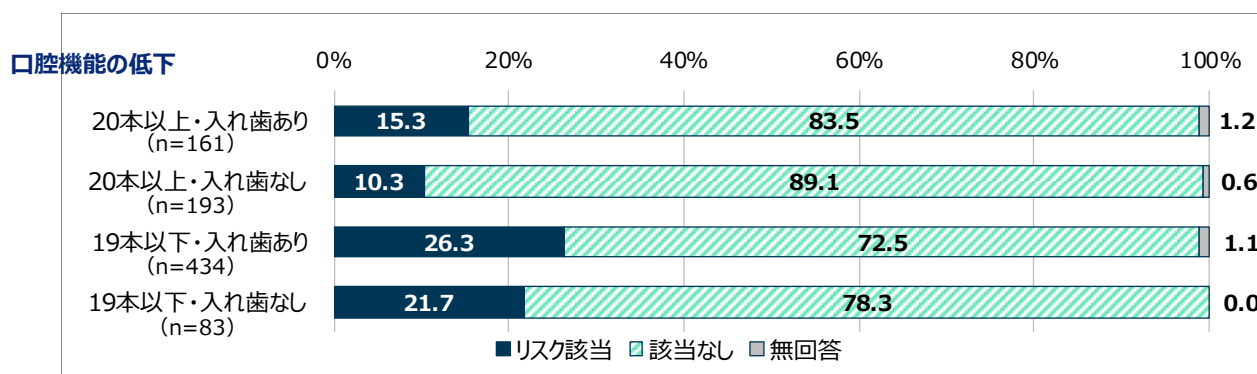
閉じこもりのリスク判定の結果についても同様の傾向がみられ、自分の歯が19本以下で入れ歯の利用がない群で「リスク該当」の割合が最も高くなっています。



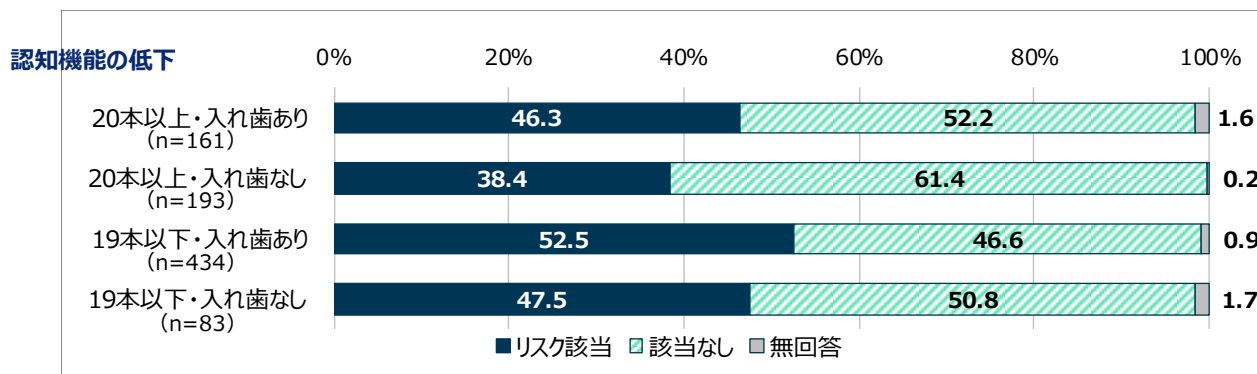
低栄養のリスク判定については、「リスク該当」の割合が低いこともあり、明らかな傾向はみられませんでした。



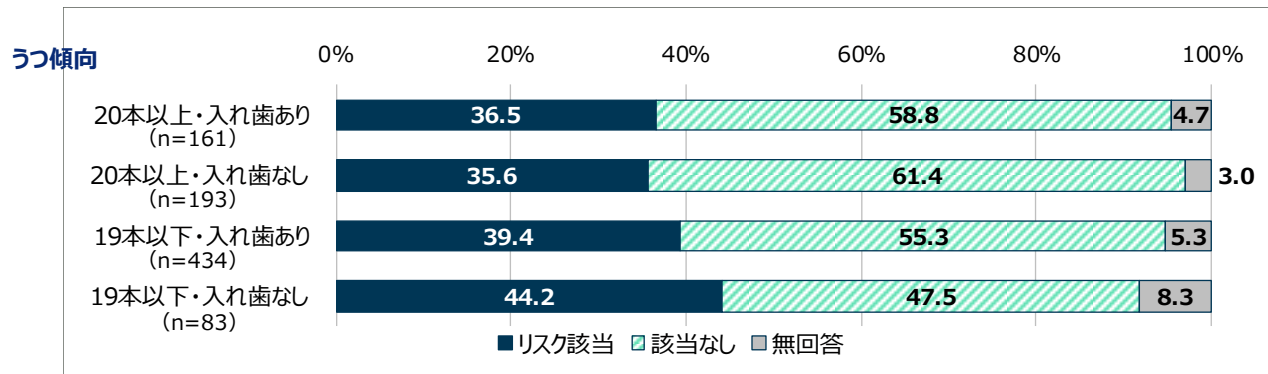
口腔機能の低下のリスク判定については、自分の歯が 19 本以下で入れ歯の利用がある群でリスク該当の割合が最も高くなっています。



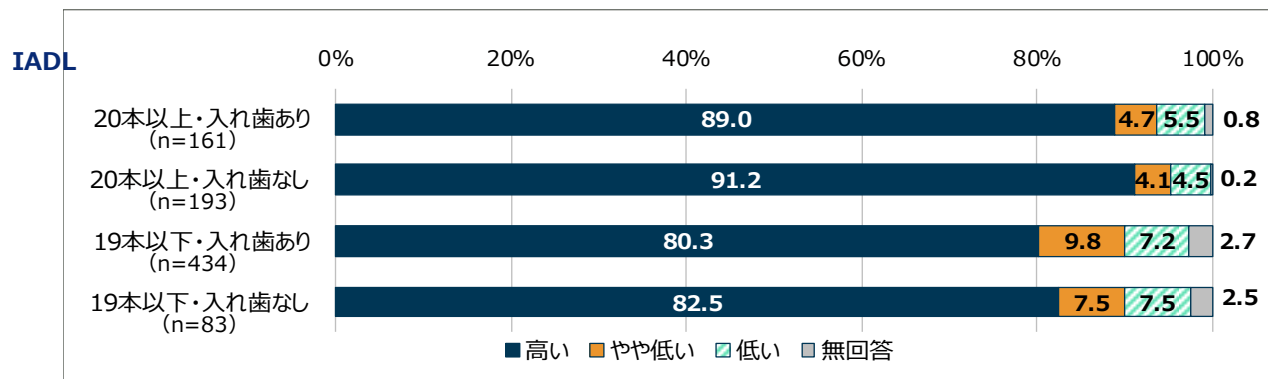
認知機能の低下のリスク判定についても、自分の歯が 19 本以下で入れ歯の利用がある群でリスク該当の割合が最も高くなっています。



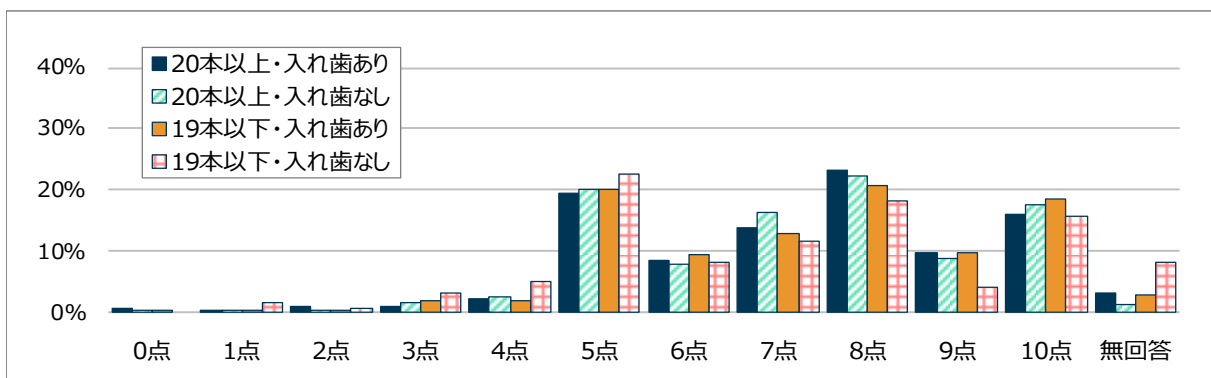
うつ傾向のリスク判定結果については、自分の歯が 19 本以下で入れ歯の利用がない群で「リスク該当」の割合が最も高くなっています。



IADL の判定結果についても、自分の歯が 20 本以上ある群で「高い」割合が高くなっています。



歯の状態別に、「幸福度（とても不幸を 0 点、とても幸せを 10 点とした点数）」の平均点を比較すると、自分の歯が 20 本以上で入れ歯の利用なしの群が最も高く 7.26 点となっています。次いで自分の歯が 19 本以下で入れ歯の利用あり群が 7.23 点、自分の歯が 20 本以上で入れ歯の利用あり群が 7.18 点で、自分の歯が 19 本以下で入れ歯の利用がない群は 6.76 点となっています。



※ グラフの数値については省略しています。

まとめ

介護予防日常生活圏域二ーズ調査の目的

高齢者の健康状態や日常生活の状況、地域のニーズや課題を把握することを目的として実施しました。

【今回調査結果と前回調査結果のリスク比較 P.18～】

各項目のリスク分析において、前回調査から大きく変化した項目は無い結果となりました。

また、一般高齢者→事業対象者→要支援1→要支援2と、要介護認定の状況によってリスク割合が高くなる結果となりました。

項目	リスク該当割合			掲載ページ
	R4	R1	差	
運動器機能	18.5%	19.2%	△0.7%	P.18
転倒	34.4%	34.6%	△0.2%	P.20
閉じこもり	30.1%	27.1%	3.0%	P.22
低栄養	1.2%	1.0%	0.2%	P.24
口腔機能	18.8%	17.5%	1.3%	P.26
認知機能	45.8%	45.1%	0.7%	P.28
うつ傾向	37.4%	35.7%	1.7%	P.30
IADL	6.3%	7.4%	△1.1%	P.32

【地域づくりへの参加意向 P.41～】

地域の傾向として、地域づくりへの参加意向がある市民の割合が高く、参加意向がある市民は52.2%になりました。

また、参加意向のある方は、1か月間に会った友人、知人の数が多いほど高くなることから、社会とのつながりが強いほど、地域づくりへの参加意向も高くなる結果となりました。

【外出のリスク分析 P.45】

外出機会は、「週に2～4回」と回答した者が42.7%と最も高く、週1回以上の外出とした場合は、91.8%の者が外出をしている結果となりました。

なお、外出が週1回以上ある場合と無い場合のリスク該当の割合は以下の通りで、週1回以上外出することでリスクが大幅に軽減する結果となりました。

また、週1回以上外出する方は、週1回未満の外出の方と比較すると、「生きがい」や「幸福度」は高い結果となりました。

項目	週1回以上の外出	週1回未満の外出	差	掲載ページ
運動器機能	15.9%	53.4%	37.5%	P.45
転倒	33.1%	51.5%	18.4%	
閉じこもり	25.1%	100.0%	74.9%	
低栄養	1.3%	1.0%	△0.3%	

口腔機能	17.8%	32.0%	14.2%
認知機能	44.6%	58.3%	13.7%
うつ傾向	36.3%	51.5%	15.2%
IADL	4.4%	29.1%	24.7%

【家族構成と生活習慣 P.46】

現在、健康寿命の延伸にあたり、歯の重要性は認識されていますが、歯に着目し、一人暮らし、夫婦 2 人暮らし、その他の世帯で比較した場合、一人暮らしの方の「歯磨き」や「歯科検診の受診状況」の割合が低い結果となりました。

【歯の状況から見るリスク分析 P.48～】

妙高市では、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 36.4%と最も高く、入れ歯の利用に関わらず自分の歯が 20 本以上ある方の割合は 49.8%であり、2 人に 1 人は歯の数が 19 本以下の結果となりました。国では 80 歳で 20 本以上の歯を残すことを目標として掲げていることから、口腔状態の改善が必要と考えられます。

また、20 本以上ある人と、19 本以下の人でリスク分析をすると、20 本以上あるの方がリスクが軽減しており、更に、「入れ歯なしで 20 本以上」の方と、「20 本以上で入れ歯あり」の方で比較した場合、「入れ歯なしで 20 本以上」の方の方が、よりリスクが低い結果となりました。

項目	リスク割合				掲載ページ
	20 本以上	20 本以上	19 本以下	19 本以下	
	入れ歯なし	入れ歯あり	入れ歯なし	入れ歯あり	
運動機能	12.9%	17.3%	22.5%	21.4%	P48
転倒	25.3%	31.4%	44.2%	38.4%	P48
閉じこもり	23.0%	25.9%	41.7%	33.0%	P48
低栄養	1.1%	2.0%	0.0%	1.5%	P49
口腔機能の低下	10.3%	15.3%	21.7%	26.3%	P49
認知機能の低下	38.4%	46.3%	47.5%	52.5%	P49
うつ傾向	35.6%	36.5%	44.2%	39.4%	P50
IADL	4.5%	5.5%	7.5%	7.2%	P50

妙高市

在宅介護実態調査報告書【概要版】

1. 調査目的

本調査は、令和 5 年度に策定する第 9 期介護保険事業計画において、高齢者等の適切な在宅生活の継続と家族等介護者の就労継続の実現に向けた介護サービスの在り方を検討し、これからの介護保険サービス等、施策の充実を図るための基礎資料とすることを目的として実施しました。

2. 調査方法

- 調査対象者：令和 4 年 4 月 1 日時点において、市内在住で要支援・要介護認定を受けている方のうち、主に在宅で生活（住民票が自宅にある方）されている方で更新申請対象者 923 人
- 調査期間：令和 4 年 4 月～令和 4 年 12 月
- 調査方法：郵送による配布・調査員による回収

3. 回収結果

- 調査対象者数：923 人
 - 回収数（回収率）：435 件（47.1%）
 - 有効回答数：435 件
 - 認定データ調査数：420 件
- ※ アンケート調査結果と認定・給付データを突合し、集計を行っています。
（認定・給付データと突合できないデータがあるため n 値は一致しません。）

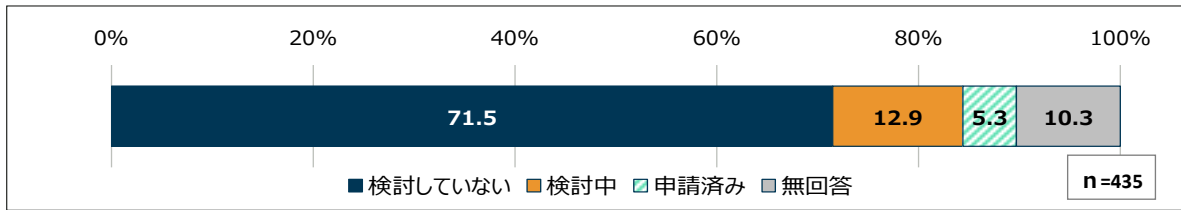
4. 報告書の見方

- ① 報告書中の「n」の数値は、設問への回答者数を表します。
- ② 回答の比率（%）は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表記しています。このため、回答率の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ③ 回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問については、回答率の合計が 100.0%を超えることがあります。
- ④ 集計結果については、基本属性等が不明・無回答なものがあるため、集計により n 値（回答者数）が一致しない場合があります。
- ⑤ クロス集計結果については、無回答を除いて集計しているため、単純集計の数値とは一致しないことがあります。

1. 施設等検討の状況

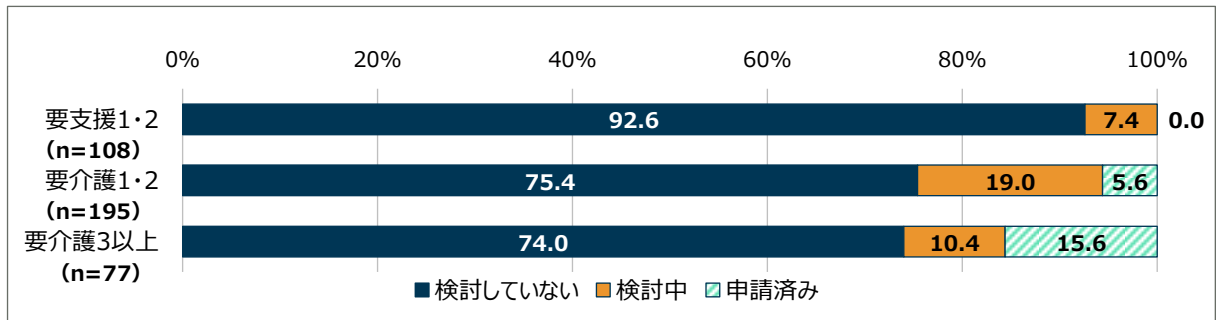
「検討していない」が71.5%と最も高くなっていますが、前回調査より20.8ポイント減少しています。

施設等検討の状況



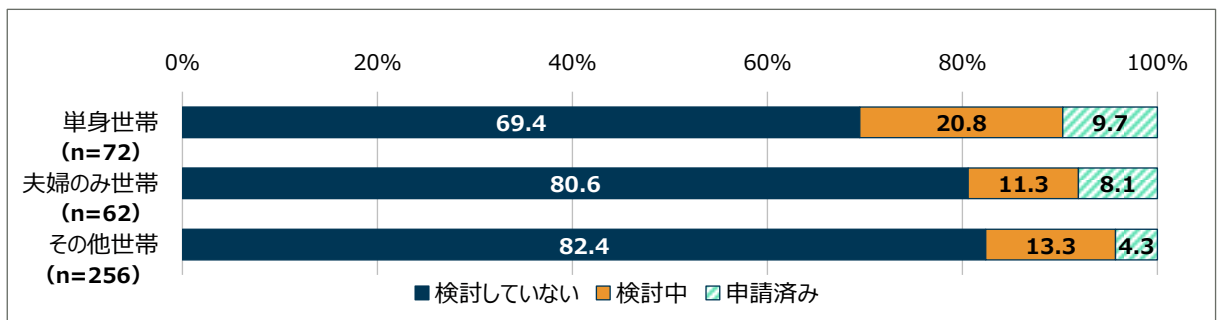
施設等の検討状況を要介護度（二次判定結果）別にみると、要支援1・2で「検討していない」の割合が最も高く92.6%となっています。反対に、「申請済み」の割合が最も高いのは要介護3以上で、15.6%となっています。要介護1・2では「検討中」の割合が最も高く19.0%となっています。

要介護度別 施設等検討の状況



施設等の検討状況を世帯類型別にみると、単身世帯で「申請済み」「検討中」の割合が高くなっています。「検討していない」の割合が最も高いのはその他世帯となっています。

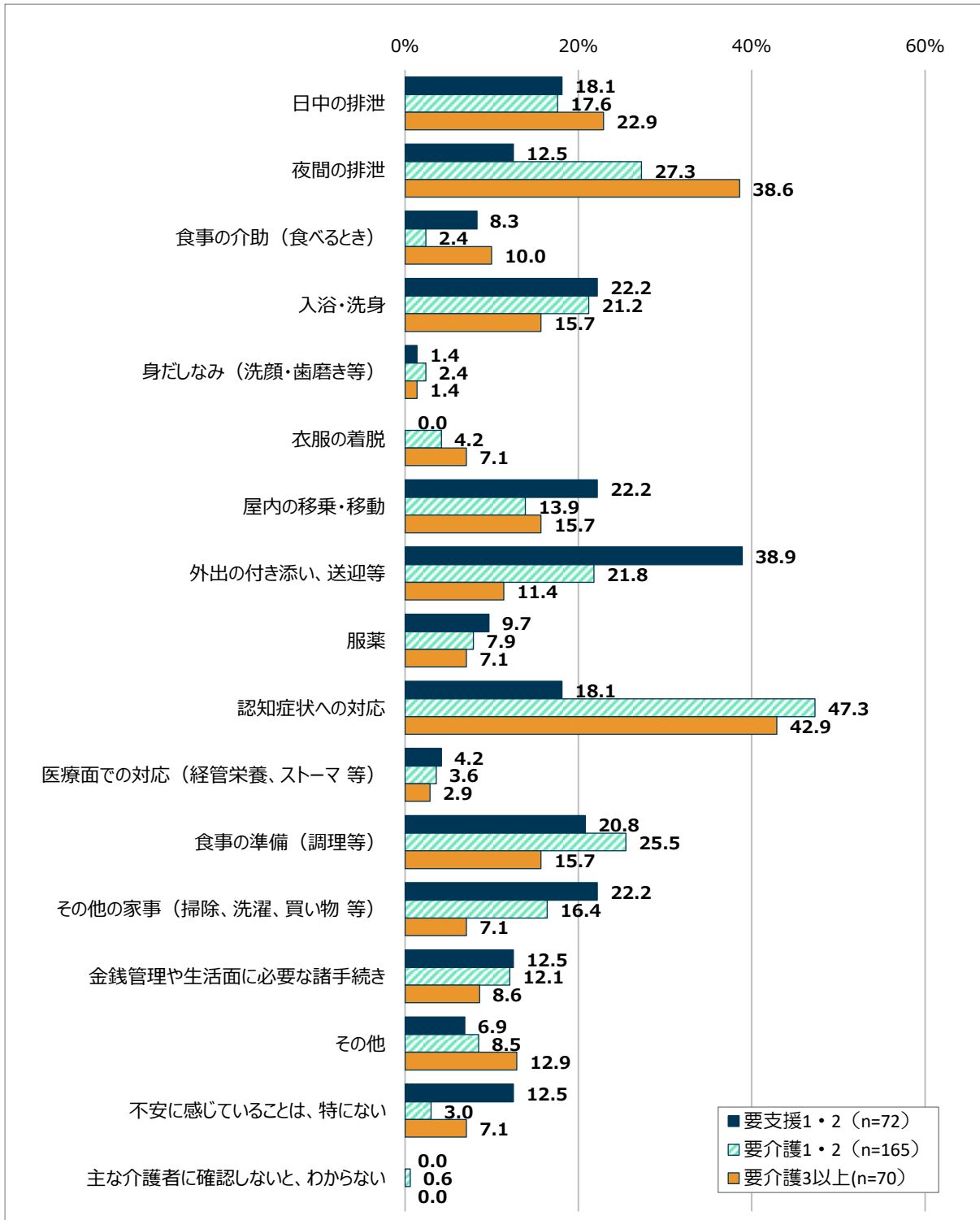
世帯類型別 施設等検討の状況



2. 介護者が不安を感じる介護

介護者が不安を感じる介護について要介護度別にみると、要支援1・2では「外出の付き添い、送迎等」が最も高く38.9%となっていますが、要介護1・2と要介護3以上では「認知症状への対応」の割合が最も高くなっています。「夜間の排泄」も要介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護3以上では38.6%となっています。

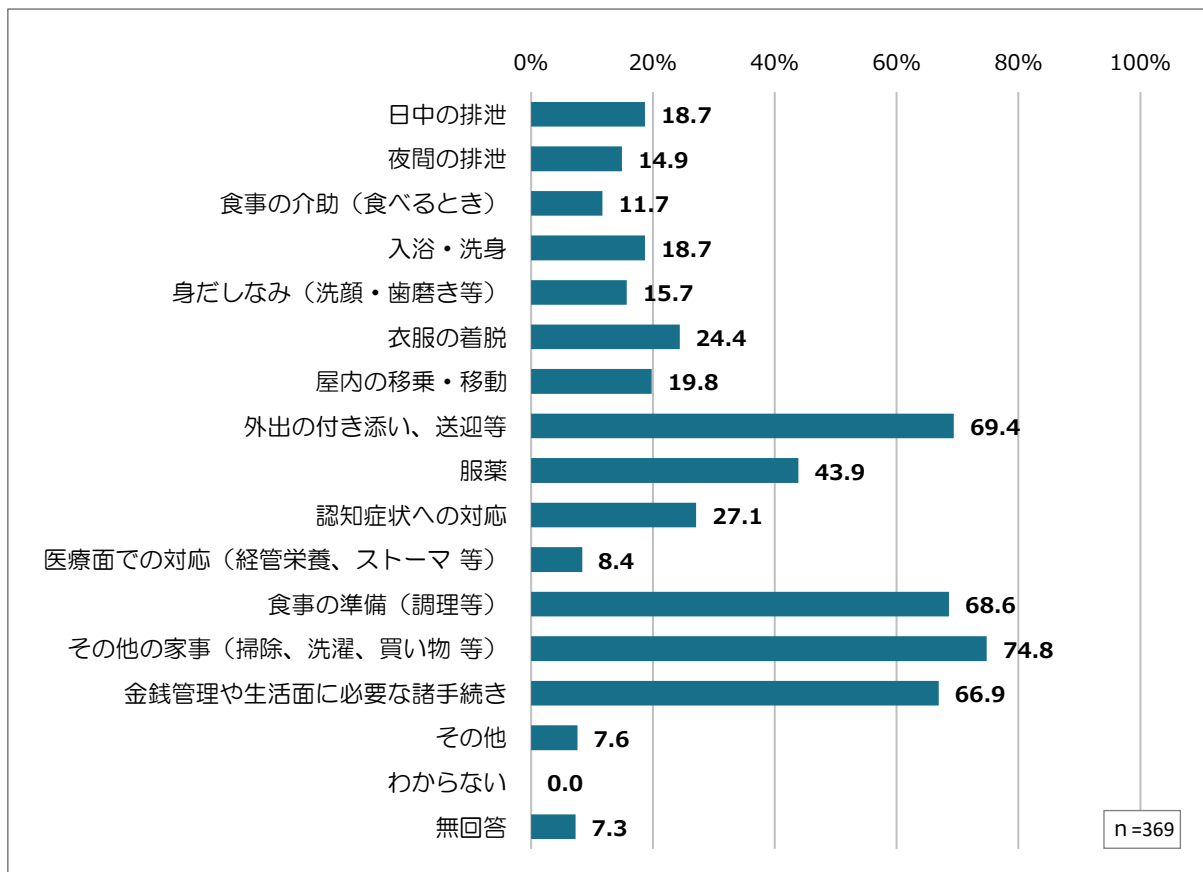
要介護度別 介護者が不安を感じる介護



3. 要介護度別 主な介護者が行っている介護

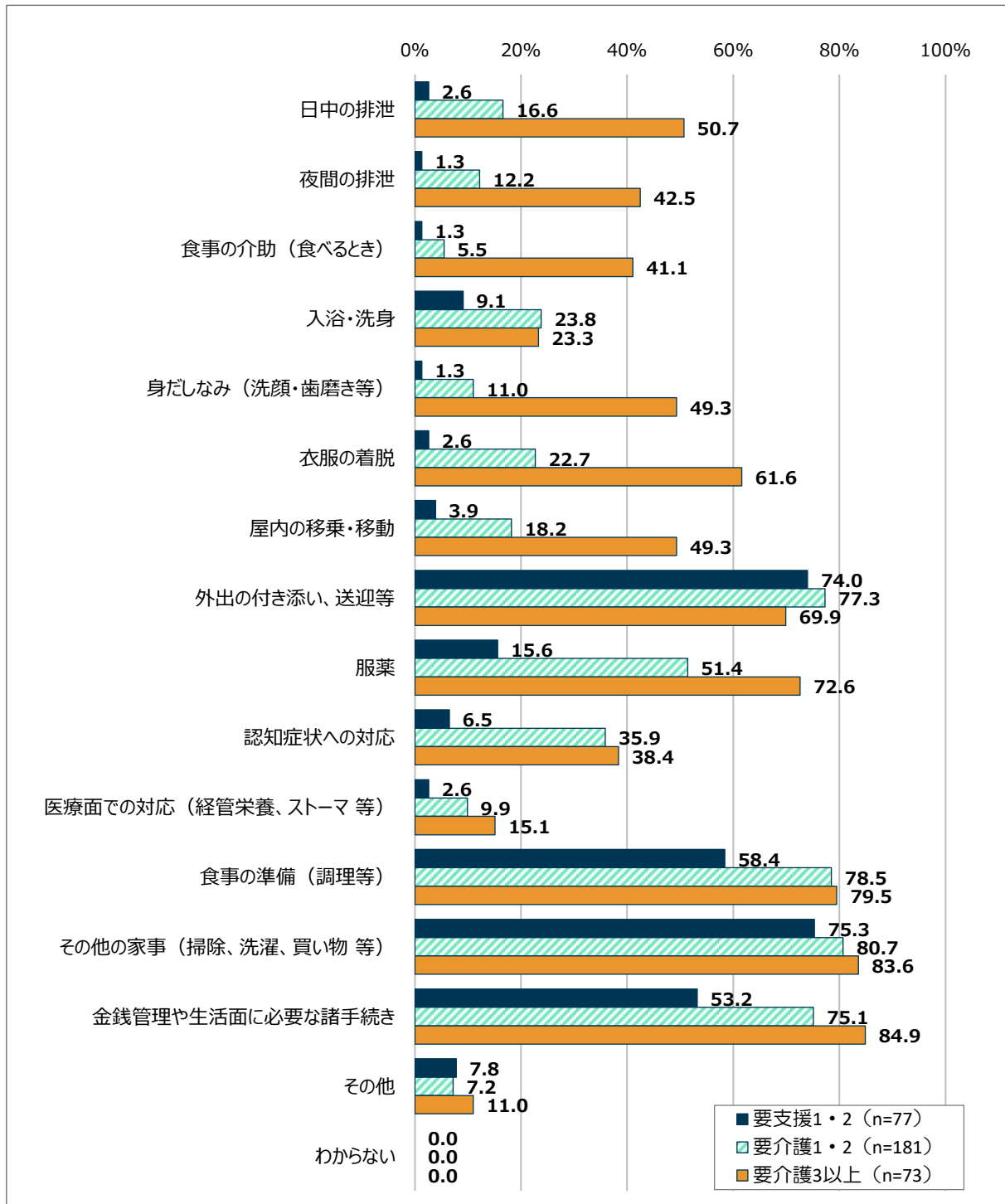
「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 74.8%と最も高くなっています。次いで、「外出の付き添い、送迎等」が 69.4%、「食事の準備（調理等）」が 68.6%、「金銭管理や生活面に必要な手続き」が 66.9%となっており、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」は 8.4%となっています。

主な介護者が行っている介護



要介護度別に主な介護者が行っている介護をみると、単純集計で割合が高かった「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」「外出の付き添い、送迎等」「食事の準備（調理等）」については、要支援1・2でも割合が高くなっています。要介護1・2になると、「金銭管理や生活面に必要な手続き」「服薬」「認知症状への対応」等の割合が高くなり、要介護3以上になると、それらに加えて「衣服の着脱」「日中の排泄」「身だしなみ」「夜間の排泄」「食事の介助（食べる時）」の割合が高くなっています。「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」も要介護度の重度化に伴い割合が高くなっています。

要介護度別 主な介護者が行っている介護



4. サービス等の組み合わせ

介護保険サービスの利用回数・利用の組み合わせ等に着眼した集計・分析を行うため、介護保険サービスを大きく、「訪問系」、「通所系」、「短期系」の3つに分類して集計しました。介護保険サービスの中には介護予防・日常生活支援総合事業を通じて提供される「介護予防・生活支援サービス」も含まれます。

サービス利用の分析に用いた用語の定義

用語		定義
未利用		・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、未利用として集計しています。
訪問系		・（介護予防）訪問介護、（介護予防）訪問入浴介護、（介護予防）訪問看護、（介護予防）訪問リハビリテーション、（介護予防）居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計しています。
通所系		・（介護予防）通所介護、（介護予防）通所リハビリテーション、（介護予防）認知症対応型通所介護を「通所系」として集計しています。
短期系		・（介護予防）短期入所生活介護、（介護予防）短期入所療養介護を「短期系」として集計しています。
その他	小規模多機能	・（介護予防）小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計しています。
	看護多機能	・看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計しています。
	定期巡回	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計しています。

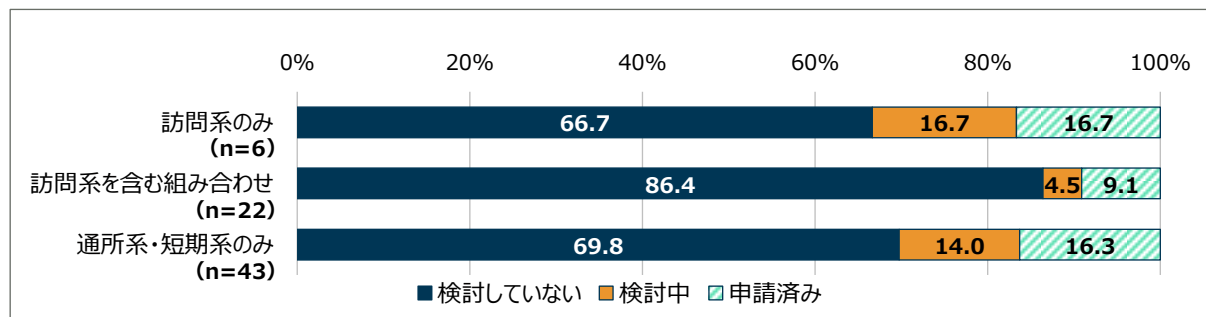
サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義

用語	定義
未利用	・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、未利用として集計しています。
訪問系のみ	・上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計しています。
訪問系を含む組み合わせ	・上表の「訪問系（もしくは定期巡回）」+「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」+「短期系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」+「通所系」+「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計しています。
通所系・短期系のみ	・上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」+「短期系」の利用を集計しています。

5. サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況の関係

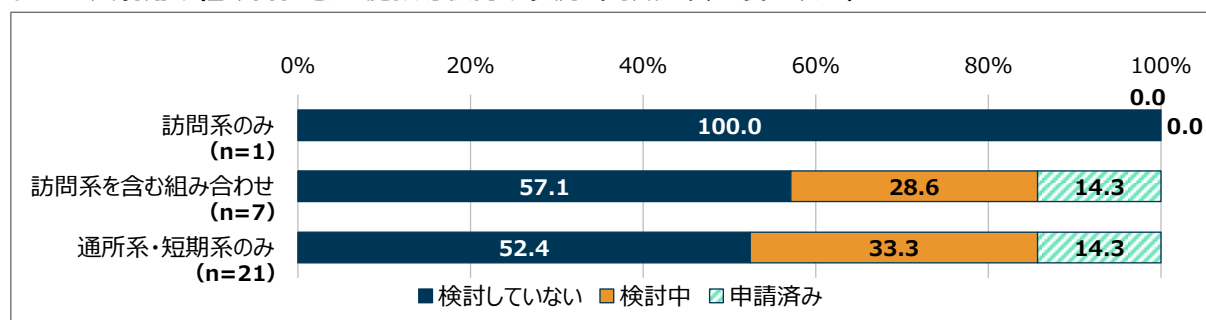
要介護3以上の方の施設等検討の状況について、サービス利用の組み合わせ別にみると、訪問系を含む組み合わせで「検討していない」の割合が高く86.4%となっています。

サービス利用の組み合わせ別 施設等検討の状況（要介護3以上）



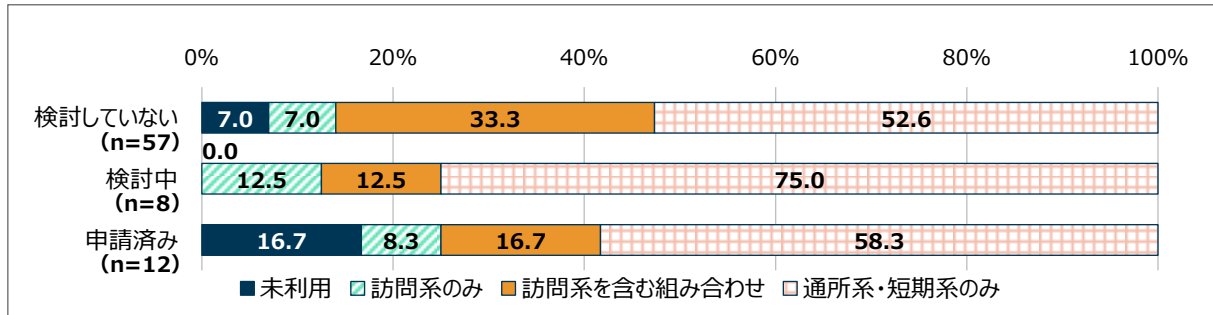
認知症自立度Ⅲ以上の方の施設等検討の状況について、サービス利用の組み合わせ別に集計しましたが、n値（回答者数）が少ないため傾向を把握することはできませんでした。

サービス利用の組み合わせ別 施設等検討の状況（認知症自立度Ⅲ以上）



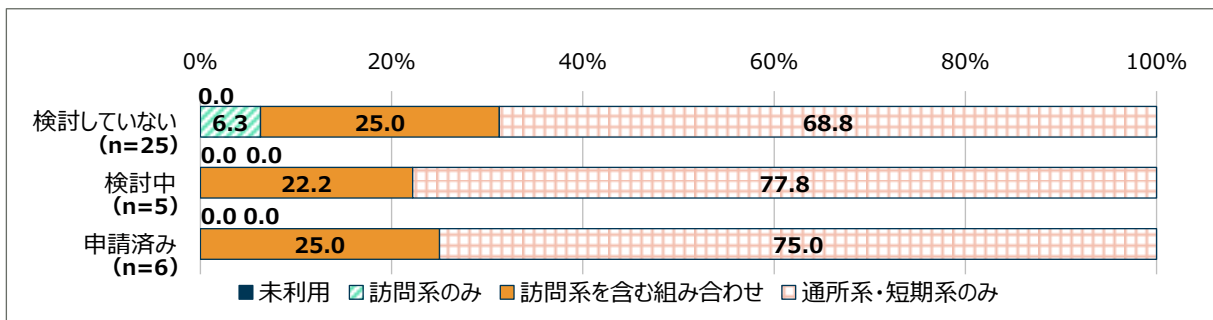
要介護 3 以上の方のサービス利用の組み合わせについて、施設等検討の状況別にみると、施設等検討の状況に関わらず「通所系・短期系」の割合が最も高くなっています。施設等への入所・入居を検討していない群では「訪問系を含む組み合わせ」の割合が 33.3%と高くなっています。また、申請済みの群で「未利用」の割合が高く 16.7%となっています。

施設等検討の状況別 サービス利用の組み合わせ (要介護 3 以上)



認知症自立度Ⅲ以上の方のサービス利用の組み合わせについて、施設等検討の状況別に集計しましたが、n 値（回答者数）が少ないため傾向を把握することはできませんでした。

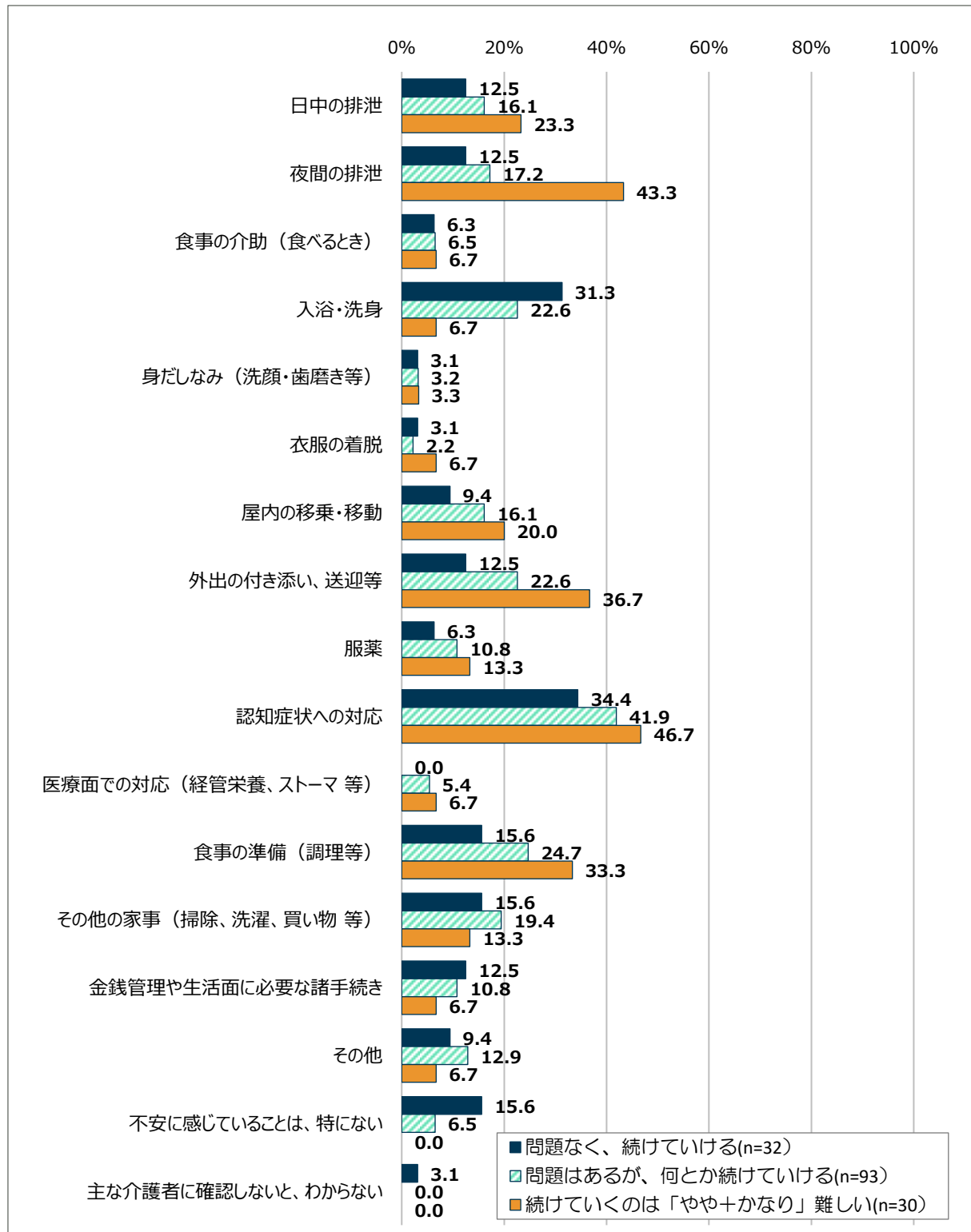
施設等検討の状況別 サービス利用の組み合わせ (認知症自立度Ⅲ以上)



6. 就労継続と介護者が不安に感じる介護

問題なく、続けていけると感じている群では「不安に感じていることは、特にない」の割合が15.6%となっていますが、就労の継続は困難と考えている群では0.0%となっています。就労の継続見込みに関わらず、「認知症状への対応」の割合が最も高くなっていますが、特に就労の継続は困難と考えている群で割合が高く、46.7%となっています。就労の継続は困難と考えている群で、次いで割合が高いのは「夜間の排泄」で43.3%となっています。

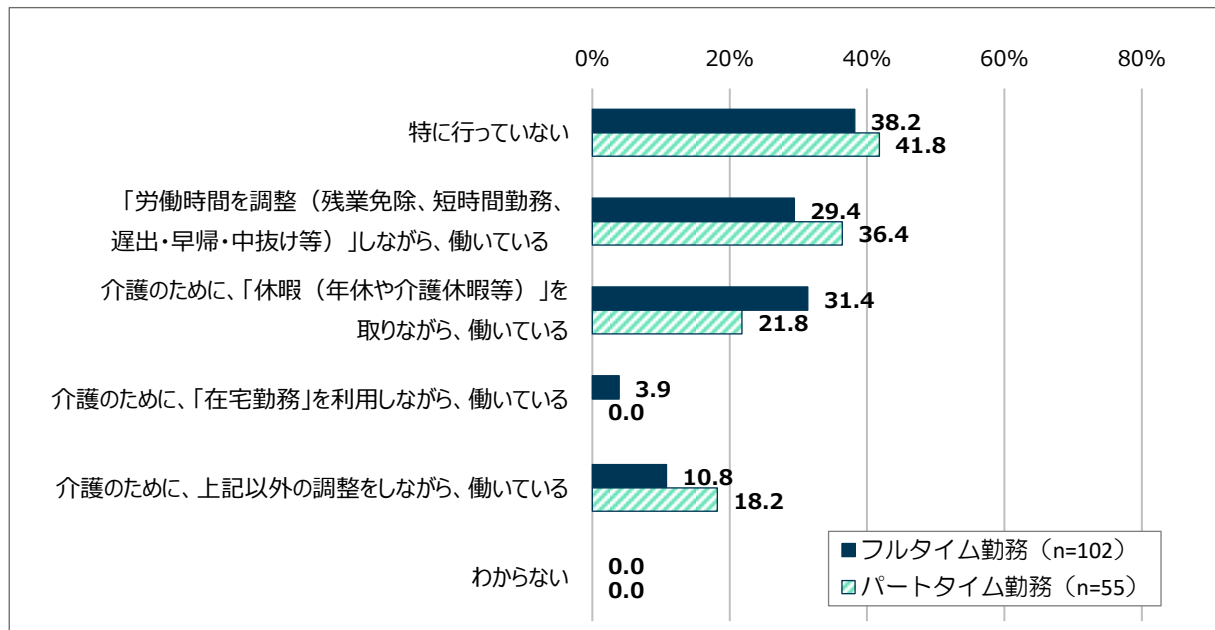
就労継続見込み別 介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



7. 就労状況別の介護のための働き方の調整

介護のための働き方の調整について、就労状況別にみると、フルタイム勤務、パートタイム勤務共に「特に行っていない」の割合が最も高くなっています。次いで、フルタイム勤務では「介護のために、休暇を取りながら、働いている」が31.4%、パートタイム勤務では「労働時間を調整しながら働いている」が36.4%となっています。

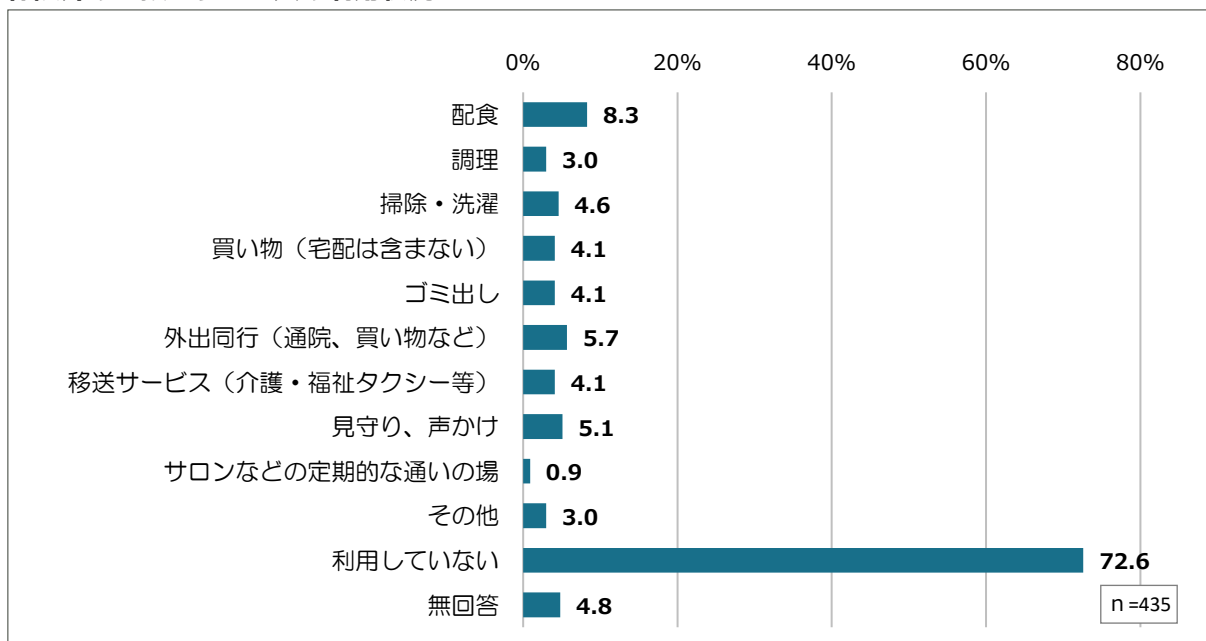
就労状況別 介護のための働き方の調整



8. 保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

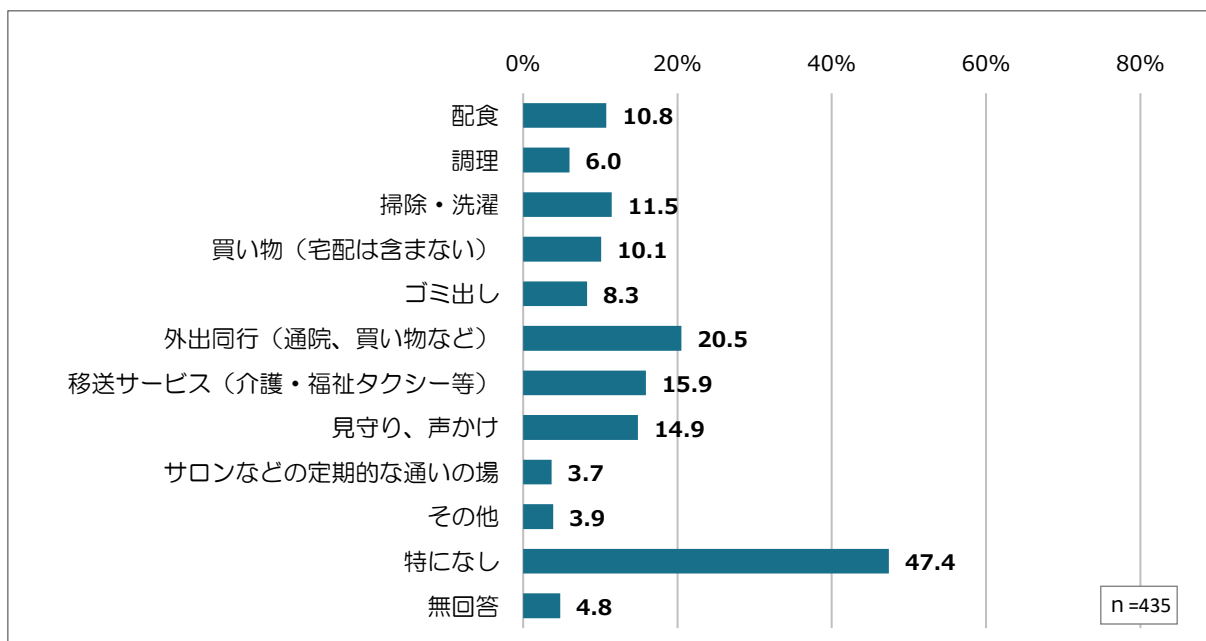
「利用していない」が 72.6%となっています。利用している保険外の支援・サービスは「配食」が 8.3%と最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 5.7%、「見守り、声かけ」が 5.1%などとなっています。

保険外の支援・サービスの利用状況



「特になし」が 47.4%となっています。在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスとしては、「外出同行（通院、買い物など）」が 20.5%と最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 15.9%、「見守り、声かけ」が 14.9%などとなっています。

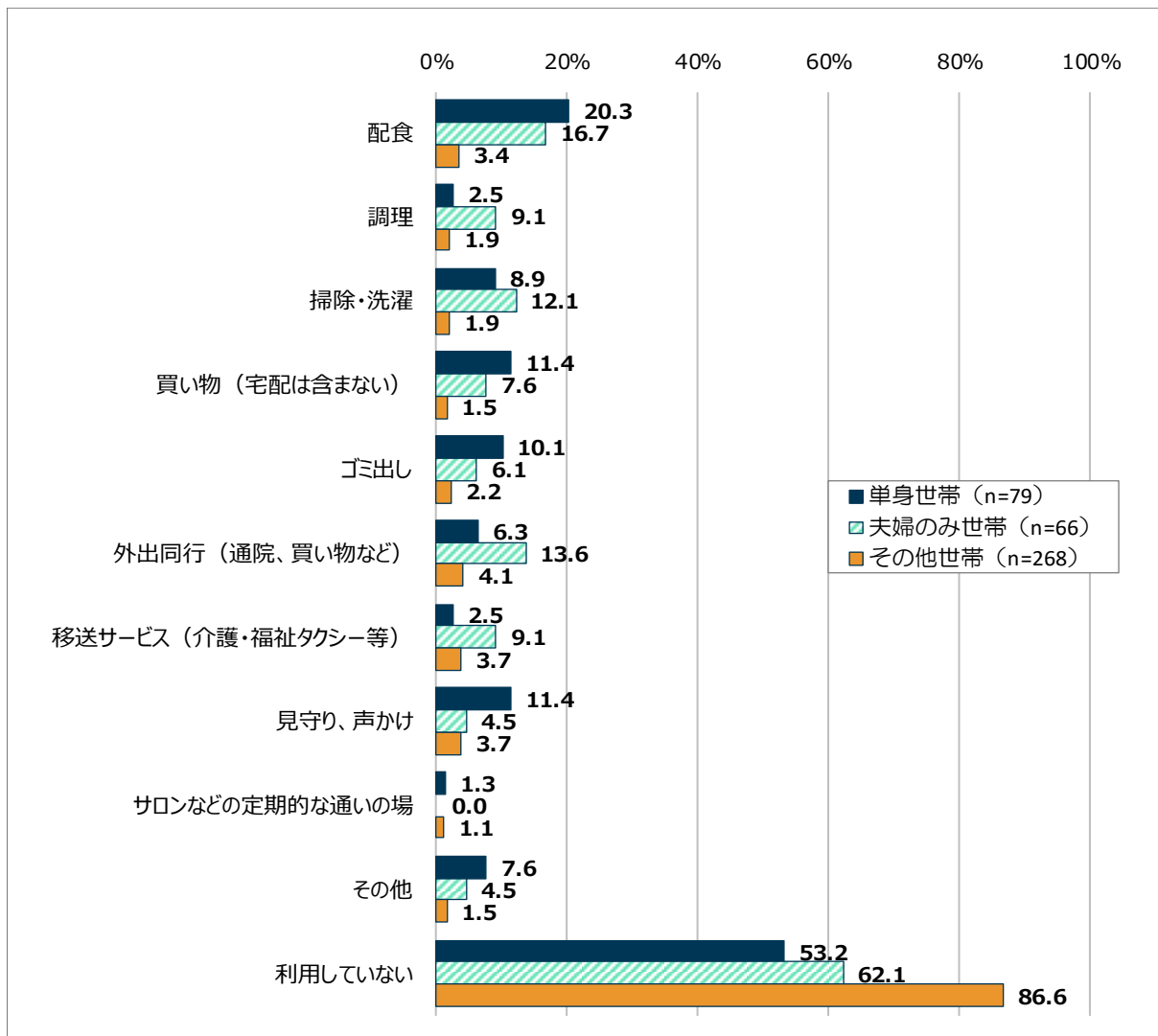
在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



9. 世帯類型別の保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

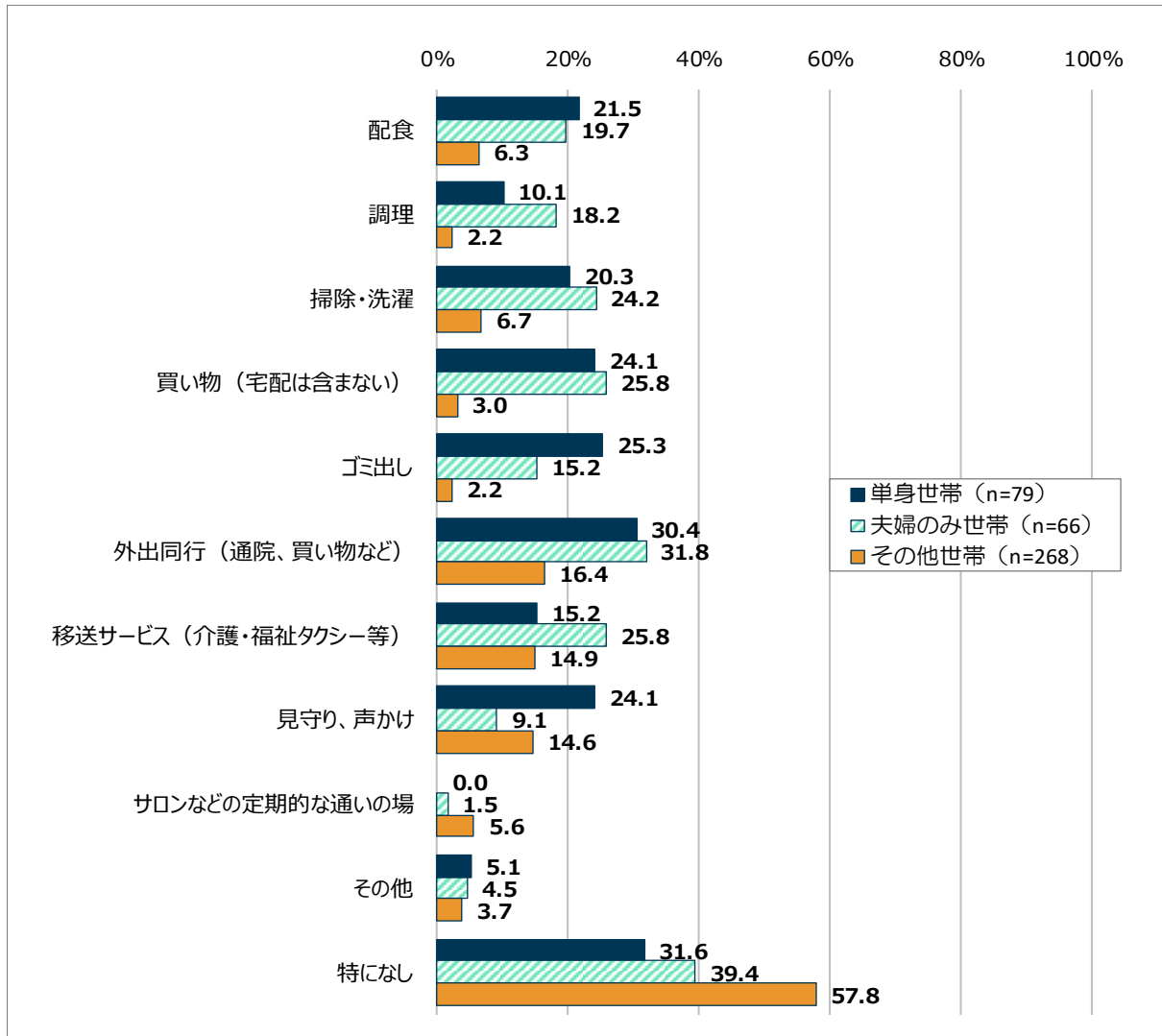
すべての世帯で「利用していない」の割合が最も高くなっていますが、特にその他世帯で割合が高く、86.6%となっています。単身世帯で利用している割合が最も高いのは「配食」で20.3%、次いで「買い物（宅配は含まない）」「見守り、声かけ」が11.4%となっています。夫婦のみ世帯でも利用しているサービスは「配食」が最も高く16.7%、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が13.6%となっています。

世帯類型別 保険外の支援・サービスの利用状況



すべての世帯で「特になし」の割合が最も高くなっていますが、特にその他世帯で割合が高く、57.8%となっています。在宅生活の継続に必要と感じるサービスとして、単身世帯で割合が最も高いのは「外出同行（通院、買い物など）」で30.4%、次いで「ゴミ出し」が25.3%となっています。夫婦のみ世帯でも必要と感じるサービスは「外出同行（通院、買い物など）」が最も高く31.8%、次いで「買い物（宅配は含まない）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が25.8%となっています。

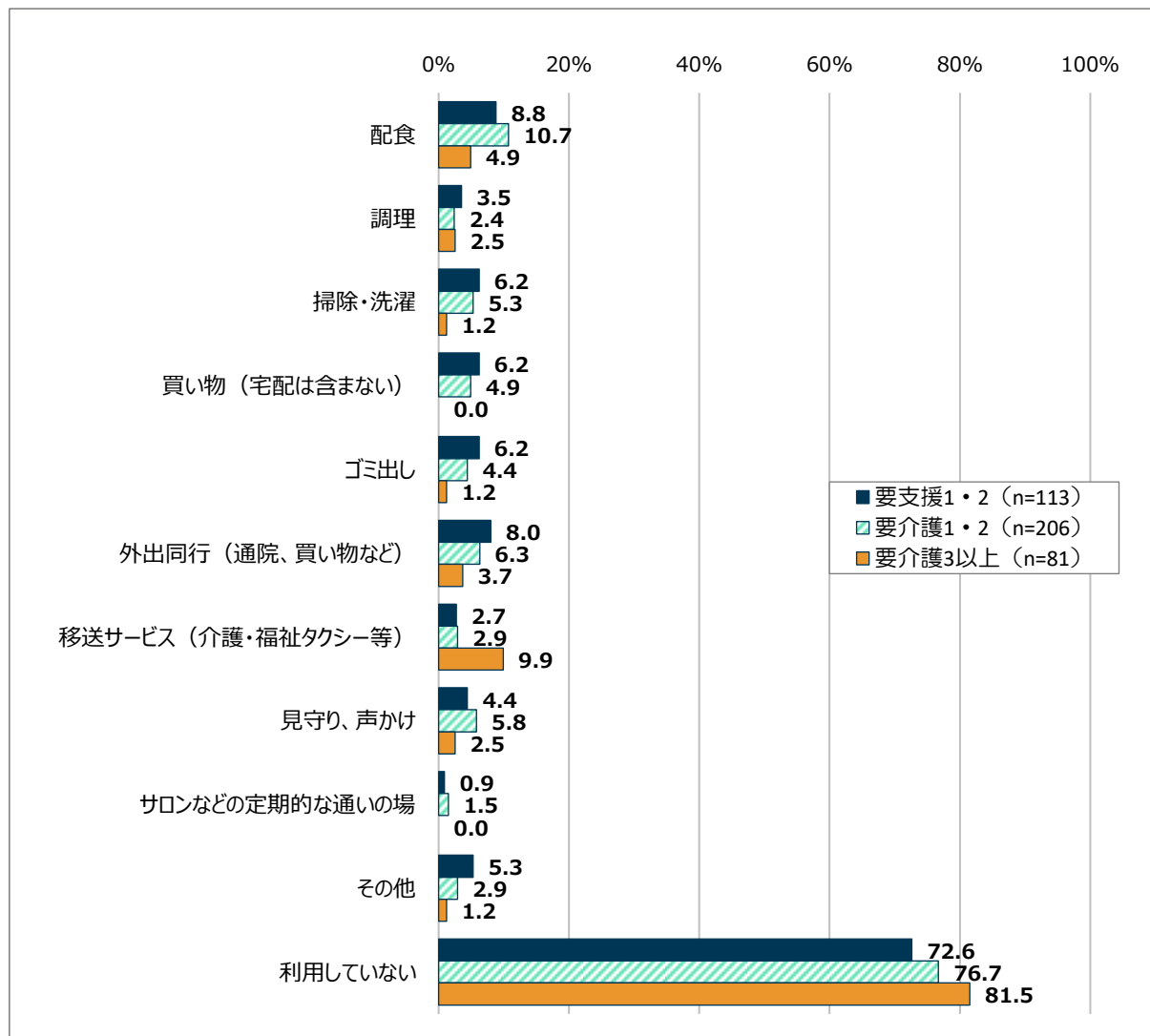
世帯類型別 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



10. 要介護度別×保険外の支援・サービスの利用状況

要介護度に関わらず、「利用していない」の割合が最も高く、要介護度が重度化するほど「利用していない」の割合が高くなっています。要支援 1・2 と要介護 1・2 で利用している割合が最も高いのは「配食」ですが、要介護 3 以上では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が最も高く、9.9%となっています。

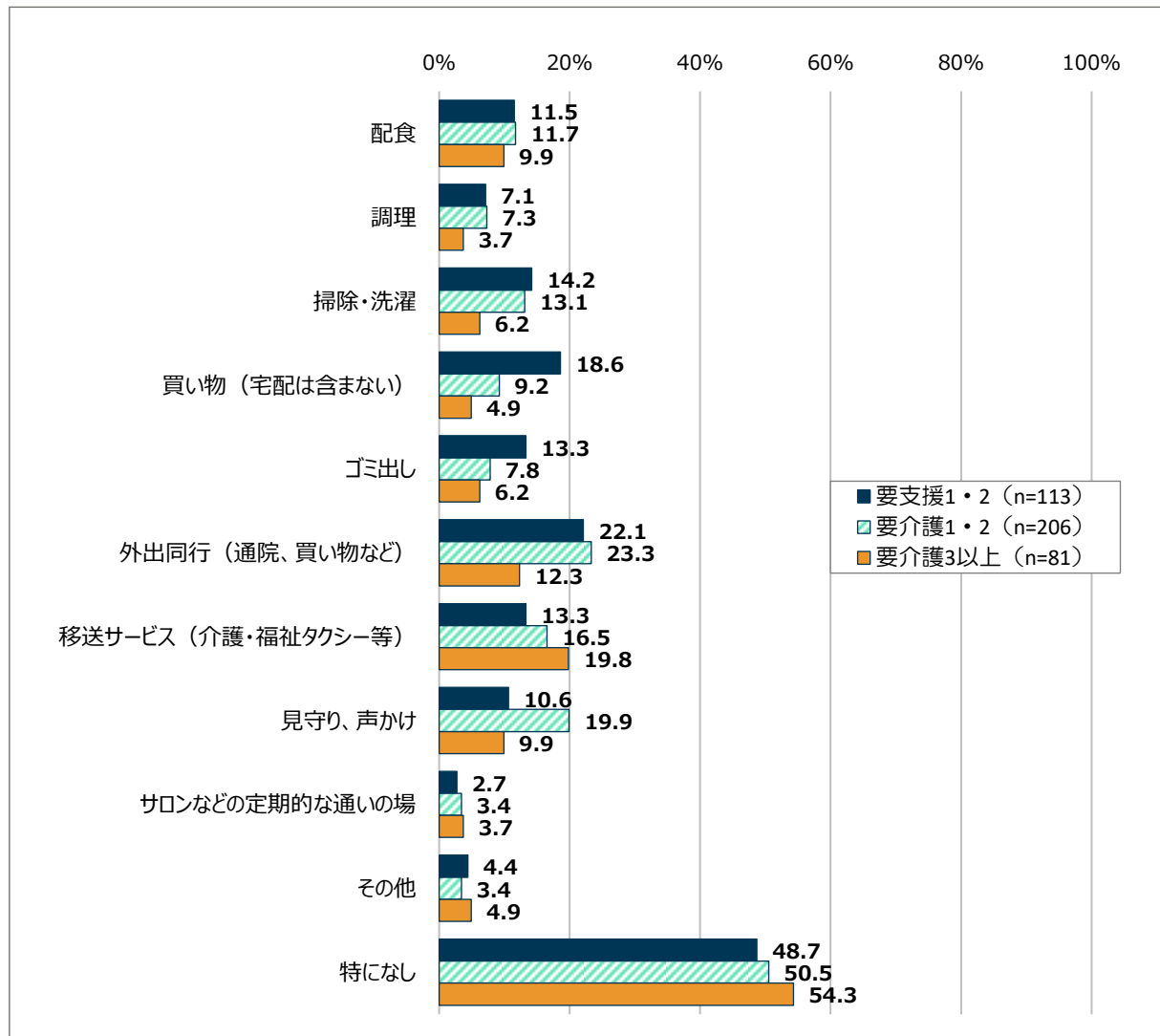
要介護度別 保険外の支援・サービスの利用状況



11. 要介護度別×在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、要介護度別にみると、要介護度の重度化に伴い「特になし」の割合が高くなっています。一方で、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」は、要介護度の重度化に伴い必要と感じる割合が高くなっています。

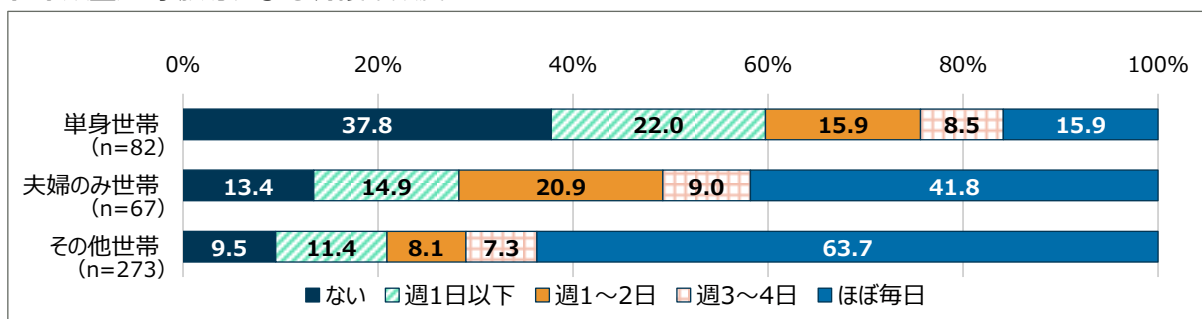
要介護度別 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



12. 世帯類型別の家族等による介護の頻度

世帯類型別に家族等による介護の頻度をみると、単身世帯では「ない」の割合が 37.8%と最も高く、次いで「週 1 日以下」が 22.0%となっています。一方で、夫婦のみ世帯とその他世帯では「ほぼ毎日」の割合が最も高く、特にその他世帯では 63.7%となっています。

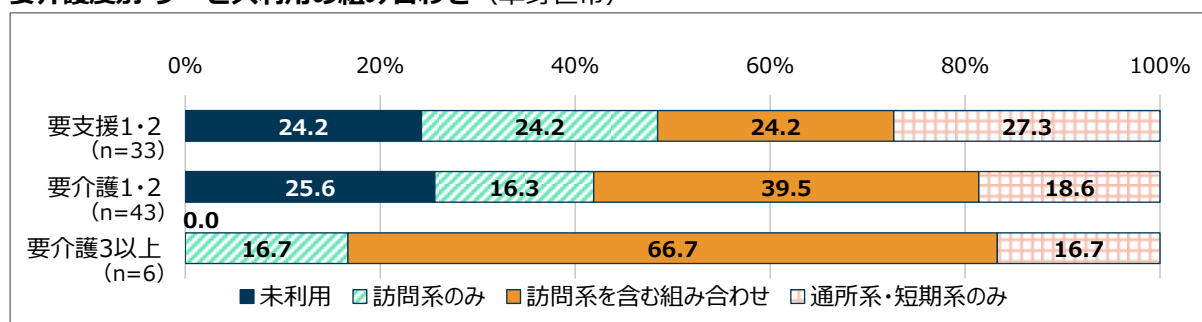
世帯類型別 家族等による介護の頻度



13. 要介護度別の世帯類型別サービス利用の組み合わせ

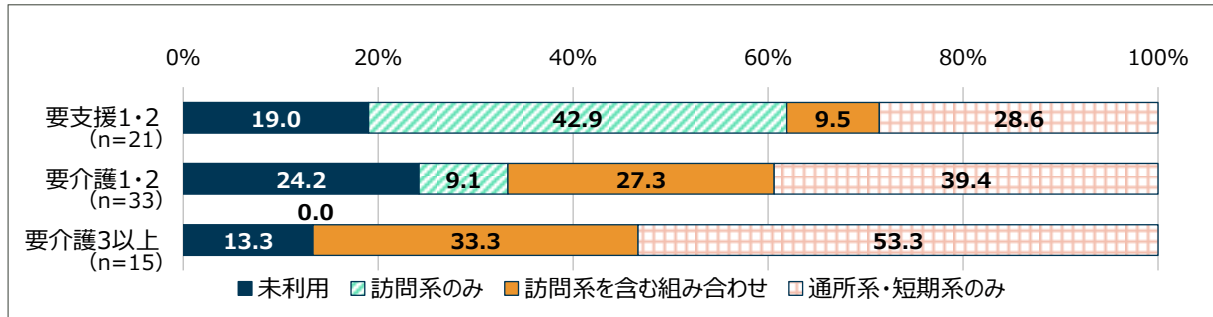
単身世帯のサービス利用の組み合わせについて、要介護度別にみると、要介護度の重度化に伴い「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなっています。

要介護度別 サービス利用の組み合わせ (単身世帯)



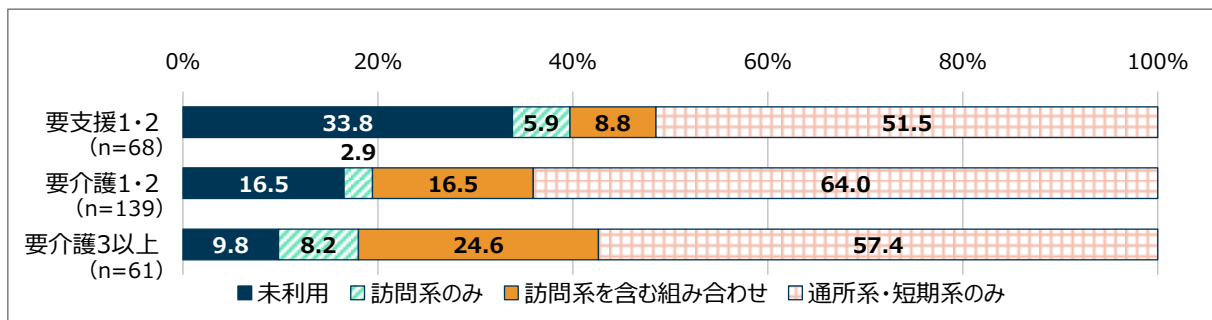
夫婦のみ世帯のサービス利用の組み合わせについて、要介護度別にみると、要介護度の重度化に伴い「通所系・短期系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなる傾向がみられます。

要介護度別 サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



その他世帯のサービス利用の組み合わせについて、要介護度別にみると、要介護度に関わらず「通所系・短期系のみ」の割合が最も高くなっていますが、要介護度の重度化に伴い「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなる傾向がみられます。

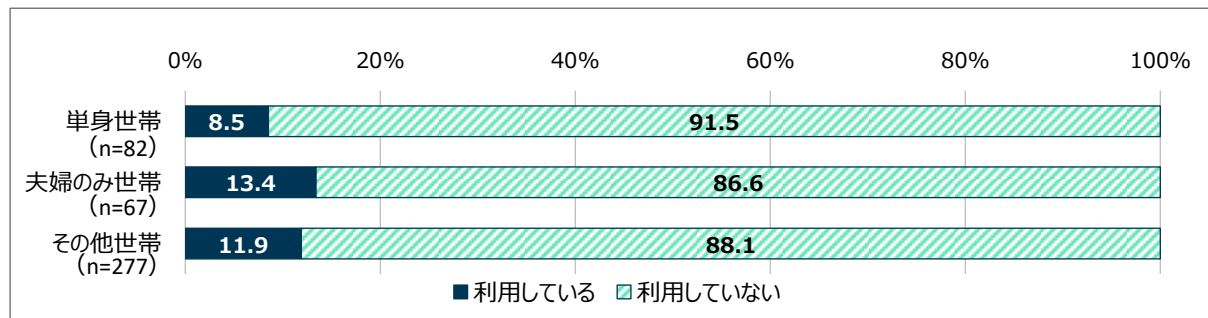
要介護度別 サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



14. 世帯類型別・要介護度別×訪問診療の利用の有無

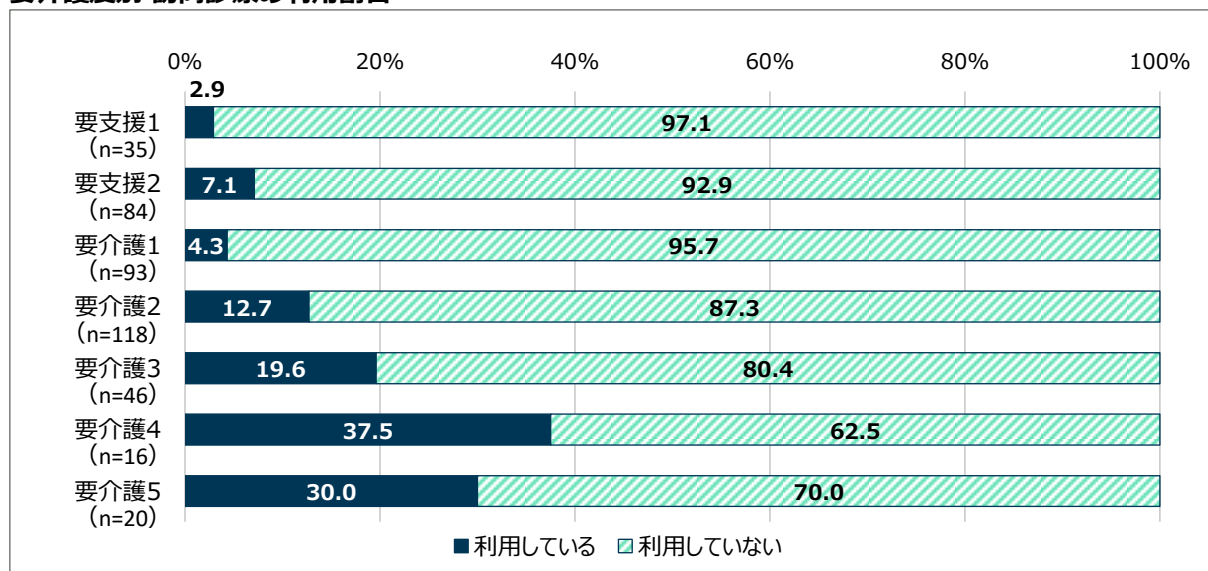
世帯類型別に訪問診療の利用の有無をみると、すべての世帯類型で「利用していない」の割合が80%以上となっていますが、単身世帯で「利用している」の割合がやや低くなっています。

世帯類型別・訪問診療の利用の有無



要介護度別に訪問診療の利用の有無をみると、要介護度の重度化に伴い「利用している」の割合が高くなる傾向がみられます。

要介護度別 訪問診療の利用割合



まとめ

在宅介護実態調査の目的

在宅生活の継続と、その家族等介護者の就労継続を実現するための基礎資料とすることを目的として実施しました。

【施設等検討の状況 P.1】

「検討中」「申請済み」の割合は、要介護度が高くなるにつれ、割合も高くなる結果となりました。

また、世帯の状況で「単身世帯」「夫婦のみ世帯」「その他世帯」では、単身世帯で「検討中」「申請済み」の割合が高い結果となりました。

【介護者が不安に感じる介護 P.2】

要支援 1, 2 では「外出の付き添い、送迎等」が最も高く、要介護 1, 2 及び要介護 3 以上では「認知症状への対応」が最も高い結果となっており、要介護度や身体状況に応じて不安に感じる内容が変化することが伺えました。

【要介護度別 主な介護者が行っている介護 P.3】

要支援 1, 2 では「その他家事（掃除、洗濯、買い物等）」が最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が高い結果となりました。

要介護 1, 2 では「その他家事（掃除、洗濯、買い物等）」が最も高く、次いで「食事の準備（調理等）」が高い結果となりました。

要介護 3 以上では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が最も高く、次いで「その他家事（掃除、洗濯、買い物等）」が高い結果となりました。

なお、多くの項目で要介護度が高くなるにあたり、行っている介護の割合も高くなる結果となりました。

【サービスの組み合わせ P.6】

要介護 3 以上の方で、訪問系サービス（訪問介護、訪問リハ等）とその他のサービス（デイサービス、ショートステイ等）の両方を利用している方は、施設入所の検討をしている割合が低い結果となり、上手くサービスを組み合わせることで、在宅での生活が継続できることが伺えました。

【就労継続と介護者が不安に感じる介護 P.9】

就労の継続が困難と感じている方が不安に感じる介護は、「認知種への対応」が最も高く、次いで「夜間の排泄」「外出の付き添い、送迎等」となっており、夜間や日中に介護手間が発生していることが伺えます。

〔世帯類型別×在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス P.13〕

単身世帯、夫婦のみ世帯、その他世帯で分類した結果、すべての世帯で「特になし」の割合が高く、現状は、現行のサービスで補われていることが伺えます。

「特になし」以外では、「外出同行（通院・買い物など）」が高く、次いで「買い物（宅配は含まない）」が高い結果となりました。

なお、ほとんどの項目で「夫婦のみ世帯」が必要と感じるサービスの割合が高く、「その他世帯」が低い結果となりました。

〔要介護度別×在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス P.15〕

要支援 1, 2、要介護 1, 2、要介護 3 以上で分類した結果、すべての介護度で「特になし」の割合が高い結果となりました。

「特になし」以外では、「外出同行（通院・買い物など）」が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー）」が高い結果となりました。

〔要介護度別の世帯類型別サービス利用の組み合わせ P.16〕

●単身世帯の場合

要支援 1, 2 では、「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」「通所系・短期系のみ」の割合に大きな違いはありませんでした。

要介護 1, 2 では、「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高く、要介護 3 以上では「訪問系を含む組み合わせ」の割合が非常に高い結果となりました。

●夫婦のみの世帯の場合

要支援 1, 2 では、「訪問系のみ」の割合が高く、要介護 1, 2 では、「通所系・短期系のみ」の割合が高く、要介護 3 以上でも「通所系・短期系のみ」の割合が高い結果となりました。

●その他世帯の場合

どの介護度においても「通所系・短期系のみ」の割合が高い結果となっていますが、要介護度が上がるにつれて「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなる結果となりました。

〔世帯類型別・訪問診療の利用の有無 P.18〕

どの世帯類型においても「利用していない」の割合が高い結果となっていますが、特に単身世帯で訪問診療を「利用している」の割合が低い結果となりました。

